

2019

授業計画

Syllabus

宝塚大学 看護学部
助産学専攻科



2019年度授業科目・担当者一覧表

看護学部 看護学科

I 基礎分野

<科目名>	<担当者名>	<ページ>
生きた人間学	加畑公一郎	19
統計学入門	宮阪 信次	20
論理の世界	原田 淳平	21
心理学への招待	岩城 晶子	22
情報心理学	岩城 晶子	23
ヒトと生物学	堀家なな緒	24
環境と生態	宮崎 英寿	25
化学	山口 三郎	26
キャリア教育 I	巽/浮田/八田/伊佐	27
人間関係概論	岩城 晶子	28
情報化と社会	宮阪 信次	29
メディア社会学	北垣 博美	30
ヘルスケア・マーケティング	川島 隆志	31
生活の中の法律	鈴木 眞澄	32
文芸論	河内 厚郎	33
文章表現法 I	加畑/北垣	34
ファッションアートサーヴェイ	横越谷勝雄	35
マスコミと報道	加畑公一郎	36
西洋美術の源流	森口まどか	37
伝統芸術表現研究 I (茶道と香道の理論と表現)	飯島 照仁	38
伝統芸術表現研究 II (生け花の理論と表現)	小林 秀加	39
伝統芸術表現研究 III (書芸術の理論と表現)	池田 方彩	40
英語 I (Reading 1)	毛利/浮田	41
英会話 I (Listening & Speaking 1)	池田/浮田	42
フランス語 I	渋谷 直樹	43
中国語会話 I	潘 建秀	44
ビジネス中国語	潘 建秀	45
イタリア語 I	中川 光	46
ドイツ語 I	神竹 道士	47
教育学概論	伊佐 夏実	48
発達心理学	小川 詩乃	49
ジェンダー論	木村 千尋	50
民俗学	鈴木 洋昭	51
医療ジャーナリズム論	佐々木 宏	52
英語 II (Writing 1)	毛利 郁子	53
英語 II (Writing 1)	池田美智子	54
英語 II (Writing 1)	永田 節子	55
英会話 II (Listening & Speaking 2)	永田 節子	56
英語 III (Reading 2)	永田 節子	57
英語 IV (Writing 2)	池田美智子	58

フランス語 II	渋谷 直樹	59
中国語会話 II	潘 山海	60
イタリア語 II	小松 寛明	61
ドイツ語 II	神竹 道士	62
文章表現法 II	加畑公一郎	63

II 専門基礎分野

医療概論 (生命倫理)	林 貴啓	65
医療行動科学	日高 庸晴	66
栄養と健康	坂元 美子	67
人体構造機能論 I (人体の構造と機能)	巽 圭太	68
人体構造機能論 II (人体の機能と生理)	山口 三郎	69
病態治療学 I (総論と主な疾患)	高原 史郎	70
生化学	堀家なな緒	71
感染と免疫	入江 章子	72
情報処理 I (入門編)	林 勇気	73
情報処理 II (応用編)	吉田 浩	74
癒しと芸術	中村 貞夫	75
病態治療学 II (内科系)	巽 圭太	76
病態治療学 III (外科系)	高原 史郎	77
薬理学	内海 美保	78
疫学	日高 庸晴	79
福祉情報技術	宮阪 信次	80
カウンセリング	伊藤 園子	81
社会保障と福祉	長谷川章子	82
医療と情報 (保健統計)	日高 庸晴	83
医療と経済	川島 隆志	84
生涯教育論	伊佐 夏実	85
運動と健康	幣 友香	86

III 専門分野

基礎看護学 I (概論)	峯岸由紀子	87
基礎看護学 II (コミュニケーション技術)	澤田 京子	88
基礎看護学 III (健康教育)	尾ノ井美由紀	89
基礎看護学 IV-1 (基礎看護技術)	瀬山/峯岸/平野	90
基礎看護学 IV-2 (基礎看護技術)	峯岸/平野/瀬山	91
基礎看護学 V (フィジカルアセスメント)	平野/瀬山/澤田	92
基礎看護学 VI (看護過程)	澤田/平野	93
成人看護学 I (概論)	中川ひろみ	94
成人看護学 II (急性期・回復期援助論)	成人看護学分野教員	95
成人看護学 III (慢性期・終末期援助論)	成人看護学分野教員	96
成人看護学 IV (援助方法論)	成人看護学分野教員	97
老年看護学 I (概論)	山本 裕子	98
老年看護学 II (疾病と障害)	山本/梅川	99

老年看護学Ⅲ（理論とアセスメント）	梅川／山本	100
老年看護学Ⅳ（症状とケアプラン）	梅川／山本	101
小児看護学Ⅰ（概論と保健）	合田 友美	102
小児看護学Ⅱ（主な疾患と看護）	合田 友美	103
小児看護学Ⅲ（健康障害のある小児と家族への援助）	西田／合田	104
小児看護学Ⅳ（小児のアセスメントとケア論）	西田／合田	105
母性看護学Ⅰ（概論）	母性看護学分野教員	106
母性看護学Ⅱ（女性生殖・周産期医療）	上山 直美	107
母性看護学Ⅲ（周産期アセスメント）	上山 直美	108
母性看護学Ⅳ（周産期ケアマネジメント）	上山／堀	109
精神看護学Ⅰ（精神保健）	八田 勘司	110
精神看護学Ⅱ（主な精神疾患と精神症状）	八田 勘司	111
精神看護学Ⅲ（施設における援助）	大江 真人	112
精神看護学Ⅳ（地域における援助）	美王 真紀	113
在宅看護論Ⅰ（概論）	尾ノ井／牧野	114
在宅看護論Ⅱ（訪問看護の展開方法）	尾ノ井／牧野	115
在宅看護論Ⅲ（在宅ケアの演習）	牧野 裕子	116
在宅看護論Ⅳ（地域ネットワーク論）	尾ノ井美由紀	117
看護と芸術Ⅰ－①（絵画療法）	木村 千尋	118
看護と芸術Ⅰ－②（音楽療法）	武田倫衣子	119
看護と芸術Ⅰ－③（笑い療法）	八田 勘司	120
看護と芸術Ⅰ－④（セラピーメイク）	西尾ゆうこ	121
看護と芸術Ⅰ－⑤（陶芸療法）	上田 順平	122
看護と芸術Ⅱ（治療環境とアメニティ）	森 合音	123
看護教育学	澤田 京子	124
看護マネジメント学Ⅰ（リスクマネジメント）	片山／荒瀧／小山	125
看護マネジメント学Ⅱ（看護管理）	松本／白井／澤田	126
地域リハビリテーション論	三好 弘之	127
移植コーディネーション論	高原 史郎	128
看護研究の方法	日高／上山／合田／美王	129
看護の探究（看護の統合）	看護学部専任教員	130
海外看護活動論	杉野 美礼	131

Ⅳ 専門分野（臨地実習科目）

基礎看護学実習Ⅰ（対象理解）	峯岸／平野／瀬山／澤田	133
基礎看護学実習Ⅱ（看護過程）	澤田／峯岸／平野／瀬山	134
成人看護学実習Ⅰ（急性期・回復期）	中川ひろみ	135
成人看護学実習Ⅱ（慢性期・終末期）	中川ひろみ	136
老年看護学実習	山本／梅川	137
小児看護学実習	合田／西田	138
母性看護学実習	上山／堀	139
精神看護学実習	八田／大江／美王	140
在宅看護論実習	尾ノ井／牧野	141
総合実習	看護系教員	142

助産学専攻科

Ⅰ 基礎助産学

<科目名>	<担当者名>	<ページ>
助産学概論	小神野雅子	155
周産期の生理と病態Ⅰ	藤田圭以子	156
周産期の生理と病態Ⅱ	堀 謙輔	157
母子の心理社会学	生島 博之	158

Ⅱ 助産診断・技術学

助産診断・技術学Ⅰ	小神野雅子	159
助産診断・技術学Ⅱ	松田 佳子	160
助産診断・技術学Ⅲ	中尾／松田	161
助産診断・技術学Ⅳ	松田 佳子	162
助産診断・技術学演習Ⅰ	小神野／松田／中尾	163
助産診断・技術学演習Ⅱ	小神野／松田／中尾	164

Ⅲ 地域母子保健論

地域母子保健論	中尾 幹子	165
---------	-------	-----

Ⅳ 助産管理

助産管理学	小神野雅子	167
-------	-------	-----

Ⅴ 助産学実習

助産学実習Ⅰ	小神野／松田／中尾	169
助産学実習Ⅱ	小神野／松田／中尾	170
助産学実習Ⅲ	小神野／松田／中尾	171
地域母子保健実習	小神野／松田／中尾	172

Ⅵ 助産学実践関連

助産学研究	松田 佳子	173
アーバンヘルス特論	日高 庸晴	174
アートとグリーンケア	坂下 裕子	175
アタッチメント・ヨガ	小神野雅子	176
アタッチメント・ベビーマッサージ	松田 佳子	177

看護学部

看護学科

2019年度 授業計画 (SYLLABUS)

目 次

看護学部

2019年度授業科目・担当者一覧表	1
卒業要件	11
教育課程 (2019年度入学生)	12
教育課程 (2012年度以降入学生)	14
実務家教員一覧	16
授業科目 (授業要項と授業内容)、凡例	18
Ⅰ 基礎分野	19
Ⅱ 専門基礎分野	65
Ⅲ 専門分野	87
Ⅳ 専門分野 (臨地実習科目)	133

看護学部の教育方針

教育目的

人間の生命や生活の質を真に理解できる感性豊かな人間性ととも、生命の尊厳と人権の尊重を基盤にした倫理観を備え、人々の健康問題の解決に向けて、保健・医療・福祉を統合した看護を実践できる能力の育成をめざす。さらにアート＝技を駆使し専門職として、看護学の発展に自律的・創造的に探求できる人材を育成する。

【教育目標】

- (1) 人間に対する豊かな感性と深い関心をもち、生命の尊厳に基づく倫理観を培い人間を尊重する態度を養う。
- (2) 個人や集団の健康問題を的確に判断し、生活の質の向上を目指した看護を創造的に実践できる能力を養う。
- (3) 看護専門職としての社会的責任を自覚し、他領域の専門職と連携・協力・調整して問題解決するためのリーダーシップを発揮する能力を養う。
- (4) 看護の実践・教育・研究の発展に資することのできる能力を養う。

「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

下記の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して入学させる。

1. 知識・理解

- ・入学後の就学に必要な基礎学力を有している。
- ・高等学校で履修する国語、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

2. 思考・判断

さまざまな問題に立ち向かい、物事を多面的かつ論理的に考察することができる。

3. 関心・意欲

人間の生命と健康に深い関心を持ち、積極的に社会に貢献する意欲がある。

4. 態度

豊かな感性と誠実な態度で、積極的に他者と関わることができる。

5. 意欲

看護学を主体的・創造的に学ぶ意欲を有している。

6. 表現

自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

「教育編成・実施方針」(カリキュラム・ポリシー)

教育理念、教育目標を基盤に打ち出したアドミッション・ポリシーを基盤に置き、ディプロマ・ポリシーに沿った能力を持つ学生の育成を目指したカリキュラム編成とするため、5つのカリキュラム・ポリシーを策定する。カリキュラムは、基礎分野、専門基礎分野、専門分野に大きく分類し、それぞれの科目内容の持つ教育的な性格、位置づけを明確にし、科目配列の順序性は、体系だった理解が容易になるための配列、時間数を配置する。

1. 基礎分野は、教養としての位置づけと、専門基礎科目を理解していく基盤とする。

人間を理解していく教育内容を「人間と科学」「人間と社会」「人間と文化」「人間と語学」に分類し科目内容を構築する。

加えて人間が生活をしていく中で必要な社会性、および学びを深めるために必要な能力として、読む・書く・聞く・話すなどの能力を身につけるために必要な教育内容とする。

2. 専門基礎分野は、専門科目の内容理解の基盤とする。

必要な教育内容を「人間の理解」「健康と疾病の理解」「関係の発展」に分類し、科目内容を構築する。人間を心身両面から理解するために必要な科目と社会や医療を幅広く理解する科目を配置する。さらに癒しと芸術について、人間の内なる自然力を回復させるアートの可能性について学ぶ科目を配置する。

3. 専門分野の教育内容の中心概念として、「看護実践力の育成」をおく。

専門分野は、「看護の基盤となる領域」「看護を発展させる領域」「看護を応用する領域」「看護の技を習得する領域」に分類する。「看護の基盤となる領域」では、看護実践の基盤となる科目を配置した。「看護を発展させる領域」では、対象の発達段階、看護の場、看護の機能の特徴から6領域(成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護論)に分け、それぞれの領域ごとに科目を構築する。「看護の技を習得する領域」では、8領域の看護学実習科目を配置する。「看護を応用する領域」では、学生が主体的にキャリア能力を持続的に育成し続ける学修力育成に必要な科目を配置した。

4. 学生が効率的に学修でき、成果が上がることを目指して、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の教育内容を精選したうえで、必要最小限の教育内容とする。

5. 本カリキュラムにより取得できる看護職のキャリアは、看護師国家試験受験資格である。

「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

宝塚大学看護学部看護学科は、所定の卒業要件単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力、資質を備えたうえで、看護学の知識・技術を用いて社会に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

1. 主体的行動力

・自らの目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

2. 表現力

- ・看護の対象者の声に耳を傾け、自分の考えを学修によって獲得した知識や技能を駆使して口頭や文章によって表現し、社会の規範を遵守したうえで的確に発信することができる。

3. 社会貢献力・コラボレーション力

- ・自己と異なる考えや多様な人と協働し、獲得した知識や技能を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

4. 課題発見力・課題解決能力

- ・看護現場にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を探求し、その成果を基に主体的に実践することができる。
- ・看護の発展に寄与できるよう、自己研鑽力と基礎的な研究能力を有する。

5. コミュニケーション力

- ・自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

6. 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）

- ・看護の対象となる人々を身体・心理・社会的な面から総合的に理解するため、豊かな教養と学問への探究心を備え、専門的な知識技術を修得している。
- ・アートを生かした癒しの看護が実践できる。
- ・多様な場における対象の看護課題に対し、科学的根拠に基づく判断ができ、解決するための実践ができる。
- ・人間の尊厳に基づく倫理観を有し、人々の多様な価値観を尊重する姿勢を身につけている。

シラバスについて

シラバスは学生に単位取得のための履修科目選択の情報を提供する履修科目一覧としての役割と、履修する個々の授業科目について科目の目標、授業内容などの授業計画を示すとともに、学生の教室外における予習などについての指示を与える役割があります。

大学では、単位制をとっており、1単位は、①教員が教室などで授業を行う時間、②学生が事前・事後に教室外において予習・復習を行う時間の合計で45時間の学修を要する教育内容をもって構成されています。(大学設置基準第21条)

授業方法	授業時間	教室外学習
講義・演習	15～30時間	30～15時間
実験・実習	30～45時間	15時間

科目の単位を取得するには、授業科目は、授業回数の3分の2以上出席していなければ受験資格が得られません。実習科目は5分の4以上の出席が無ければ単位取得資格が得られません。「Student Guide Book 2019」の履修方法にも目を通して受験資格、単位取得に必要な条件を確認してください。

皆さんは、自分の将来に向け目標を掲げていることでしょう。それぞれの進路に合わせ、履修計画を立てる上で、シラバスを十分に活用してください。

2019年4月1日

宝塚大学
看護学部

2019年度 学年暦

宝塚大学 看護学部 (大阪梅田キャンパス)

		日	月	火	水	木	金	土	備 考		日	月	火	水	木	金	土	備 考	
2019年 4月			1	2	3	4	5	6	4/3 入学式 4/1~4 オリエンテーション・ガイダンス期間 4/5 前期授業開始 前期履修登録 (4/4まで) 4/12~4/15 履修登録修正期間	10月			1	2	3	4	5	10/4~7 履修登録修正期間 臨地実習 (10月~3月) 3年次生 10/14 平常授業実施	
	⑦	8	9	10	11	12	13	⑥			7	8	9	10	11	12			
	⑭	15	16	17	18	19	20	⑬			⑭	15	16	17	18	19			
	⑳	21	22	23	24	25	26	27			⑳	21	⑳	23	24	25	26		
	㉘	㉙	㉚					㉗			28	29	30	31					
5月				①	②	③	④	臨地実習 (5月~7月) 4年次生 5/6 平常授業実施 5/23 創立記念日 平常授業実施	11月						1	2	11/4 平常授業実施 11/23 平常授業実施		
	⑤	⑥	7	8	9	10	11			③	④	5	6	7	8	9			
	⑫	13	14	15	16	17	18			⑩	11	12	13	14	15	16			
	⑰	20	21	22	23	24	25			⑰	18	19	20	21	22	㉓			
	㉖	27	28	29	30	31				㉔	25	26	27	28	29	30			
6月							1	6月	12月	①	2	3	4	5	6	7	12/27 補講期間 年末年始休業 (12/28~1/5)		
	②	3	4	5	6	7	8			⑧	9	10	11	12	13	14			
	⑨	10	11	12	13	14	15			⑮	16	17	18	19	20	21			
	⑯	17	18	19	20	21	22			㉒	23	24	25	26	27	(28)			
	㉓	24	25	26	27	28	29			㉙	(30)	(31)							
	㉚																		
7月		1	2	3	4	5	6	総合実習 (7月~8月) 4年次生 7/15 平常授業実施 7/25 前期授業終了 7/26~27 補講期間 7/29~8/3 前期定期試験	2020年 1月				①	(2)	(3)	(4)	1/21 後期授業終了 1/22 4年次生後期定期試験 1/16~22 補講期間 1/23~1/29 後期定期試験 1/30~31 4年次生 追・再試験		
	⑦	8	9	10	11	12	13			⑤	6	7	8	9	10	11			
	⑭	⑮	16	17	18	19	20			⑫	⑬	14	15	16	17	18			
	⑰	22	23	24	25	26	27			⑰	20	21	22	23	24	25			
	㉘	29	30	31						㉖	27	28	29	30	31				
8月					1	2	3	夏季休業 (8/13~16) 8/20~8/24 前期追再試験 基礎看護学実習 I (8月~9月) 1年次生	2月							1	2/12~2/15 1・2年次生 追・再試験 基礎看護学実習 II (2月~3月) 2年次生		
	④	5	6	7	8	9	10			②	3	4	5	6	7	8			
	⑪	⑫	(13)	(14)	(15)	(16)	17			⑨	10	⑪	12	13	14	15			
	⑱	19	20	21	22	23	24			⑯	17	18	19	20	21	22			
	㉕	26	27	28	29	30	31			㉓	㉔	25	26	27	28	29			
9月	①	2	3	4	5	6	7	9/21~23 宝翔祭期間 (予定) うち1日宝翔祭 (予定) 9/24 9月卒業者学位記授与式 (予定) 9/25 後期ガイダンス 9/26 後期授業開始 後期履修登録 (9/25まで)	3月	①	2	3	4	5	6	7	3/21 学位記授与式 (予定)		
	⑧	9	10	11	12	13	14			⑧	9	10	11	12	13	14			
	⑮	⑯	17	18	19	20	21			⑮	16	17	18	19	⑳	21			
	㉒	㉓	24	25	26	27	28			㉒	23	24	25	26	27	28			
	㉙	30								㉙	30	31							

	日	月	火	水	木	金	土
前期	15	15	15	15	15	15	15
後期	15	15	15	15	15	15	15

- …授業日
- …定期試験
- 印 …祝日 (平常授業実施日)
- 印 …日曜・祝日 (休業日)
- () …大学施設閉館日

卒業要件

本学を卒業するためには4年以上在学し、下記の単位を取得しなければならない。

看護学部
看護学科

2012年度以降入学生

基礎分野	28単位	以上
専門基礎分野	29単位	以上
専門分野	71単位	以上
計	128単位	以上

科目ナンバリングについて

体系的履修の指針となるように、全ての授業科目にアルファベットと5桁の数字からなる科目ナンバリングを付番しています。科目ナンバリングは以下の規則によって付番されています。

科目領域	レベル	科目形式	科目番号(連番)
KGE=基礎分野 KSB=専門基礎分野 KSP=専門分野	1=1年次レベル 2=2年次レベル 3=3年次レベル 4=4年次レベル	1=必修 2=選択必修 3=選択	1=講義 2=講義・演習 3=演習 4=実習
			01~99

アクティブラーニングの種別について

アクティブラーニングの要素を含む手法を取り入れる授業回については、以下のアクティブラーニングの種別を数字で授業計画AL欄に載せています。

- 1 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業
- 2 ディスカッション、ディベート
- 3 グループワーク
- 4 プレゼンテーション
- 5 実習、フィールドワーク
- 6 その他(上記1~5に当てはまらないアクティブラーニング)

看護学部 看護学科 教育課程 【2019年度入学生】

区分	授業科目	科目ナンバ	配当年次	単位数		時間数	備考		
				必修	選択		必修	選択	卒業要件
基礎分野	人間と科学	生きた人間学	KGE11101	1後	2	30	必修6単位	選択8単位以上 ※選択必修科目群より 選択することも可	必修16単位 選択必修4単位以上 選択8単位以上 合計28単位以上
		統計学入門	KGE11201	1後	2	30			
		論理の世界	KGE13101	1前	2	30			
		心理学への招待	KGE13102	1前	2	30			
		情報心理学	KGE13103	1前	2	30			
		ヒトと生物学	KGE11102	1前	2	30			
		環境と生態	KGE13104	1前	2	30			
	化学	KGE13105	1前	2	30				
	人間と社会	キャリア教育Ⅰ	KGE11202	1前	1	30	必修2単位		
		キャリア教育Ⅱ	KGE11203	2前	1	30			
		人間関係概論	KGE13106	1前	2	30			
		教育学概論	KGE23101	2前	2	30			
		発達心理学	KGE23102	2前	2	30			
		ジェンダー論	KGE23103	2後	2	30			
		情報化と社会	KGE13107	1前	2	30			
		民俗学	KGE23104	2後	2	30			
		メディア社会学	KGE13108	1後	2	30			
		医療ジャーナリズム論	KGE23105	2前	2	30			
	ヘルスケア・マーケティング	KGE13109	1前	2	30				
	生活の中の法律	KGE13110	1前	2	30				
	人間と文化	文芸論	KGE13111	1後	2	30	必修2単位		
		文章表現法Ⅰ	KGE11103	1前	2	30			
		文章表現法Ⅱ	KGE33101	3前	2	30			
		ファッションアートサーヴェイ	KGE13112	1前	2	30			
		マスコミと報道	KGE13113	1前	2	30			
		西洋美術の源流	KGE13114	1前	2	30			
		伝統芸術表現研究Ⅰ（茶道と香道の理論と表現）	KGE12201	1前	2	30			
		伝統芸術表現研究Ⅱ（生け花の理論と表現）	KGE12202	1前	2	30			
	伝統芸術表現研究Ⅲ（書芸術の理論と表現）	KGE12203	1前	2	30				
	人間と語学	英語Ⅰ（Reading1）	KGE11301	1通	2	60	必修6単位		
		英語Ⅱ（Writing1）	KGE21301	2通	2	60			
		英会話Ⅰ（Listening&Speaking1）	KGE11302	1通	2	60			
		英会話Ⅱ（Listening&Speaking2）	KGE22301	2通	2	60			
英語Ⅲ（Reading2）		KGE22302	2通	2	60	選択必修2単位			
英語Ⅳ（Writing2）		KGE22303	2通	2	60				
フランス語Ⅰ		KGE12301	1通	2	60				
フランス語Ⅱ		KGE22304	2通	2	60				
中国語会話Ⅰ		KGE12302	1通	2	60				
中国語会話Ⅱ		KGE22305	2通	2	60				
ビジネス中国語		KGE12303	1通	2	60				
イタリア語Ⅰ		KGE12304	1通	2	60				
イタリア語Ⅱ	KGE22306	2通	2	60					
ドイツ語Ⅰ	KGE12305	1通	2	60					
ドイツ語Ⅱ	KGE22307	2通	2	60					
専門基礎分野	人間の理解	医療概論（生命倫理）	KSB11101	1後	2	30	必修6単位		
		医療行動科学	KSB13101	1後	2	30			
		生涯教育論	KSB23101	2後	2	30			
		癒しと芸術	KSB21101	2前	2	30			
		栄養と健康	KSB11102	1後	2	30			
	健康と疾病の理解	人体構造機能論Ⅰ（人体の構造と機能）	KSB11103	1前	2	60	必修14単位		
		人体構造機能論Ⅱ（人体の機能と生理）	KSB11104	1後	1	30			
		病態治療学Ⅰ（総論と主な疾患）	KSB11105	1後	1	30			
		病態治療学Ⅱ（内科系）	KSB11106	1後2前	2	60			
		病態治療学Ⅲ（外科系）	KSB21102	2前	1	30			
		生化学	KSB11107	1後	1	30			
		薬理学	KSB21103	2前	1	30			
		感染と免疫	KSB11108	1後	1	30			
		疫学	KSB21104	2後	2	30			
		医療と情報（保健統計）	KSB31201	3前	2	30			
	運動と健康	KSB33201	3前	2	30				
	関係の発展	情報処理Ⅰ（入門編）	KSB11201	1前	1	30	必修3単位		
		情報処理Ⅱ（応用編）	KSB13201	1後	1	30			
福祉情報技術		KSB23201	2前	2	30				
医療と経済		KSB33101	3前	2	30				
カウンセリング		KSB23102	2前	1	30				
社会保障と福祉	KSB21105	2後	2	30					

通 = 通年科目

看護学部 看護学科 教育課程 【2019年度入学生】

区分	授業科目	科目ナンバ	配当年次	単位数		時間数	備考						
				必修	選択		必修	選択	卒業要件				
看護の基礎となる領域	基礎看護学Ⅰ(概論)	KSP11101	1前	1		30	必修8単位						
	基礎看護学Ⅱ(コミュニケーション技術)	KSP11201	1前	1		30							
	基礎看護学Ⅲ(健康教育)	KSP21201	2後	1		30							
	基礎看護学Ⅳ-1(基礎看護技術)	KSP11202	1前	1		30							
	基礎看護学Ⅳ-2(基礎看護技術)	KSP11203	1後	2		60							
	基礎看護学Ⅴ(フィジカルアセスメント)	KSP21202	2前	1		30							
	基礎看護学Ⅵ(看護過程)	KSP21203	2前	1		30							
看護を発展させる領域	成人看護学Ⅰ(概論)	KSP11102	1後	1		30	必修26単位						
	成人看護学Ⅱ(急性期・回復期援助論)	KSP21204	2後	2		60							
	成人看護学Ⅲ(慢性期・終末期援助論)	KSP21205	2後	1		30							
	成人看護学Ⅳ(援助方法論)	KSP31301	3前	2		60							
	老年看護学Ⅰ(概論)	KSP21101	2前	1		30							
	老年看護学Ⅱ(疾病と障害)	KSP21102	2後	1		15							
	老年看護学Ⅲ(理論とアセスメント)	KSP21206	2前	1		30							
	老年看護学Ⅳ(症状とケアプラン)	KSP31201	3前	1		30							
	小児看護学Ⅰ(概論と保健)	KSP21103	2前	1		30							
	小児看護学Ⅱ(主な疾患と看護)	KSP21104	2後	1		15							
	小児看護学Ⅲ(健康障害のある小児と家族への援助)	KSP21207	2後	1		30							
	小児看護学Ⅳ(小児のアセスメントとケア論)	KSP31302	3前	1		30							
	母性看護学Ⅰ(概論)	KSP21105	2前	1		30							
	母性看護学Ⅱ(女性生殖・周産期医療)	KSP21106	2後	1		15							
	母性看護学Ⅲ(周産期アセスメント)	KSP21208	2後	1		30							
	母性看護学Ⅳ(周産期ケアマネジメント)	KSP31202	3前	1		30							
	精神看護学Ⅰ(精神保健)	KSP21107	2前	1		30							
	精神看護学Ⅱ(主な精神疾患と精神症状)	KSP21108	2後	1		15							
	精神看護学Ⅲ(施設における援助)	KSP21209	2後	1		30							
	精神看護学Ⅳ(地域における援助)	KSP31101	3前	1		30							
在宅看護論	在宅看護論Ⅰ(概論)	KSP21109	2前	1		15	必修63単位 選択必修8単位以上 合計71単位以上						
	在宅看護論Ⅱ(訪問看護の展開方法)	KSP21210	2後	1		15							
	在宅看護論Ⅲ(在宅ケアの演習)	KSP31303	3前	1		30							
	在宅看護論Ⅳ(地域ネットワーク論)	KSP31203	3前	1		30							
	看護を応用する領域	看護と芸術Ⅰ-①(絵画療法)	KSP32201	3前		2				30	選択必修4単位以上		
		看護と芸術Ⅰ-②(音楽療法)	KSP32202	3前		2				30			
		看護と芸術Ⅰ-③(笑い療法)	KSP32203	3前		2				30			
		看護と芸術Ⅰ-④(セラピーメイク)	KSP32204	3前		2				30			
看護と芸術Ⅰ-⑤(陶芸療法)		KSP32205	3前		2	30	必修2単位						
看護と芸術Ⅱ(治療環境とアメニティ)		KSP41101	4後	2		30							
看護教育学		KSP42101	4後		1	15	必修1単位						
海外看護活動論		KSP42102	4後		2	30							
看護マネジメント学Ⅰ(リスクマネジメント)		KSP31102	3前	1		30	選択必修4単位以上						
看護マネジメント学Ⅱ(看護管理)		KSP42103	4後		2	30							
地域リハビリテーション論		KSP32101	3前		2	30	必修3単位						
移植コーディネーション論		KSP42104	4後		2	30							
看護研究の方法	KSP31204	3前	1		30	必修3単位							
看護の探究(看護の統合)	KSP41201	4後	2		60								
看護の技を修得する領域	基礎看護学実習Ⅰ(対象理解)	KSP11401	1前	1		45	必修23単位						
	基礎看護学実習Ⅱ(看護過程)	KSP21401	2後	2		90							
	成人看護学実習Ⅰ(急性期・回復期)	KSP31401	3後4前	3		135							
	成人看護学実習Ⅱ(慢性期・終末期)	KSP31402	3後4前	3		135							
	老年看護学実習	KSP31403	3後4前	4		180							
	小児看護学実習	KSP31404	3後4前	2		90							
	母性看護学実習	KSP31405	3後4前	2		90							
	精神看護学実習	KSP31406	3後4前	2		90							
	在宅看護論実習	KSP31407	3後4前	2		90							
	総合実習	KSP41401	4前	2		90							

看護学部 看護学科 教育課程 【2012年度以降入学生】

区分	授業科目	科目ナンバ	配当年次	単位数		時間数	備考			
				必修	選択		必修	選択	卒業要件	
基礎分野	人間と科学	生きた人間学	KGE11101	1後	2		30	必修6単位	選択10単位以上 ※選択必修科目群より選択することも可	必修14単位 選択必修4単位以上 選択10単位以上 合計28単位以上
		統計学入門	KGE11201	1後	2		30			
		論理の世界	KGE13101	1前		2	30			
		心理学への招待	KGE13102	1前		2	30			
		情報心理学	KGE13103	1前		2	30			
		ヒトと生物学	KGE11102	1前	2		30			
		環境と生態	KGE13104	1前		2	30			
		化学	KGE13105	1前		2	30			
	人間と社会	人間関係概論	KGE13106	1前		2	30	-		
		教育学概論	KGE23101	2前		2	30			
		発達心理学	KGE23102	2前		2	30			
		ジェンダー論	KGE23103	2後		2	30			
		情報化と社会	KGE13107	1前		2	30			
		民俗学	KGE23104	2後		2	30			
		メディア社会学	KGE13108	1後		2	30			
		医療ジャーナリズム論	KGE23105	2前		2	30			
		ヘルスケア・マーケティング	KGE13109	1前		2	30			
		生活の中の法律	KGE13110	1前		2	30			
	人間と文化	文芸論	KGE13111	1後		2	30	必修2単位		
		文章表現法Ⅰ	KGE11103	1前	2		30			
		文章表現法Ⅱ	KGE33101	3前		2	30			
		ファッションアートサーヴェイ	KGE13112	1前		2	30			
		マスコミと報道	KGE13113	1前		2	30			
		西洋美術の源流	KGE13114	1前		2	30			
		伝統芸術表現研究Ⅰ（茶道と香道の理論と表現）	KGE12201	1前		2	30			
		伝統芸術表現研究Ⅱ（生け花の理論と表現）	KGE12202	1前		2	30			
	伝統芸術表現研究Ⅲ（書芸術の理論と表現）	KGE12203	1前		2	30				
	人間と語学	英語Ⅰ（Reading1）	KGE11301	1通	2		60	必修6単位		
		英語Ⅱ（Writing1）	KGE21301	2通	2		60			
		英会話Ⅰ（Listening&Speaking1）	KGE11302	1通	2		60			
		英会話Ⅱ（Listening&Speaking2）	KGE22301	2通		2	60			
		英語Ⅲ（Reading2）	KGE22302	2通		2	60	選択必修2単位		
		英語Ⅳ（Writing2）	KGE22303	2通		2	60			
フランス語Ⅰ		KGE12301	1通		2	60				
フランス語Ⅱ		KGE22304	2通		2	60				
中国語会話Ⅰ		KGE12302	1通		2	60				
中国語会話Ⅱ		KGE22305	2通		2	60				
ビジネス中国語		KGE12303	1通		2	60				
イタリア語Ⅰ		KGE12304	1通		2	60				
イタリア語Ⅱ		KGE22306	2通		2	60				
ドイツ語Ⅰ		KGE12305	1通		2	60				
ドイツ語Ⅱ	KGE22307	2通		2	60					
専門基礎分野	人間の理解	医療概論（生命倫理）	KSB11101	1後	2		30	必修6単位		
		医療行動科学	KSB13101	1後		2	30			
		生涯教育論	KSB23101	2後		2	30			
		癒しと芸術	KSB21101	2前	2		30			
		栄養と健康	KSB11102	1後	2		30			
	健康と疾病の理解	人体構造機能論Ⅰ（人体の構造と機能）	KSB11103	1前	2		60	必修14単位		
		人体構造機能論Ⅱ（人体の機能と生理）	KSB11104	1後	1		30			
		病態治療学Ⅰ（総論と主な疾患）	KSB11105	1後	1		30			
		病態治療学Ⅱ（内科系）	KSB11106	1後2前	2		60			
		病態治療学Ⅲ（外科系）	KSB21102	2前	1		30			
		生化学	KSB11107	1後	1		30			
		薬理学	KSB21103	2前	1		30			
		感染と免疫	KSB11108	1後	1		30			
		疫学	KSB21104	2後	2		30			
		医療と情報（保健統計）	KSB31201	3前	2		30			
		運動と健康	KSB33201	3前		2	30			
		関係の発展	情報処理Ⅰ（入門編）	KSB11201	1前	1			30	必修3単位
			情報処理Ⅱ（応用編）	KSB13201	1後		1		30	
	福祉情報技術		KSB23201	2前		2	30			
	医療と経済		KSB33101	3前		2	30			
カウンセリング	KSB23102		2前		1	30				
社会保障と福祉	KSB21105	2後	2		30					

通 = 通年科目

看護学部 看護学科 教育課程 【2012年度以降入学生】

区分	授業科目	科目ナンバ	配当年次	単位数		時間数	備考					
				必修	選択		必修	選択	卒業要件			
看護の基礎となる領域	基礎看護学Ⅰ(概論)	KSP11101	1前	1		30	必修8単位					
	基礎看護学Ⅱ(コミュニケーション技術)	KSP11201	1前	1		30						
	基礎看護学Ⅲ(健康教育)	KSP21201	2後	1		30						
	基礎看護学Ⅳ-1(基礎看護技術)	KSP11202	1前	1		30						
	基礎看護学Ⅳ-2(基礎看護技術)	KSP11203	1後	2		60						
	基礎看護学Ⅴ(フィジカルアセスメント)	KSP21202	2前	1		30						
	基礎看護学Ⅵ(看護過程)	KSP21203	2前	1		30						
看護を発展させる領域	成人看護学Ⅰ(概論)	KSP11102	1後	1		30	必修26単位					
	成人看護学Ⅱ(急性期・回復期援助論)	KSP21204	2後	2		60						
	成人看護学Ⅲ(慢性期・終末期援助論)	KSP21205	2後	1		30						
	成人看護学Ⅳ(援助方法論)	KSP31301	3前	2		60						
	老年看護学Ⅰ(概論)	KSP21101	2前	1		30						
	老年看護学Ⅱ(疾病と障害)	KSP21102	2後	1		15						
	老年看護学Ⅲ(理論とアセスメント)	KSP21206	2前	1		30						
	老年看護学Ⅳ(症状とケアプラン)	KSP31201	3前	1		30						
	小児看護学Ⅰ(概論と保健)	KSP21103	2前	1		30						
	小児看護学Ⅱ(主な疾患と看護)	KSP21104	2後	1		15						
	小児看護学Ⅲ(健康障害のある小児と家族への援助)	KSP21207	2後	1		30						
	小児看護学Ⅳ(小児のアセスメントとケア論)	KSP31302	3前	1		30						
	母性看護学Ⅰ(概論)	KSP21105	2前	1		30						
	母性看護学Ⅱ(女性生殖・周産期医療)	KSP21106	2後	1		15						
	母性看護学Ⅲ(周産期アセスメント)	KSP21208	2後	1		30						
	母性看護学Ⅳ(周産期ケアマネジメント)	KSP31202	3前	1		30						
	精神看護学Ⅰ(精神保健)	KSP21107	2前	1		30						
	精神看護学Ⅱ(主な精神疾患と精神症状)	KSP21108	2後	1		15						
	精神看護学Ⅲ(施設における援助)	KSP21209	2後	1		30						
	精神看護学Ⅳ(地域における援助)	KSP31101	3前	1		30						
在宅看護論	在宅看護論Ⅰ(概論)	KSP21109	2前	1		15	必修63単位 選択必修8単位以上 合計71単位以上					
	在宅看護論Ⅱ(訪問看護の展開方法)	KSP21210	2後	1		15						
	在宅看護論Ⅲ(在宅ケアの演習)	KSP31303	3前	1		30						
	在宅看護論Ⅳ(地域ネットワーク論)	KSP31203	3前	1		30						
	看護と芸術Ⅰ-①(絵画療法)	KSP32201	3前		2	30				選択必修 4単位以上		
	看護と芸術Ⅰ-②(音楽療法)	KSP32202	3前		2	30						
	看護と芸術Ⅰ-③(笑い療法)	KSP32203	3前		2	30						
	看護と芸術Ⅰ-④(セラピーメイク)	KSP32204	3前		2	30				必修2単位		
看護と芸術Ⅰ-⑤(陶芸療法)	KSP32205	3前		2	30							
看護と芸術Ⅱ(治療環境とアメニティ)	KSP41101	4後	2		30	必修1単位						
看護教育学	KSP42101	4後		1	15							
海外看護活動論	KSP42102	4後		2	30	選択必修 4単位以上						
看護マネジメント学Ⅰ(リスクマネジメント)	KSP31102	3前	1		30							
看護マネジメント学Ⅱ(看護管理)	KSP42103	4後		2	30	必修3単位						
地域リハビリテーション論	KSP32101	3前		2	30							
移植コーディネーション論	KSP42104	4後		2	30							
看護研究の方法	KSP31204	3前	1		30	必修23単位						
看護の探究(看護の統合)	KSP41201	4後	2		60							
看護の技を習得する領域	基礎看護学実習Ⅰ(対象理解)	KSP11401	1前	1		45	必修23単位					
	基礎看護学実習Ⅱ(看護過程)	KSP21401	2後	2		90						
	成人看護学実習Ⅰ(急性期・回復期)	KSP31401	3後4前	3		135						
	成人看護学実習Ⅱ(慢性期・終末期)	KSP31402	3後4前	3		135						
	老年看護学実習	KSP31403	3後4前	4		180						
	小児看護学実習	KSP31404	3後4前	2		90						
	母性看護学実習	KSP31405	3後4前	2		90						
	精神看護学実習	KSP31406	3後4前	2		90						
	在宅看護論実習	KSP31407	3後4前	2		90						
総合実習	KSP41401	4前	2		90							

実務家教員一覧

担当教員	専任／非常勤	2019授業科目	科目ナンバー	必修／選択	単位数	時間数	実務経験の概要	実務経験の反映内容
峯岸由紀子	専任	基礎看護学Ⅰ (概論)	KSP11101	必修	1	30	総合病院で看護師として内科での臨床経験がある。また、大学における健康管理室で学生・教職員の傷病の発生時の対応や健康診断関係の業務に従事した。	臨床での経験を踏まえて、看護実践の基盤となる基本的な考え方や、看護援助の基本的な方法である自然治癒力を引き出す「日常生活援助」について具体的な技術指導を行う。
		基礎看護学Ⅳ－1 (基礎看護技術)	KSP11202	必修	1	30		
		基礎看護学Ⅳ－2 (基礎看護技術)	KSP11203	必修	2	60		
澤田 京子	専任	基礎看護学Ⅱ (コミュニケーション技術)	KSP11201	必修	1	30	総合病院で看護師として内科と外科での臨床経験がある。また、企業での健康管理室での健康教育に携わった。	臨床での事例を踏まえて、コミュニケーションに必要なポイントを教授する。また臨床で日常的に行われているフィジカルアセスメント・看護過程の展開技術や事例提供を行う。
		基礎看護学Ⅴ (フィジカルアセスメント)	KSP21202	必修	1	30		
		基礎看護学Ⅵ (看護過程)	KSP21203	必修	1	30		
尾ノ井美由紀	専任	基礎看護学Ⅲ (健康教育)	KSP21201	必修	1	30	総合病院で看護師として手術室、脳外科病棟と一般内科病棟で5年の臨床経験がある。また、保健所で保健師13年の経験がある。	病院入院中の療養者への臨床看護から退院へと、地域移行支援における看護師の役割から在宅療養中の本人及び家族への看護を教授する。また、疾病から健康の維持・増進と健康段階に合わせた看護提供の必要性を教授する。
		在宅看護論Ⅰ (概論)	KSP21109	必修	1	15		
		在宅看護論Ⅱ (訪問看護の展開方法)	KSP21210	必修	1	15		
		在宅看護論Ⅳ (地域ネットワーク論)	KSP31203	必修	1	30		
瀬山由美子	専任	基礎看護学Ⅳ－1 (基礎看護技術)	KSP11202	必修	1	30	総合病院で看護師として内科と外科での臨床経験がある。また、企業での健康管理室での健康教育に携わった。	臨床での事例を踏まえて、コミュニケーションに必要なポイントを教授する。また臨床で日常的に行われているフィジカルアセスメント・看護過程の展開技術や事例提供を行う。
		基礎看護学Ⅳ－2 (基礎看護技術)	KSP11203	必修	2	60		
		基礎看護学Ⅴ (フィジカルアセスメント)	KSP21202	必修	1	30		
平野加代子	専任	基礎看護学Ⅳ－1 (基礎看護技術)	KSP11202	必修	1	30	総合病院で看護師/助産師として急性期病棟での臨床経験がある。	臨床での事例を踏まえて基礎看護技術を教授する。また臨床で日常的に行われているフィジカルアセスメント・看護過程の展開技術や事例提供を行う。
		基礎看護学Ⅳ－2 (基礎看護技術)	KSP11203	必修	2	60		
		基礎看護学Ⅴ (フィジカルアセスメント)	KSP21202	必修	1	30		
		基礎看護学Ⅵ (看護過程)	KSP21203	必修	1	30		
中川ひろみ	専任	成人看護学Ⅰ (概論)	KSP11102	必修	1	30	大学病院で看護師、認定看護師、看護師長として内科と外科、集中治療室・救急部での臨床経験がある。成人期にある人々を対象とした看護実践と教育、指導、研究に携わってきた。	健康障害を持つ急性期、慢性期、終末期にある成人期の人々への看護について、臨床での事例を踏まえて、問題解決のために必要な概念や理論を用いて、看護のポイントを教授する。
山本 裕子	専任	老年看護学Ⅰ (概論)	KSP21101	必修	1	30	看護師として、総合病院のICU病棟と消化器外科病棟における病院看護および介護老人保健施設において中間施設看護の経験を有する。	実践例を通して、高齢者の多様性に則した対象者把握・アセスメント・看護援助の方法に関する思考過程を育成する。加えて、認知症高齢者のBPSDへの対応などについて具体的な看護援助を教授する。
		老年看護学Ⅱ (疾病と障害)	KSP21102	必修	1	15		
		老年看護学Ⅲ (理論とアセスメント)	KSP21206	必修	1	30		
		老年看護学Ⅳ (症状とケアプラン)	KSP31201	必修	1	30		

担当教員	専任／ 非常勤	2019授業科目	科目ナンバー	必修/ 選択	単 位 数	時 間 数	実務経験の概要	実務経験の反映内容
梅川 奈々	専任	老年看護学Ⅱ (疾病と障害)	KSP21102	必修	1	15	看護師として、総合病院の脳神経外科、整形外科等での臨床経験がある。入院患者のうち、高齢者がほぼ9割を占めていた。	高齢者の特徴について理解できるように、自己の実務経験を踏まえて教授している。特に、高齢者に多い疾患、認知症などを踏まえたアセスメントの視点について教授している。
		老年看護学Ⅲ (理論とアセスメント)	KSP21206	必修	1	30		
		老年看護学Ⅳ (症状とケアプラン)	KSP31201	必修	1	30		
合田 友美	専任	小児看護学Ⅰ (概論と保健)	KSP21103	必修	1	30	大学病院に勤務し、消化器疾患、内分泌疾患、神経疾患等の子どもの看護を担当。また、同院健康診断センターに勤務し、高校生、大学生の健康管理に携わった。	臨床での経験をもとに、乳児から思春期の各期の子どもの成長・発達の特徴をふまえた健康の保持、増進、回復に向けた看護援助を紹介、教授する。
		小児看護学Ⅱ (主な疾患と看護)	KSP21104	必修	1	15		
		小児看護学Ⅲ (健康障害のある小児と家族への援助)	KSP21207	必修	1	30		
		小児看護学Ⅳ (小児のアセスメントとケア論)	KSP31302	必修	1	30		
西田 千夏	専任	小児看護学Ⅲ (健康障害のある小児と家族への援助)	KSP21207	必修	1	30	小児専門病院での看護師として、主に長期療養を必要とする小児と家族への看護を実践してきた。NICUからの継続看護、在宅療養に向けた支援に関する実務経験も有している。	健康障害や療養環境が小児と家族に及ぼす影響、事例をアセスメントし問題解決に繋げる方法、および小児看護の基本的技術に関して、実務経験を基に教授する。
		小児看護学Ⅳ (小児のアセスメントとケア論)	KSP31302	必修	1	30		
上山 直美	専任	母性看護学Ⅱ (女性生殖・周産期医療)	KSP21106	必修	1	15	大学附属病院、国立病院、助産所、保健センターにおいて助産師としての臨床経験がある。	周産期の女性と新生児に対する心身、社会的側面と特徴と看護ケアの指導、看護過程の展開について教授する。
		母性看護学Ⅲ (周産期アセスメント)	KSP21208	必修	1	30		
		母性看護学Ⅳ (周産期ケアマネジメント)	KSP31202	必修	1	30		
堀 陽子	専任	母性看護学Ⅳ (周産期ケアマネジメント)	KSP31202	必修	1	30	総合病院の産科及び内科病棟で助産師、看護師としての臨床経験がある。	臨床での事例を踏まえ、母性看護学の対象となる妊婦、産婦、褥婦、新生児への支援に必要な看護技術とその注意点を演習を通して講義する。
八田 勘司	専任	精神看護学Ⅰ (精神保健)	KSP21107	必修	1	30	公立の精神科病院(20年)と国立大学病院手術部(5年)の看護師としての臨床経験がある。	精神看護学の課題や精神保健の考え方を講義する。看護に必要な精神疾患と精神症状と看護について、臨床経験を踏まえた事例を中心に講義する。
		精神看護学Ⅱ (主な精神疾患と精神症状)	KSP21108	必修	1	15		
大江 真人	専任	精神看護学Ⅲ (施設における援助)	KSP21209	必修	1	30	民間精神科病院と大学病院精神神経科病棟(急性期病棟、慢性期病棟)での看護師としての勤務経験がある。	主に入院中の患者の処遇に関連する法律、急性期から社会復帰の看護について、臨床での事例を踏まえて教授する。
美王 真紀	専任	精神看護学Ⅳ (地域における援助)	KSP31101	必修	1	30	精神科病院において訪問看護業務を行った経験を持つ。	臨床での実践を踏まえた、地域に住む精神障害者の生活のしづらさ、援助に必要な知識と技術、精神障害者の捉え方について講義等を行う。

授 業 科 目

授業要項と授業内容

凡 例

2019年度のシラバスは次の原則にしたがって編集されています。

1. 授業科目は以下の分野に分かれています。
 - I. 基礎分野
 - II. 専門基礎分野
 - III. 専門分野
 - IV. 専門分野（臨地実習科目）

2. 各分野においては、1年次履修科目、2年次履修科目、3年次履修科目、4年次履修科目に分けて配列されています。ただし専門分野においては、看護学領域に分けて配列されています。

3. 授業科目は Semester 制による前期科目および後期科目、一年を通して行われる通年科目の2種類に分かれています。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
生きた人間学	加畑公一郎	講義	1年次 後期	必修	2	30	KGE11101

科目の概要

さまざまな状況で人それぞれの問題と格闘してきた人たちの言動には、私たちが自分の生き方や社会のあり方を考え直すための貴重な手がかりがちりばめられている。それらの事例を著作や報道資料などで紹介し、人間とは何か、生きるとは何かを考えていくための読み解き方を教授する。

到達目標

- 人間の生きる力は、医学的な健康だけではなく、体験・記憶・自負・信頼・希望などに支えられていることを説明できる。
- 人間の尊厳とは何か、共に生きるとは何かについて、自分の考えを述べ、具体例に基づいて問題点を指摘することができる。
- 相手の心を読み、共感し、お互いの意思を通わせるコミュニケーション技能を身につけることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL6	患者が自分になるとき(DVDを見て意見を書き、講師と議論する)
第2回	失ったものを数えるな——パラリンピックの父
第3回 AL6	私たち(健常者)が彼ら(弱者)を必要としている(自分の考えを書き、講師と議論する)
第4回	身体の「身」を取り戻す
第5回 AL6	キツネにだまされなくなった日本人(自分の考えを書き、講師と議論する)
第6回	貧困は自己責任か
第7回	相模原事件と生産性
第8回	不健康のままで生かしてよ
第9回 AL6	「臆病に憶病に」が口癖のカリスマ職人(DVDを見て意見を書く、講師と議論する)
第10回	世間の目——日本人の行動規範
第11回 AL6	ブランド信仰というコンプレックス(自分の考えを書き、講師と議論する)
第12回	「忘れられる」と「忘れない」
第13回 AL6	横看向人間を大事にせよ(自分の考えを書き、講師と議論する)
第14回	リトリートという生き方
第15回	泣き虫先生の熱血指導

成績評価方法	定期試験(レポート) 50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	なし					
参考文献	授業のなかで紹介する					
事前学習(内容・時間)	「生きる」をキーワードに新聞・テレビ・ネットで事例を集め、問題意識を磨くこと(30分)。					
事後学習(内容・時間)	前後の講義のテーマは関連しているので、前回・前々回の復習を重ねて理解を深めるように(30分)。					
フィードバックの方法	成果物や小テストは添削し、助言やコメントを添えて本人に返す。授業内で全体の講評をする。					
備 考	定期試験(レポート)、成果物、小テストは事前・事後にポイントを説明する。			オフィスアワー	授業の前後に対応する。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	—	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
統計学入門	宮阪 信次	講義・演習	1年次 後期	必修	2	30	KGE11201

科目の概要

自然科学をはじめ医療・看護など様々な状況で利用されている統計学の必要性を理解した上での、統計に対する基本的事項の習得を促す。看護現場で科学的に状況を把握し、判断・分析ができる応用力に発展させる。講義は、記述統計学、推測統計学の基礎理論と実例に近いデータを用いた演習を中心に行う。

到達目標

- 統計の様々な値の特性（代表値、平均値等）や相関関係など初歩的な統計の知識を身に付け、説明できる。
- 総合演習を協調作業で行うことにより、グループで問題解決する。
- 実例演習を数多く行うことで、推測・検定を行う筋道を理解し、実践できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	統計学の基礎（受講の手引き、Excel関数の基礎、Power pointの基礎）
第2回	1次元のデータの基本統計量（1）（度数分布とヒストグラム）
第3回	1次元のデータの基本統計量（2）（代表値と散らばり）
第4回	2次元のデータの分析（1）（散布図とクロス集計）
第5回 AL 3	2次元のデータの分析（2）（グループワーク「カーテンの色はなにがいいか」）
第6回 AL 3	記述統計学の総合演習（グループワーク「アンケートデータを用いて現実と理想のBMIについて」）
第7回 AL 4	総合演習のグループ発表会
第8回	確率変数と確率分布（正規分布を中心にして）
第9回	標本分布（母集団と標本、正規分布からの標本）
第10回	統計的推定（平均の区間推定）
第11回	統計的検定（1：1標本の平均値検定）
第12回	統計的検定（2：2標本の平均値検定）
第13回 AL 3	推測統計学の総合演習（グループワーク「どこのアスレチッククラブを選ぶか？」）
第14回 AL 4	グループ発表会と分散分析法
第15回	多変量解析の紹介と総括

成績評価方法	定期試験（筆記）50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	『はじめての統計学』鳥居泰彦（日本経済新聞社出版）					
参考文献	『よくわかる医療・看護のための統計入門』石村貞夫ほか（東京図書出版）					
事前学習（内容・時間）	講義時に紹介する参考文献を次回講義までに読んでおくこと（1時間）					
事後学習（内容・時間）	講義中に出す課題について個人ファイルに作成すること（1時間）					
フィードバックの方法	課題を点検し、解説します。					
備 考	Excel、Power pointは講義・演習で不可欠なので基本機能をマスターしておいてください。			オフィスアワー	出講日の授業の前後30分間	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
論理の世界	原田 淳平	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13101

科目の概要

論理的に思考し、適切なかたちで自分の考えを表現するためには、日本語の「論理」を知っている必要があります。本授業では、英語等のヨーロッパ言語の「論理」とは異なる日本語の「論理」について説明した上で、授業中にそれを用いた作文を参加者に書いてもらうことで、学習とその定着を図ります。

到達目標

- 漠然と理解している日本語の「論理」の特徴を明示化し、はっきりと説明できるようになる。
- 上の知識を活用し、短時間でエッセイ・小論文を形にする技術が身につく。
- 自身が伝えたいことを、正確かつ適切な形で文章化できるようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	現代の論理学を概観しつつ、日本語の「論理」について基礎知識を学ぶ。
第2回	実際にショートエッセイを書いてみる。
第3回 AL2,3	「簡潔で論理的」な文章とは何かの基礎知識を学ぶ。平行して書いたエッセイを再校する。
第4回 AL2,3	書いたエッセイをピアレビューする。
第5回	接続詞の効果と使用法について学ぶ。
第6回	ショートエッセイを書いてみる(2回目)。
第7回 AL2,3	書いたエッセイをピアレビューする(2回目)。
第8回	哲学ワークショップ
第9回	主題、問題、主張という観点から議論の構造と基本形式を学ぶ。
第10回	ショートエッセイを書いてみる(3回目)。
第11回 AL2,3	書いたエッセイをピアレビューする(3回目)。
第12回	文章における指示関係の機能と文章間の接続構造を学ぶ。
第13回	ショートエッセイを書いてみる(4回目)。
第14回 AL2,3	エッセイのピアレビューの実施、およびはじめに書いたエッセイと変わった点を確認する。
第15回	講義の振り返りを通じて、日本語の「論理」をまとめる。

成績評価方法	定期試験(筆記) 45% 小テスト 40% 成果物 15%					
教科書	とくに使用しない。					
参考文献	『<新版>日本語の作文技術』本多 勝一(朝日新聞出版)、『正しく読み、深く考える 日本語論理トレーニング』中井 浩一(講談社)					
事前学習(内容・時間)	講義開始後は前回の講義内容の復習をすること(30分)。					
事後学習(内容・時間)	書いたエッセイやピアレビューによって得たフィードバックをもとにエッセイの復習をすること(60分)。					
フィードバックの方法	エッセイは講義内で書いてもらいます。書いてもらったエッセイは添削後返却します。					
備 考	講義は一方通行ではない形式で行いますので、積極的な発言を期待します。			オフィスアワー	講義日の講義時間前後 30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニ ケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
心理学への招待	岩城 晶子	講義	1年次前期	選択	2	30	KGE13102

科目の概要

本講義では、心理学の様々な知見を紹介する。心理学という学問領域での「心」の捉え方や研究結果を知り、人間の心について理解や考えを深めることを目的とする。「心」についての基本的な考え方や、その健康・不健康、社会と個人の心との関わり、身近な生活の中での心のはたらきなどについて学び、日常生活において人がなぜそのような行動をとるのかということをも自分なりに考えたり、その答えを見つけたりすることができるように活かしてもらいたい。

到達目標

- 心理学の基礎、なかでも外界を認知する仕組みや人間の行動などについて基礎的な知識を獲得すること。
- 学んだ内容を基に、自分なりに理解した人間の心の仕組みについて言葉を用いてまとめ、説明できるようになること。
- 人間の「心」についての理解を、医療や看護領域でどのように活かすか発展的に考え、述べるができるようになること。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	心理学とは:こころの探求の目的や歴史について①
第2回	心理学とは:こころの探求の目的や歴史について②
第3回 AL6	感覚・知覚のメカニズムについて①
第4回	感覚・知覚のメカニズムについて②
第5回 AL6	記憶:覚えること・忘れることのしくみ①
第6回	記憶:覚えること・忘れることのしくみ②
第7回	思考:考えることのしくみ①
第8回	思考:考えることのしくみ②
第9回 AL6	感情と動機づけ①
第10回	感情と動機づけ②
第11回 AL6	行動:私たちの「行動」のしくみ①
第12回	行動:私たちの「行動」のしくみ②
第13回 AL6	パーソナリティ:人格や性格について①
第14回	パーソナリティ:人格や性格について②
第15回	心理学と社会とのかかわり

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 定期試験(レポート) 20%					
教科書	特に指定はないが、授業中に資料を配布する。また、学習に有効と思われる文献を適宜提示する。					
参考文献	同上					
事前学習(内容・時間)	日常的に新聞やテレビのニュースなどに目を配っておくと有用である(1日5～10分でも良いが、継続して)。					
事後学習(内容・時間)	講義の内容を振り返り、自分なりに要点をまとめること(1～2時間)、授業で配布・提示される文献を自主的に読み内容を理解しておくこと。他の履修者と学習内容について話し合うのも、理解を深めるうえで有効である。					
フィードバックの方法	リアクションペーパーに記入された質問や課題については翌週の授業冒頭でフィードバックする。					
備 考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	—	△	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
情報心理学	岩城 晶子	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13103

科目の概要

この授業では心理学の様々な知見を紹介しながら、学問としての心理学における「心」の捉え方や研究結果について学び、人間の心について理解や考えを深めることを目的とする。たとえば、人間が外界から受け取る多くの刺激をどのように取り入れ処理しているか、他者とのコミュニケーションの中でどのように情報がやりとりされているか、物語が人間の心にどのような影響をもちうるか、等のテーマを取り上げる。

到達目標

- 人間の情報処理における基本的なプロセスについて説明することができる。
- 学んだ内容を基に、自分なりに理解した人間の「心」について言葉を用いてまとめ、他者に伝えることができる。
- 人間の「心」についての理解を、医療や看護領域でどのように活かすか発展的に考え、述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	心理学とは:心の探求の目的や歴史について
第2回 AL 6	知覚:われわれは外界の情報をどう取り入れているか?
第3回 AL 6	記憶:われわれはどうやって覚える/忘れるのか?
第4回	思考:われわれの思考のメカニズムとは?
第5回	動機づけ:われわれの意欲やモチベーションにはどのような仕組みがはたしているのか?
第6回	対人認知:われわれは他者のことをどのように捉えているのか?
第7回	対人コミュニケーション:他者とのコミュニケーションの中では何が起きているのか?①
第8回	対人コミュニケーション:他者とのコミュニケーションの中では何が起きているのか?②
第9回 AL 6	社会的影響:われわれはどのように他者からの影響を受けているのか?①
第10回	社会的影響:われわれはどのように他者からの影響を受けているのか?②
第11回	ソーシャルネットワーキングシステム(SNS)の特性と心理的影響①
第12回	ソーシャルネットワーキングシステム(SNS)の特性と心理的影響②
第13回 AL 3	物語:心理学の視点から、物語をどのように考えることができるだろうか?①
第14回	物語:心理学の視点から、物語をどのように考えることができるだろうか?②
第15回	セラピーにおける物語:物語を用いた様々な技法

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 定期試験(レポート) 20%					
教科書	特に教科書の指定は無いが、授業内で資料を配布する。また、学習に必要な文献を授業内で毎回提示する。					
参考文献	同上					
事前学習(内容・時間)	日常的に新聞やテレビのニュースなどに目を配っておくこと(1日5分でも可、継続して)。					
事後学習(内容・時間)	講義の内容を振り返り、自分なりに要点をまとめること(1~2時間)、授業内で配布・提示される文献を自主的に読み内容を理解しておくこと。他の履修者と学習内容について振り返ったり話し合うのも、理解を深めるうえで有効である。					
フィードバックの方法	リアクションペーパーに記入された質問や課題については翌週の授業冒頭でフィードバックする。					
備 考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	—	△	—	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ヒトと生物学	堀家なな緒	講義	1年次 前期	必修	2	30	KGE11102

科目の概要

生物は細胞を基本単位としている。ヒトは、1個の受精卵という細胞から、約60兆個の細胞でできた個体へと発生する。前半では、細胞が自身の持つ遺伝情報に基づき、必要なタンパク質を合成することで、様々な機能を発現していくという生命活動における基本原理の理解を目指す。後半では、細胞が組織を形成し、組織が組み合わさって構成される器官系の構造・機能を学ぶと共に、恒常性を維持するシステムについて、内分泌系、神経系、免疫系を中心にして講義する。

到達目標

- DNAに記された遺伝子の情報からどのようにしてタンパク質が合成され、生命活動が営まれるのかを説明できる。
- 内臓諸器官系である消化系、循環系、呼吸系、排出系の基本的構造とそれぞれの機能を述べるができる。
- 内分泌系、神経系、免疫系の三者の相互作用で支えられる恒常性を維持する仕組みについて論述できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	細胞の基本構造(細胞小器官、生体膜)
第2回	遺伝子の本体(DNAの構造、染色体)
第3回	遺伝情報(複製、転写、翻訳)
第4回	細胞増殖と体細胞分裂、生殖と減数分裂、ヒトの発生
第5回	代謝:好氣的呼吸(解糖系、クエン酸回路、電子伝達系)、嫌氣的呼吸(解糖)
第6回	消化系(栄養物質の吸収)
第7回	生命活動の基本原理のまとめ
第8回	循環系(体液とその循環)
第9回	呼吸系(酸素の取り込みと二酸化炭素の排出)
第10回	排出系(代謝老廃物の排出と浸透圧調節)
第11回	第1回～第6回までのまとめと確認テスト(筆記)
第12回	内分泌系(内分泌腺、ホルモンの作用)
第13回	神経系(ニューロンとグリア細胞、伝導と伝達)
第14回	免疫系(自然免疫と獲得免疫)
第15回	生体の多様な調節機構のまとめ

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 小テスト 10% 成果物 10%					
教科書	『医療・看護系のための 生物学』田村隆明(裳華房)					
参考文献	『理系総合のための生命科学』東京大学生命科学教科書 編集委員会(羊土社) 『カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1～3巻』D・サダヴァほか(講談社)					
事前学習(内容・時間)	配布資料を読む、前回の講義内容の練習問題と小テストを解く(1時間)					
事後学習(内容・時間)	小テストで間違った所を復習する、配布資料と教科書を照らし合わせて読み、理解する(1時間)					
フィードバックの方法	小テストの解答を解説します					
備 考				オフィスアワー	授業終了後30分、教室で質問を受け付けます	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	—	△	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
環境と生態	宮寄 英寿	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13104

科目の概要

本講義では、世界の環境問題と生態系の構造を地図を通じて俯瞰的にみることで基礎知識を習得することを目的とする。加えて、実際に生じている世界の環境問題を様々な事例研究を解説し、地域社会の特徴とそれが抱える諸問題から共通点と相違点についての考察を深めてもらいます。また、アクティブラーニングを通じて環境問題の問題発見と解決策を模索します。

到達目標

- 人類の生活と環境とのかかわりを理解し、環境学の基礎知識を説明できる。
- 様々な生物の生態と人類のかかわりを理解し、生態学の基礎知識を説明できる。
- 日本だけではなく世界各地特有の状況から、これからの環境と生態のあり様について模索し、考えを述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 4	イントロダクション 環境、生態とはなにか ☆レポート1
第2回	基礎知識の習得1 世界地図から環境と生態について知る その1 (気候、農業、資源)
第3回	基礎知識の習得2 世界地図から環境と生態について知る その2 (環境・生態と人々の暮らし)
第4回	基礎知識の習得3 世界地図から環境と生態について知る その3 (環境問題、生態系サービス)
第5回 AL 2, 4	基礎知識の習得4 ○○から読み解く環境と生態
第6回	世界の環境問題1 西アフリカ、ブルキナファソにおける事例研究から
第7回	世界の環境問題2 南部アフリカ、ザンビアにおける事例研究から
第8回	世界の環境問題3 北アフリカ、アルジェリアにおける事例研究から
第9回	世界の環境問題4 南アジア、インドにおける事例研究から その1 ラージャスターン
第10回	世界の環境問題5 南アジア、インドにおける事例研究から その2 タミル・ナードゥ
第11回	世界の環境問題6 東南アジア、ミャンマーにおける事例研究から
第12回	世界の環境問題7 東南アジア、ラオスにおける事例研究から
第13回 AL 2, 4	世界の環境問題8 日本における環境と生態問題について考える (個人あるいはグループ発表)
第14回 AL 3	これからの環境と生態について考えてみよう (個人あるいはグループ討論) ☆レポート2
第15回 AL 2, 4	個人あるいはグループ討論成果 (レポート2) 発表と議論

成績評価方法	小テスト 50% 成果物 50%					
教科書	指定なし (資料配付、ビデオ鑑賞)					
参考文献	『食料の世界地図 (第2版)』Erik Millstone and Tim Lang著、大賀 圭治監訳、中山 里美・高田直也訳 (丸善出版)					
事前学習 (内容・時間)	講義中に次回の講義内容に関連する文献を紹介するので、目を通しておいてください (1時間)。					
事後学習 (内容・時間)	配布資料を整理、確認してレポートに備えてください (1時間)。					
フィードバックの方法	講義の初めに、前回の小テストの解説をおこなう。					
備 考	成績評価方法の小テストは、講義中に出题するので、その時間内に提出してください。			オフィスアワー		講義開始時刻までの30分間、講義終了時刻から30分間
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力 (看護実践力)
	△	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
化学	山口 三郎	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13105

科目の概要

現代生活の至る所に様々な形で化学が溶け込んでいる。また、医療行為を行う場合にも化学の知識が要求されることもある。このことを前提に、現代化学を体系的に講義する。具体的には、原子や分子からはじめて、物質の量的表現、化学反応、水や溶液の化学や有機化学などを説明する。

到達目標

- 生化学などの内容を化学の言葉を使って説明できる。
- 日常生活や医療分野における化学現象を正しく説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	科学における化学
第2回	原子の構造： 原子
第3回	原子の構造： 元素と周期表
第4回	原子と原子のつながり
第5回	有機化学(その1)
第6回	有機化学(その2)
第7回	モルと化学式、濃度の表し方
第8回	物質の状態と性質
第9回	気体の性質
第10回	化学反応と熱エネルギー
第11回	化学反応と化学平衡
第12回	水と溶液、透析と浸透圧
第13回	酸と塩基
第14回	酸化と還元
第15回	電池

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 成果物 20%					
教科書	『はじめて学ぶ化学』野島高彦(化学同人)					
参考文献	『化学 その現代的理解』井本稔、岩本振武(東京化学同人)					
事前学習(内容・時間)	講義予定の部分の教科書を読む(30分)					
事後学習(内容・時間)	教科書の練習問題を解く(30分)					
フィードバックの方法	直接面談					
備 考	レポートは返却します			オフィスアワー	出講日の授業の前後(各30分)	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用能力 (看護実践力)
	○	—	△	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
キャリア教育 I	巽・浮田 八田・伊佐	講義	1年次 前期	必修	1	30	KGE11202

科目の概要

宝塚大学看護学部で学び始めるにあたり、立派な看護師となるために必要なビジョンと能力を高める基礎となる事項を教授する。毎回テーマに基づく講義や課題提示を行い、学生が大学で学ぶ上で必須のものの方・考え方、行動力、スキルを高めていくことができるアクティブ・ラーニングを中心に展開する。

到達目標

- 現代社会において看護職を担うとはどういうことかを多様な観点から理解し説明できる。
- 自己を知り、他者を理解し、共感を深めるなど、対人援助を行う上で必要な考え方やものの方・考え方を身につけ、表現できる。
- 問題発見・解決能力とコミュニケーション能力、および適切に他者と関わる力を身につけ、活用できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL3	看護学部の4年間、国家試験や実習などの見通しと、これからの学び方について
第2回 AL4	看護師ストーリーから学ぶこと(多様な看護師としての働き方を知る・入学前課題の発表と意見交換)
第3回 AL3	キャリアアンカー(8つのキャリアアンカーについてのグループワーク、ポジションペーパー作成)
第4回 AL2	世界を知る(国際社会に関わる時事問題についてのグループワーク)
第5回 AL2	日本を知る(国内における時事問題についてのグループワーク)
第6回 AL2	地域を知る(地域社会における時事問題についてのグループワーク)
第7回 AL3	ハートの看護をアートで学ぶ(なぜ宝塚大学看護学部はアートを大切にするのかを理解する)
第8回 AL3	人間は「ざんねんな生きもの」か? (「認知バイアス」について理解し、どう対応するのかを考える)
第9回 AL3	看護師の仕事の広がり(専門看護師・認定看護師・保健師・助産師などについて知り、将来ビジョンを広げる)
第10回 AL2	現代の看護師1(大阪北部地震・西日本豪雨等災害時の課題やダイバーシティ時代の課題等の理解と問題分析)
第11回 AL3	現代の看護師2(フィールドワーク計画づくりと準備)
第12回 AL3	現代の看護師3(フィールドワーク関連作業)
第13回 AL3	現代の看護師4(グループプレゼンテーションに向けての準備)
第14回 AL3	ダイバーシティ&インクルージョン時代のナーシング(外部講師による講演)
第15回 AL4	ポスターセッション、レポートについての指示

成績評価方法	定期試験(レポート) 40% 定期試験(実技) 20% 成果物 40%					
教科書	なし					
参考文献	大学生 学びのハンドブック (世界思想社)					
事前学習(内容・時間)	前時に指示された文献等を読み、理解する(1時間程度)。					
事後学習(内容・時間)	毎回提示された課題に取り組む(2時間程度)。					
フィードバックの方法	毎回課題提出を求め、トピックごとにまとめてコメントや評価をフィードバックする。					
備 考	<ul style="list-style-type: none"> • 毎回の授業で課す課題を「成果物」として評価する。 • Webアプリ等を用いた双方向授業を実施する。 • Web等を用いて課題を出し、自主学習を行う。 			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人間関係概論	岩城 晶子	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13106

科目の概要

人間とはさまざまな「関係」の中に生きる存在である。本授業では、自分自身との関係、身近な他者との関係、友だち関係、所属する集団との関係、自分をとりまく社会との関係、そして関係の築き方など、臨床心理学分野を中心とした観点に基づき、様々な「関係」について学び、考えられるよう進めていく。

到達目標

- 心理学の基礎、なかでも人間関係の理解に必要とされる基礎的な事項を述べることができる。
- 心理学という学問領域の学びを通して、論理的思考や批判的思考の力を養い、それを文章で伝えられるようになる。
- 自分自身を取り巻く様々な「関係」について、ある程度客観的に考えられるようになる。また、人間の心や関係性についての理解を医療や看護領域においてどのように活かすか、発展的に考え述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	臨床心理学とは:目的と歴史
第2回	臨床心理学とその関連領域におけるさまざまな学派①
第3回 AL 3	臨床心理学とその関連領域におけるさまざまな学派②
第4回	人間の発達と関係性の発展(1)
第5回	人間の発達と関係性の発展(2)
第6回	人間の発達と関係性の発展(3)
第7回	人間の発達と関係性の発展(4)
第8回	人間の発達と関係性の発展(5)
第9回	人間の発達と関係性の発展(6)
第10回 AL 3	自己を知る①
第11回	自己を知る②
第12回	集団と個人との関わり①
第13回	集団と個人との関わり②
第14回 AL 3	臨床の場における関係とは(1)
第15回	臨床の場における関係とは(2)

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 定期試験(レポート) 20%					
教科書	特に指定はないが、授業中に資料を配布する。また、学習に有効と思われる文献を適宜提示する。					
参考文献	同上					
事前学習(内容・時間)	日常的に新聞やテレビのニュース、物語などに目を配っておくこと(1日5分でも可、継続して)。					
事後学習(内容・時間)	その日の授業の内容をふり返り、自分なりに要点をノートにまとめること(1~2時間)。授業内で紹介される文献を自主的に読み、自分なりに内容を理解しておくこと。					
フィードバックの方法	リアクションペーパーに記入された質問や課題については翌週の授業冒頭でフィードバックする。					
備 考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	—	△	○	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
情報化と社会	宮阪 信次	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13107

科目の概要

第4次産業革命の時代が到来するといわれている。それは、経済や産業はもとより、私達のライフスタイルを大変革する可能性が高い。この授業では、情報技術革新の進展と社会システムの変革について最新情報を考察し、今後の技術動向について講義する。

到達目標

- 情報技術革新の進展、家族が抱える諸問題、社会システムの変革について考察し、論ずることができる。
- 読書課題本「スローなユビキタスライフ」を通じて、次世代インターネットの考え方を理解し、説明できる。
- SNSシステムの擬似体験から、次世代インターネット技術を習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション(情報技術革新の進展)
第2回	情報機器の発達史
第3回	情報のデジタル化とマルチメディア技術
第4回 AL 4	グループワーク(コンピュータの英雄たちの調査)の発表会
第5回	インターネットと情報通信ネットワーク
第6回	ビジネス・家族・社会が変わる「第3の社会」について
第7回 AL 3	高度社会情報システムの進展 / グループ課題(情報システムの調査課題)
第8回 AL 4	グループ課題発表会(情報システム)/ 情報社会の明暗について学ぶ
第9回 AL 3	グループ共同作業(Wikipediaで「地球環境問題」を協調作業)
第10回 AL 4	グループ発表会(地球環境問題)
第11回	次世代インターネット社会について
第12回	IOT社会と社会システム(IOTとはINTERNET OF THINGSの略)
第13回	IOTの基盤技術を学ぶ
第14回 AL 4	課題本「スローなユビキタスライフ」発表会と相互討議
第15回 AL 2	第3の社会で、私たちがどのように生きてらよいか(相互討議)

成績評価方法	定期試験(レポート) 50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	なし					
参考文献	『スローなユビキタスライフ』 関根千佳 (地湧社)					
事前学習(内容・時間)	講義時に紹介する参考文献を次回講義までに読んでおくこと(1時間)					
事後学習(内容・時間)	講義中に出す課題について個人ファイルに作成すること(1時間)					
フィードバックの方法	成果物については、授業内で解説を行います					
備 考	Power pointは講義・実習で不可欠なツールであるので基本機能をマスターしておいてください。			オフィスアワー	出講日の授業の前後30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
メディア社会学	北垣 博美	講義	1年次 後期	選択	2	30	KGE13108

科目の概要

インターネットの登場、普及によって、これまでの新聞・雑誌やテレビに代わり、ネットが市民生活の主要な情報伝達手段となった。個人も情報の発信者となるネット情報は一国の政権を揺るがす力を持つ一方で、情報の真偽が問題ともなっている。災害や戦争、事件・事故の報道の歴史的な歩みをたどりつつ、現代に生きる人間として、日々起きる社会現象を判断できる視座を養うべく講義する。一新聞記者の経験も踏まえながら、適宜、新聞紙面やビデオも活用する。

到達目標

- メディアの使命と市民社会とのかかわり方を自分の具体的な経験と結びつけて説明できる。
- 新聞やテレビの作られ方を理解し、説明できる。
- 氾濫する情報の中から正しく役立つ情報を選ぶことができるようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	新聞の歩み① 近代日本の歴史と災害報道
第2回	新聞の歩み② 世論と報道 現代の領土問題
第3回	新聞の歩み③ 新聞と小説 市民社会の登場
第4回	メディアとスポーツ・文化事業 宝塚と甲子園
第5回	文化財報道と展覧会 フェノロサと岡倉天心
第6回 AL 2	新聞の戦争責任 暗殺(テロ)による政治
第7回	テレビの時代① 一億総白痴化
第8回 AL 2	テレビの時代② 「あるある大事典」とその後
第9回 AL 4	報道と人権① 報道被害とマスコミ不信
第10回	報道と人権② 表現の自由とプライバシーの保護
第11回 AL 4	報道と人権③ 表現の自由と名誉毀損訴訟
第12回 AL 2	メディアミックスの時代① インターネットの登場と躍進
第13回	メディアミックスの時代② ネットと新聞、ネットと出版
第14回	メディアミックスの時代③ メディア別評価
第15回	ジャーナリズムの行方 メディアリテラシーとは

成績評価方法	定期試験(筆記) 100%					
教科書	特になし					
参考文献	授業時に適宜紹介					
事前学習(内容・時間)	講義中に言及された参考文献に接するよう努めること (30分)。					
事後学習(内容・時間)	渡されるレジュメと授業内容を基に、独自ノートを作ること (30分)。					
フィードバックの方法	感想を書いてもらい、次回の授業で講評します。					
備 考	新聞を読み、テレビのニュースにも接し、社会の動きに敏感になるよう努めてほしい。			オフィスアワー	出講日の授業前後	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニ ケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ヘルスケア・マーケティング	川島 隆志	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13109

科目の概要

ヘルスケアとは、保健・医療・福祉すべてを網羅する言葉です。看護の対象も病気の人ばかりとは限りません。あらゆる健康レベルへの働きかけが看護の機能です。人へ働きかける際に重要になるのがマーケティングという考え方です。本科目は、マーケティングの基本的な考え方とヘルスケア産業にかかわる企業や人がどのようなマーケティング活動をしているのかを理解してもらい、今後の自身の看護活動に対する意識を形成するのに役立つ講義である。

到達目標

- ヘルスケア産業の全体像(概要)を理解し、述べるができる。
- マーケティングの基本的な考え方を理解し、説明することができる。
- 医療サービス産業の従事者として、マーケティング志向の考え方で論ずることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	はじめに 本講義の概要
第2回 AL2	マーケティングの基礎(生活者のニーズ)
第3回 AL2	マーケティングの基礎(生活者の実態① 人口動態など)
第4回 AL2	マーケティングの基礎(生活者の実態② 世帯構造など)
第5回 AL2	マーケティングの基礎(生活者の実態③ 出生・死亡など)
第6回 AL2	マーケティングの基礎(高齢者の実態)
第7回	医療産業の概要① (病院・診療所、医療従事者)
第8回	医療産業の概要② (医薬品企業のマーケティング)
第9回 AL2	サプリメント・健康食品メーカーのマーケティング
第10回 AL2	健康機器メーカーのマーケティング
第11回 AL2	ベビー用品メーカーのマーケティング
第12回 AL2	口腔ケア商品(デンタルケア)のマーケティング
第13回 AL2	健診サービス企業のマーケティング
第14回 AL2	総合病院のマーケティング
第15回	ヘルスケア・マーケティングのまとめ

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物(レポート) 30%					
教科書	厚生労働省のホームページより必要な統計データをダウンロードしていただきます(講義で指示します)					
参考文献	『国民衛生の動向 2018/2019』厚生労働統計協会(厚生労働統計協会)					
事前学習(内容・時間)	授業計画の確認と専門用語の下調べ(90分)					
事後学習(内容・時間)	ダウンロード資料およびディスカッションについて復習する(90分)					
フィードバックの方法	レポートは授業中に返却します。また、小テストは終了後、速やかに授業内で解説します。					
備 考	講義は静かに聞いて下さい。ただし、ディスカッションは活発に。			オフィスアワー	講義前、講義後の時間で設定	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	△	—	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
生活の中の法律	鈴木 眞澄	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13110

科目の概要

看護の仕事は常に人間の生命・身体と向き合う大事な仕事ですから、法律的な知識が必要となります。しかし高校までの学習には法学の授業がありません。この講義では日本国憲法を通して、法律的なものの見方・考え方（リーガルマインド）を学習します。日本国憲法の三つの原理が国民主権、人権保障、平和主義ということはよく知られていますが、看護の現場では患者が輸血を拒否したという事件があるように、人権保障はとりわけ重要になります。その場合のポイントは人権感覚です。また憲法は国の最高法規であり、あらゆる社会問題を考える場合の根本基準になりますから、国の仕組みを学びながら様々な社会問題を考える視点も具体的に解説します。

到達目標

- 具体的な法律問題について憲法の知識を使って自ら考え、説明できる。
- 法的なものの見方・考え方（リーガルマインド）によって具体的な法律問題を類別できる。
- 憲法の理念を正確に理解し、憲法改正等の社会問題について、多角的でバランスが取れた視点を身に付ける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL2	憲法を学ぶ前に:法的なものの見方・考え方、法学的三段論法。
第2回 AL2	憲法とは何か:憲法は国の最高法規。立憲主義。
第3回 AL2	国民主権の誕生:八月革命説。天皇制を考える。
第4回 AL2	人権(1):人権総論。個人の尊厳と平等。輸血拒否事件。
第5回 AL2	人権(2):精神的自由権。内心・表現の自由、「二重の基準」。
第6回 AL2	人権(3):経済的自由権と社会権。
第7回 AL2	人権(4):人身の自由。死刑制度を考える。
第8回 AL2	人権(5):参政権。18歳投票権と民主主義。
第9回 AL2	平和主義(1):戦争放棄という理念。
第10回 AL2	平和主義(2):憲法改正問題を考える。
第11回 AL2	権力の分立:「権力は腐敗する」。地方分権。
第12回 AL2	国会(立法権):国会議員は何をするのか。
第13回 AL2	内閣(行政権):総理大臣や大臣は何をするのか。
第14回 AL2	裁判所(司法権):裁判官は何をするのか。
第15回 AL2	総まとめ:憲法全体を振り返る。

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 成果物(レポート) 20%					
教科書	特に指定しない。毎回レジュメを配布する。					
参考文献	適宜講義時間内に指定する。					
事前学習(内容・時間)	事前に紹介する文献を読む(30分)。					
事後学習(内容・時間)	毎回学習した内容をまとめ、感想を書く(30分)。					
フィードバックの方法	事後学習の内容の中から選抜したものを次回の講義で解説する。					
備 考	日刊紙を読む習慣をつけてください。			オフィスアワー	毎授業時間の前後に応じる。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	△	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
文芸論	河内 厚郎	講義	1年次 後期	選択	2	30	KGE13111

科目の概要

漢字の渡来→万葉仮名の成立→漢字仮名混じり文の完成とつづく、日本語の成立過程から授業に入る。さらに、能や歌舞伎、浄瑠璃などの芸能と共に普及していった中近世の文芸、そして西洋文明の受容にともなう近代文学の発生という具合に、千数百年の日本文学史を簡潔にたどり、最後に日本文学の現状を考察し、文芸が大衆化・国際化していく状況について考えるように促す。また、各自に「ライフヒストリー」あるいは「ファミリーヒストリー」を書いてもらう。

到達目標

- 村上春樹の小説が世界各国で読まれているように、日本文学の人気が急上昇している理由を、歴史をたどりながら考え、日本文化の魅力を要約して述べるができる。
- 物事を、結果だけでなく、そこへ到るプロセスを通して理解できるようになり、それを表現できる。
- どんな職業に就くにせよ、文章表現の能力は不可欠であり、その基本となる小論文の書き方を修得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	日本語の成立(4～9世紀)、日本文学の発祥、翻訳文化の興隆した背景
第2回 AL 4	なぜ人は「物語」を求めるのか? ストーリーとヒストリーの関係
第3回	記憶再生装置としての文学 「記憶」と「時間」の関係
第4回	日本文学の特性(恋愛と自然・季節感…)
第5回	王朝文学の成立(『源氏物語』など)
第6回	中世の芸能と文学(一遍上人、世阿弥など)
第7回	町人文学の誕生と隆盛(西鶴・近松・秋成など)
第8回	歌舞伎と文楽(人形浄瑠璃)
第9回	日本近代文学の誕生、標準語の成立
第10回	谷崎潤一郎の『細雪』の世界 阪神間ブルジョアジイの文学
第11回 AL 2	20世紀の映像文化が文学に与えた影響
第12回	手塚治虫と宝塚歌劇、昭和の大衆文化
第13回	村上春樹とポストモダンの文学
第14回	ライフヒストリーの試み
第15回	社会のIT化にともなう文学の変容

成績評価方法	定期試験(レポート) 60% 小テスト 30% 成果物 10%					
教科書	なし					
参考文献	「わたしの風姿花伝」河内厚郎(沖積舎)					
事前学習(内容・時間)	授業計画を確認し、その計画に沿って、新聞・書籍・インターネット等で情報を収集しておく(45分程度)。					
事後学習(内容・時間)	日本文学史年表を、授業を重ねるのにもない、完成させていく(30分程度)。					
フィードバックの方法	レポートは最終授業で返却します。小テストは次回の授業で返却します。					
備 考					オフィスアワー	授業終了後30分、教室で質問を受け付ける。
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
文章表現法 I	加畑公一郎 北垣 博美	講義	1年次 前期	必修	2	30	KGE11103

科目の概要

自分が体験した出来事や、日々の生活の中で感じたり考えたりしたことを、第三者に伝えて理解・共感してもらうためには、わかりやすく表現する文章の技術が必要だ。すぐれた教材を読み、考え、自分でも文章を書く。そうした実践を通して文章作法の極意を教授する。

到達目標

- 自分が相手に伝えたいことを簡潔で説得力ある文章で表現する力を身につけることができる。
- SNSの影響による断片的な文章を、情緒豊かで論理的なコミュニケーション力を持った文章に直す力を身につけることができる。
- 文章を読み書きするという学問の基本的態度を身につけ、社会の問題に対して自分の意見を述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	文章表現の作法
第2回 AL 2	5W1Hが文章を支える
第3回	構成(段落、起承転結)の威力
第4回	事物に語らせる(描写の本質)
第5回 AL 2	書き出しで勝負する
第6回	締めくくりを決めるコツ
第7回	書く内容を限定する
第8回 AL 2	文章の格(ねじれの問題)
第9回	日本語の特徴(漢語、大和言葉、カタカナ)
第10回	紋切り型と戦う
第11回 AL 2	過剰な表現は文章を殺す(抑制の美学)
第12回	読む人の側に立つ
第13回	小論文の書き方
第14回 AL 2	文章の切り口(視点、論点、テーマ)
第15回	違和感を大事にする

成績評価方法	成果物(授業中に書く作文)70% 定期試験(レポート)30%					
教科書	なし					
参考文献	授業のなかで紹介する					
事前学習(内容・時間)	読書や新聞・テレビ報道で気になる言葉や文章を集め、課題作文を書くときの手引きに活用する(30分)。					
事後学習(内容・時間)	授業で配られた教材を読み返すとともに、添削して返された自分の作文を清書する(30分)。					
フィードバックの方法	授業中に書く作文は、添削し、コメントを添えて本人に返却するほか、授業の教材にも使う。					
備 考	自分の書いた作文が教室でみんなの目に触れることが刺激となり、向上心につながる。			オフィスアワー	授業の前後に対応する	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	—	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ファッションアート サーヴェイ	横越谷勝雄	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13112

科目の概要

ファッション美的感性（ファッション感性のあいまいさ）はファッショントレンド感性分析の手法を用いて数値化する事によりデータとして説明できる。消費者のファッション商品の購入動機には、ファッション美的感性による動機付けが最も重要視される。ファッション美的感性を中心としたファッションデザインマーケティングをファッションビジネスの変遷と輪郭、産業構造とマーチャダイジングシステムの側面から概説する。そして、ファッションビジネスが消費者に対し、夢と憧れを提供するビジネスであることを実感してもらいたい。

到達目標

- ファッションビジネスの変遷と輪郭、産業とマーチャダイジングシステムについて説明できる。
- ファッションブランド構築のプロセスを理解し、ブランディング成功の戦略を作成できる。
- ファッショントレンド感性分析をもとにした美的感性を磨き、課題を通してファッションセンスを表現できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ファッション概説 パリ オートクチュールとプレタポルテの成立と概要
第2回 AL 4	ファッショントレンドクラスター感性分析（コレクション・感想レポート1）
第3回	シルエットクラスター・オケーションクラスター感性分析
第4回	ファッションビジネス基礎知識
第5回	日本におけるファッションビジネスの変遷
第6回	ファッションビジネスの産業構造と問題点
第7回	ファッション産業の機能と業務内容
第8回 AL 4	ファッショントレンド情報（パリ・ミラノ・ニューヨーク）（コレクション・感想レポート2）
第9回	ファッションビジネスにおけるマーケティングの重要性
第10回	ファッションデザインマーケティング戦略
第11回 AL 4	マーケットセグメンテーションとブランドポジショニング（コレクション・感想レポート3）
第12回	ファッション消費と消費者ニーズ
第13回	ファッションマーチャダイジングシステムのフロー
第14回	ファッションブランド事例
第15回	ファッションブランド戦略

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物 30%					
教科書	テキストは使用せず、プリント配付と黒板の板書にて行う。随時ビデオまたはDVDによるトレンド解説（2019～20秋冬パリ・ミラノファッション情報など）や有名ブランドの紹介も行う。					
参考文献	なし					
事前学習（内容・時間）	常に現在注目されているトレンドを意識し、それが時間とともにどのように変化し、それが消費者の目には、どのように映っているのか、観察眼を鍛える訓練を日常的小こなうこと（1時間）。					
事後学習（内容・時間）	毎日の生活のなかで、なにが変化しているか。政治、経済、社会、文化など幅広く見届けるため、毎日必ず新聞を読むこと（30分）。					
フィードバックの方法	パリ・ミラノのコレクション・感想レポートと、ビデオによるトレンド情報を鑑賞して、小レポートを提出する。レポートは、提出された翌週の授業中に返却します。					
備 考	注目されているトレンドを分析する能力を養う。			オフィスアワー	出講日の授業の前後	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
マスコミと報道	加畑公一郎	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13113

科目の概要

マスコミの現場で何をどのように報道するかを決めているのは、取材記者と編集・編成担当者である。彼ら一人ひとりの経験知と職業的な勤が報道の質を支えている。そうした報道の現場を映像と言葉で解説しながら、メディアバイアス、言論・表現の自由、真実とは何か、世論誘導の仕掛けなど、マスコミと報道のあり方を読み解くノウハウを教授する。

到達目標

- 言論・表現の自由とはどういうことかを具体例に基づいて説明できる。
- 情報を伝える人間・組織の強みと弱点を指摘し、信頼される報道や民主主義のあり方について自分の意見を述べるができる。
- 政治・医療・メディア・言論など社会の諸課題について自らの問題意識で考える力を身につけることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	新聞の読み方
第2回 AL2	週刊誌の読み方
第3回 AL2	テレビの見方
第4回	メディア・バイアス
第5回 AL2	知らせることは正義か
第6回	大本営発表とは何か
第7回	警鐘報道が抱える悩み
第8回 AL2	やらせ・ねつ造の仕組み
第9回	プロパガンダの罠
第10回	国民的熱狂
第11回 AL2	群衆心理
第12回	スポーツ報道の注意点
第13回 AL2	ミスリードを解剖する
第14回	ポスト真実の行方
第15回	報道の初心

成績評価方法	定期試験(レポート) 50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	なし					
参考文献	授業のなかで紹介する					
事前学習(内容・時間)	新聞・テレビ・ネットで興味のある報道事例を集め、問題意識を磨くこと (30分)。					
事後学習(内容・時間)	前後の講義のテーマは関連しているので、前回・前々回の復習を重ねて理解を深めるように (30分)。					
フィードバックの方法	成果物や小テストは添削し、助言やコメントを添えて本人に返す。授業内で全体の講評をする。					
備 考	定期試験(レポート)、成果物、小テストは事前・事後にポイントを説明する。			オフィスアワー	授業の前後に対応する	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	△	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
西洋美術の源流	森口まどか	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13114

科目の概要

本講義では、古代ギリシャ・ローマからルネサンス後期までの西洋美術を講義する。いわゆる西ヨーロッパを中心とする宗教、社会、政治の変化と合わせ、時代ごとの代表的絵画、彫刻や建築物などを通して様式および主題などの変遷を紹介する。作品画像、ビデオ映像などを使い、できるだけ多くの作品を視覚的に捉えながら現在の西ヨーロッパの芸術・文化の根幹を理解できるように教授する。

到達目標

- 古代ギリシャ・ローマから16世紀半ばまでの西洋美術の流れを述べることができる。
- 各時代の代表的作品を比較し、作品の特質や様式を類別できる。
- 各時代における各地域の文化、社会、宗教的背景などを説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	はじめに 美術用語・文献紹介など
第2回	古代ギリシャ・ローマ美術 1 アルカイク様式、ヘレニズム様式などの彫刻 神殿建築、ローマ期建築など
第3回 AL 2	古代ギリシャ・ローマ美術 2 神殿建築、ローマ期建築、彫刻など
第4回	ビザンティン美術 1 初期キリスト教聖堂建築の変遷
第5回 AL 3	ビザンティン美術 2 ハギア・ソフィア大聖堂を中心とする建造物とモザイクおよびイコン
第6回	古代ギリシャ・ローマ美術からビザンティン美術についての小テスト・解説
第7回	北方ルネサンス美術 1 油彩画法の発見、北ヨーロッパ写実主義 ファン・エイク兄弟、ヒエロニムス・ボスを中心に
第8回	イタリア初期ルネサンス美術 1 フィレンツェにはじまる芸術 絵画(マザッチョ、ボッティチェリ)
第9回	イタリア初期ルネサンス美術 2 フィレンツェにはじまる芸術 建築・彫刻(ブルネレスキ、ドナテッロ)
第10回	北方ルネサンス初期の美術とイタリアルネサンス初期の美術についての小テスト・解説
第11回	ルネサンス美術 1 フィレンツェからローマ、ミラノ レオナルド・ダ・ヴィンチ
第12回 AL 3	ルネサンス美術 2 フィレンツェからローマ ミケランジェロ、ラファエロ
第13回	ルネサンス美術 3 ヴェネツィア派 ジョルジョーネ、ティツィアーノ
第14回	北方ルネサンス美術 2 グリュネヴァルト、デューラー
第15回	初回から第14回までのまとめと小テスト

成績評価方法	小テスト 70% 定期試験(レポート) 30%					
教科書	特にないが、適宜参考文献を参照する					
参考文献	『カラー版西洋美術史』増補新装 高階秀爾監修(美術出版社)、『西洋美術の歴史』H.W. ジャンソン、木村重信、藤田治彦訳(創元社)					
事前学習(内容・時間)	講義時に紹介する内容について、予め参考文献などを通して準備をすること(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	講義終了時に出す課題に関するレポートを作成する(1時間30分)。					
フィードバックの方法	小テストは授業内で解説する。レポートは授業中に返却する。					
備 考	美術全般への関心を広げるため、美術館鑑賞へ出かけるように。			オフィスアワー	出講日の授業の前後30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	—	—	—	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
伝統芸術表現研究 I (茶道と香道の理論と表現)	飯島 照仁	講義・演習	1年次 前期	選択	2	30	KGE12201

科目の概要

本科目は、茶の湯の基礎を概観し、茶を「点てる」「飲む」という実践を中心に行う。また、季節感のある茶の湯のお菓子をデザインし、茶会によるもてなしを体験する。さらに香道の基礎を学び、実際に自分独自のお香作りを体験する。茶道表現の理論的・実践的講義を通して、伝統芸術創造の将来への展望を探求する。

到達目標

- 客の心得を理解し、述べることができる。
- 盆略点前を習得し、実践できる。
- 茶の湯・お香の基礎を学び、概要を述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	茶の湯入門(1)
第2回	茶の湯入門(2)
第3回	茶の建築入門
第4回	茶の庭園入門
第5回 AL3	実技のための総論(1)
第6回 AL3	実技のための総論(2)
第7回 AL3	茶の湯基礎・割稽古(1)
第8回 AL3	茶の湯基礎・割稽古(2)
第9回 AL3	茶の湯の基礎・盆略点前(1)
第10回 AL3	茶の湯の基礎・盆略点前(2)
第11回 AL3	独自のお菓子をデザインしてお茶会の準備をする
第12回 AL3	茶の湯でもてなす、グループでお茶会をする(1)
第13回 AL3	茶の湯でもてなす、グループでお茶会をする(2)
第14回	独自のお香をつくり楽しむ(1)
第15回	独自のお香をつくり楽しむ(2)

成績評価方法	小テスト 50% 成果物 50%					
教科書	教科書は特に使用しない。必要に応じてプリント等の配布をする。					
参考文献	『茶道文化検定公式テキスト3級』飯島照仁共著 (淡交社)					
事前学習(内容・時間)	配布資料の確認 (30分)					
事後学習(内容・時間)	配布資料の確認と実技の復習 (1時間)					
フィードバックの方法	課題に関しては授業内で解説します。					
備 考				オフィスアワー	出講日の授業の前後	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニ ケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
伝統芸術表現研究Ⅱ (生け花の理論と表現)	小林 秀加	講義・演習	1年次 前期	選択	2	30	KGE12202

科目の概要

この授業は、花に触れ、花の表情に気づき、花の命の尊さ・奥深さを学ぶことが目的である。実際に季節の花を活けることにより、花を活かすことを教授する。いけ花を通して自身の感性を豊かに磨き、表現する能力を養い、表現を通して自分自身を知ってもらいたい。また花を中心に色彩・効用・祭との関わり等を実践を交えながら解説する。

到達目標

- 実践(技能・技術の習得)を通して生け花の本質を探り、作品を通して伝統芸術の根底にある日本的な心(知識・考え方)を表現できる。
- 季節の花に触れ、草花の命を見つめ、花の表情を捉え、いけ花の技能を生かし表現する能力・技術をつける。
- 個人の表現を通して自己を知り、グループでの表現を通してチームワークの大切さを知り、発揮できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	生け花の誕生 — 花と人との関係を知り、その歴史を探る —
第2回	花との対話 — 実践を通し花を活かす「活け花」を学ぶ —
第3回 AL3	花との調和 — 空間を演出することを実践 — (グループワーク)
第4回	表現原理 — いけ花は何を表現しているのか、理論・実技から学ぶ —
第5回 AL3	技と表現様式 — 技を知り、飾る場所や目的に応じたいけ花を実践 — (グループワーク)
第6回	伝統行事の花 — 節供を中心に花との関係を探る —
第7回	植物の効用 — 薬用としての植物を学ぶ —
第8回	植物染料 — 日本の伝統色彩から花との深い関係を捉える —
第9回	器との調和 — 花器の種類や素材・焼き物について学ぶ —
第10回	敷板との調和 — 敷板としての塗り物・その効用についても学ぶ —
第11回 AL2	京都の四季の花 — 京都の地に生まれたいけ花、花との関係を知る — (ディスカッション)
第12回	生け花の根源Ⅰ — 京都の伝統的な祭り「葵祭」・「時代祭」に触れ花との関係を知る —
第13回 AL5	生け花の根源Ⅱ — 京都の神社・祇園祭を実際見学し、花との関係を知る — (発見学習・体験学習)
第14回	四季の花材 — 四季における豊かな花材を知り、活ける —
第15回 AL3	芸術性の追求 — 公の場で展示する機会を設け、いけ花の芸術性を探求 — (グループワーク)

成績評価方法	成果物 85% 定期試験(レポート)15%					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	授業で紹介する内容を前回の授業で確認し、それを踏まえ当日までに予習する(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	授業時に用いた花を持ち帰り、帰宅後花を生け、作品を作る(1時間)。					
フィードバックの方法	成果物の評価に対しては、授業中に評価・解説します。					
備考	課題である作品は、授業中に合評形式で講評します。 花材費8,000円(花ハサミの無い人は、ハサミ代2,000円が プラスされますので10,000円になります。)			オフィスアワー		出講日の授業時間前後
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニ ケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
伝統芸術表現研究Ⅲ (書芸術の理論と表現)	池田 方彩	講義・演習	1年次 前期	選択	2	30	KGE12203

科目の概要

書とは筆墨をかりて文字を書くということであるが、文字には表意文字（漢字）と表音文字（仮名）があり、その書体には篆隸楷行草の五體、および仮名文字があり、書風も線質・字形・章法によって様々である。かような書之美を歴史的に順を追って講義する。また古典各体の臨書を課することで、各筆の有する深い人格性や高い技芸力、詩魂や情操の結実した造形の跡を理解する力を付け、さらに自ら書写することの悦びを感得してもらう。

到達目標

- 書（詞章）の意味を考え、内容を味わうことにより感性を高め、書写能力を向上させる。
- 書（文字）の鑑賞力を向上させ、芸術的な視点から述べることができる。
- 実際に書くという行為の楽しさを知り、自娛の境地を体得し、自らの書に表すことができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	(講義) 書芸術概論
第2回	(実技) 臨三体千字文
第3回	(講義) 奈良朝写経
第4回 AL 2	(実技) 臨三体般若心経・臨細楷般若心経
第5回	(講義) 平安朝三筆・三蹟
第6回 AL 2	(実技) 臨空海・臨行成
第7回	(講義) 平安朝仮名
第8回 AL 2	(実技) 仮名いろは文字
第9回	(講義) 鎌倉熊野懷紙
第10回 AL 2	(実技) 臨篆書・臨隸書
第11回	(講義) 墨蹟(禅の書)
第12回 AL 2	(実技) 座右の銘
第13回	(講義) 江戸の書
第14回 AL 2	(実技) 詠七夕懷紙
第15回 AL 2	(講義) 近現代の書 (実技) 自由創作

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	適宜資料を配布する					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	授業計画を確認しておく(30分)					
事後学習(内容・時間)	講義で配布した資料をしっかりと読むこと(60分)					
フィードバックの方法	作品は講評し、次回評価をお伝えします。					
備 考	筆ペン(太字用)の用意。受講中は私語を慎み、他者に迷惑をかけること。			オフィスアワー		出講日の授業時間前後
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語 I (Reading 1)	毛利 郁子 浮田 恭子	演習	1年次 通年	必修	2	60	KGE11301

科目の概要

英文読解を通して看護師として心得ておくべき看護・医療英語の理解を深めることを目的とし、そのために不可欠な医学専門用語を教授する。読解を中心に語学学習に必要な4技能全て（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）を総合的に活用して、英語でコミュニケーションをとれるよう指導する。実践的な看護・医療英語および専門知識を深めながら積極的に授業に取り組めるよう、隔週でペア・グループワークを組み込んだ授業を行う。

到達目標

- 看護・医療の分野の英単語を学び、国際化する医療現場で生かせる医療英語の専門知識を身につけ文献を読解できる。
- 読解力（リーディング）をベースに他の技能（リスニング、スピーキング、ライティング）を総合的に高め、英語でコミュニケーションがとれる。
- 学習した知識を応用しながら、医療現場で使用できる英語表現を記述・作成できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション、Unit 1-1: First visit to a Hospital(はじめての来院)その1
第2回 AL 3	Unit 1-2: First visit to a Hospital(はじめての来院)その2
第3回	Unit 2-1: How to Fill in a Registration Form(初診受付の手順)その1
第4回 AL 3	Unit 2-2: How to Fill in a Registration Form(初診受付の手順)その2
第5回	Unit 3 : Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities(生活習慣を聞く)
第6回	Unit 4-1: Mr. Brown's Symptoms(ブラウン氏の間診-1)その1
第7回 AL 3	Unit 4-2: Mr. Brown's Symptoms(ブラウン氏の間診-1)その2
第8回	Unit 5 : Medical Check Up 1 (健康診断1-脈拍、血圧、体重の測定の手順)
第9回	Unit 6 : Medical Check Up 2 (健康診断2-採血、検尿の手順)
第10回	Unit 7-1: Mr. Brown's diagnosis(診断-1 ブラウン氏のケース)その1
第11回 AL 3	Unit 7-2: Mr. Brown's diagnosis(診断-1 ブラウン氏のケース)その2
第12回	Unit 8-1: Mr. Anderson's Symptoms(アンダーソン氏の間診-2)その1
第13回 AL 3	Unit 8-2: Mr. Anderson's Symptoms(アンダーソン氏の間診-2)その2
第14回	前期総復習 1
第15回	前期総復習 2
第16回	中間試験返却/前期講義振り返り
第17回	Unit 9-1: Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptoms(アンダーソン氏の症状)その1
第18回 AL 3	Unit 9-2: Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptoms(アンダーソン氏の症状)その2
第19回	Unit 10-1: Explaining Blood Test Results(診断-2 血液検査結果の説明)その1
第20回 AL 3	Unit 10-2: Explaining Blood Test Results(診断-2 血液検査結果の説明)その2
第21回	Unit 11-1: How to Take Medicine(薬の説明)その1
第22回 AL 3	Unit 11-2: How to Take Medicine(薬の説明)その2
第23回	Unit 12-1: Mrs. Johnson Feels Dizzy(問診-3 ジョンソン婦人のめまい)その1
第24回 AL 3	Unit 12-2: Mrs. Johnson Feels Dizzy(問診-3 ジョンソン婦人のめまい)その2
第25回	Unit 13-1: An MRI Test(MRI検査)その1
第26回 AL 3	Unit 13-2: An MRI Test(MRI検査)その2
第27回 AL 3	Unit 14: Recommending an Operation (手術の薦め)
第28回 AL 3	Unit 15: Post-operative Care(術後のケア)
第29回	後期総復習 1
第30回	後期総復習 2

成績評価方法	中間・定期試験(筆記) 50% 小テスト 39% 成果物 11%					
教科書	『First Aid! English for Nursing』Akihiko Higuchi & John Tremarco (金星堂)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	次週範囲内の単語調べ、その他は随時授業で伝える(30分)					
事後学習(内容・時間)	毎回授業の復習をする(60分)					
フィードバックの方法	課題、小テストは授業内で解説する。結果は学生に確認してもらう。					
備 考				オフィスアワー	出講日(水、木曜日)授業の前後	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英会話 I (Listening & Speaking 1)	池田美智子 浮田 恭子	演習	1年次 通年	必修	2	60	KGE11302

科目の概要

この講義は病院を舞台とし、そこで患者と看護師の間でかわされる会話を中心に進める。特に、既往歴や生活習慣についての質問形式や薬についての説明や服用の指示など叙述や命令形を中心に講義する。ここで学ぶ英会話は、一般のコミュニケーションにおいても欠かせない表現がふくまれるものも多く、看護以外でも役立つものが多い。

到達目標

- テキスト内の役立つ英語表現を記述できる。
- 会話だけでなく英文を書くときの最低限のルールを習得する。
- 病院で必要とされるフォームを英語で記入作成できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	Lesson 1 In the Lobby of the Hospital(その1)病院にて
第2回 AL 3	Lesson 1 In the Lobby of the Hospital(その2)病院にて
第3回	Lesson 2 Registration: Patient Registration(その1)受付登録
第4回 AL 3	Lesson 2 Registration: Patient Registration(その2)受付登録
第5回	Lesson 3 Checking the Registration Card(その1)診察券を確認する
第6回 AL 3	Lesson 3 Checking the Registration Card(その2)診察券を確認する
第7回	Lesson 3 Checking the Registration Card(その3)診察券を確認する
第8回	Lesson 1 からLesson 3 までの小テストと解説
第9回	Lesson 4 Finding the Way: Hospital Map(その1)院内案内
第10回 AL 3	Lesson 4 Finding the Way: Hospital Map(その2)院内案内
第11回	Lesson 5 Personal History(その1) 病歴
第12回 AL 3	Lesson 5 Personal History(その2) 病歴
第13回	Lesson 6 Daily Activities(その1)生活習慣について
第14回 AL 3	Lesson 6 Daily Activities(その2)生活習慣について
第15回	Lesson 6 Daily Activities(その3)生活習慣について 昔ながらの痛み止めアスピリン
第16回	Lesson 7 More about Daily Activities(その1)より詳しい生活習慣について
第17回 AL 3	Lesson 7 More about Daily Activities(その2)より詳しい生活習慣について
第18回	Lesson 8 Asking about Symptoms(その1)症状について
第19回 AL 3	Lesson 8 Asking about Symptoms(その2)症状について
第20回	Lesson 9 More about Symptoms(その1)詳細な症状の説明
第21回 AL 3	Lesson 9 More about Symptoms(その2)詳細な症状の説明
第22回	Lesson 9 More about Symptoms(その3)詳細な症状の説明 手術中の音楽
第23回	Lesson 7からLesson 9までの小テストと解説
第24回	Lesson 10 Checking Blood Pressure and Weight(その1) 血圧と体重を測る
第25回 AL 3	Lesson 10 Checking Blood Pressure and Weight(その2) 血圧と体重を測る
第26回	Lesson 11 Laboratory Specimens(その1) 検査用検体について
第27回 AL 3	Lesson 11 Laboratory Specimens(その2) 検査用検体について
第28回	Lesson 12 Taking Medicines(その1) 薬剤投与について
第29回 AL 3	Lesson 12 Taking Medicines(その2) 薬剤投与について
第30回	Lesson 12 Taking Medicines(その3) 薬剤投与について 院内感染の原因

成績評価方法	中間試験・定期試験(筆記) 50% 小テスト 30% 成果物 20%					
教科書	『How Are You Feeling Today?やさしい看護英語』助川尚子編 (成美堂)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	次回学習する内容について単語を調べておくこと (1時間)。					
事後学習(内容・時間)	授業中に習った単語や表現について必ず復習しておくこと (1時間)。					
フィードバックの方法	課題返却時に解説を行う。					
備 考	テキスト、ノート、電子辞書持参のこと。課題提出期限は厳守してください。			オフィスアワー	出講日の授業の前後30分	
	ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
フランス語 I	渋谷 直樹	演習	1年次 通年	選択	2	60	KGE12301

科目の概要

この授業では、旅行でパリにきた日本の女子学生Yumiと、彼女が偶然出会ったフランス人Alexとの日常的なフランス語のやり取りをもとに、初級会話と基礎的な文法が身につけられるように授業を進めていきます。また、フランスという国に興味を持ってもらうのもこの授業の目的ですので、フランスの文化や歴史にも触れながら、パリの街並みや生活風景、あるいはフランスに関する映像もお見せします。

到達目標

- 旅行や日常での生活に必要な基本的なフランス語表現を覚えることで、会話能力と読む能力を身につけることができる。
- 会話における基礎的な文法を習得することで、フランス語によって簡単な文章や手紙、メールを書くことができる。
- 映像や文化に関するコラムを観ることで、フランスの日常生活やフランス人の物の考え方を述べるることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	【イントロダクション】:① ガイダンス ② パリの街並みとフランス語
第2回 AL6	【フランス語の音と文字】:① アルファベ ② 綴り字記号の規則 ③ 挨拶などの基本表現
第3回 AL6	【二人の出会い(1)】:① 主語人称代名詞 ② 動詞《être》「～です」③ 国籍の言い方
第4回 AL6	【二人の出会い(2)】:①《対話》「私は日本人です。」②《語彙》「国籍」③《文化》「他民族社会フランス」
第5回 AL6	【自己紹介(1)】:① 規則動詞《-er動詞》 ② 形容詞の性・数 ③ 名前の言い方
第6回 AL6	【自己紹介(2)】:①《対話》「私の名前はユミと言います。」②《語彙》「言語」③《文化》「フランスの日本語学習」
第7回 AL6	【年齢(1)】:① 動詞《avoir》「持っている」② 職業を表す名詞 ③ 疑問形容詞《quel》
第8回 AL6	【年齢(2)】:①《対話》「君はいくつ?」②《語彙》「数字・年齢」③《文化》「日本人は若作り?」
第9回 AL6	【物の尋ね方(1)】:① 疑問代名詞《que》 ② 不定冠詞と指示代名詞《ce(c')》 ③ 形容詞の位置
第10回 AL6	【物の尋ね方(2)】:①《対話》「これは何ですか?」②《語彙》「日用品I」③《文化》「宮崎駿のアニメ」
第11回 AL6	【好きなもの(1)】:① 母音で始まる動詞 ② 名詞の性・数と定冠詞 ③ 疑問文
第12回 AL6	【好きなもの(2)】:①《対話》「僕は日本が大好きだ!」②《語彙》「国と趣味」③《文化》「日本のマンガ・アニメ」
第13回 AL6	【場所の尋ね方(1)】:① 否定文I ② 疑問副詞《où》 ③《ilya～》「～があります」④ 量の表現
第14回 AL6	【場所の尋ね方(2)】:①《対話》「ここはどこ?」②《語彙》「建造物と前置詞」③《文化》「パリのカルティエ」
第15回	【前期のまとめ】
第16回 AL6	【パリでの日本食(1)】:① フランスの童話 ② 部分冠詞 ③ 冠詞のまとめ ④ 定冠詞の縮約
第17回 AL6	【パリでの日本食(2)】:①《対話》「お腹減ってない?」②《語彙》「食べ物と飲み物」③《文化》「レストラン」
第18回 AL6	【パリの日本専門店(1)】:① 所有形容詞 ② 強勢形
第19回 AL6	【パリの日本専門店(2)】:①《対話》「妹は布団で寝ている。」②《語彙》「家族」③《文化》「日本の生活様式」
第20回 AL6	【買い物(1)】:① 指示形容詞《ce》 ② 指示代名詞《celui》 ③ 形容詞の比較級 ④ 疑問副詞《combien》
第21回 AL6	【買い物(2)】:①《対話》「私は急須が欲しいのですが。」②《語彙》「日用品II」③《文化》「パリでの日本のもの」
第22回 AL6	【ジャパン・エキスポ(1)】:① 命令形 ② 補語人称代名詞 ③ 中性代名詞《y》
第23回 AL6	【ジャパン・エキスポ(2)】:①《対話》「君は行かないの?」②《語彙》「曜日・月」③《文化》「ジャパン・エキスポ」
第24回 AL6	【天候(1)】:① 代名動詞 ② 非人称構文 ③ 女性形容詞の特殊な形
第25回 AL6	【天候(2)】:①《対話》「暑い!」②《語彙》「天候・時刻」③《文化》「フランスの気候」
第26回 AL6	【美術館(1)】:① 疑問代名詞《qui》 ② 複合過去I
第27回 AL6	【美術館(2)】:①《対話》「素晴らしい、浮世絵は!」②《語彙》「衣服と色」③《文化》「ジャポニスム」
第28回 AL6	【バカンス(1)】:① 複合過去II ② 否定文II ③ 疑問副詞《comment》
第29回 AL6	【バカンス(2)】:①《対話》「多くの人がバカンスに出掛けた。」②《語彙》「乗り物」③《文化》「バカンス事情」
第30回	【後期のまとめ】

成績評価方法	成果物 60% 中間試験(筆記) 20% 定期試験(筆記) 20%					
教科書	『Le Japon, c'est cool! (ル・ジャポン、セ・クール!)』藤田裕二(朝日出版社)					
参考文献	授業中に紹介します。					
事前学習(内容・時間)	理解をより早めるために、授業の予習として毎回一通り教科書に目を通しておいて下さい(30分)。					
事後学習(内容・時間)	次の授業で新しいことを習得するためにも、その週に学んだ項目については復習して下さい(60分)。					
フィードバックの方法	提出して頂いた練習問題は添削をし、間違えたところは説明を添えて翌週の授業の最初にお返しします。					
備考	毎回発音と練習問題をします。語学は大変ですが、まずはフランスという国の文化や伝統を楽しみながら学んで下さい。			オフィスアワー		授業終了後30分、教室で質問を受け付けます。
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	—	○	△	—	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
中国語会話 I	潘 建秀	演習	1年次 通年	選択	2	60	KGE12302

科目の概要

中国語の入門クラス。前期の前半では、中国語の発音練習や四声及び発音表記である「ピンイン」の修得に重点を置いて授業を進め、後半から簡単な中国語の会話を通じて発音や四声を確認なものにしたい。後期前半ではより複雑な会話を教授すると同時に、読解練習を通じて語彙を増やすことができるよう指導する。

到達目標

- 発音記号（ピンイン）を正しく表記し、発音することができる。
- 教科書で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語から中国語、中国語から日本語に訳することができる。
- 授業で学んだ内容を活用し、簡単な文書の作成、会話をすることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス、中国語の特徴
第2回	発音の基本 ①声調 ②単母音
第3回	発音の基本 ③複合母音
第4回	発音の基本 ①子音
第5回	発音の基本 ②鼻母音
第6回	発音の基本 ①声調の組み合わせ
第7回	発音の基本 ②発音の総合的な練習 ③小テスト
第8回	第一課 ①人称代名詞 ②「是」の文
第9回 AL 3	第一課 ③「吗」疑問詞 ④名前の言い方(協働学習)
第10回	第二課 ①動詞が述語になる文 ②指示代名詞
第11回 AL 3	第二課 ③疑問詞を使う疑問文 ④「的」(協働学習)
第12回	第三課 ①形容詞が述語になる文 ②所有をあらわす「有」
第13回 AL 3	第三課 ③反復疑問詞 ④副詞「也」と「都」(協働学習)
第14回	総合練習
第15回	中国文化紹介と中間試験及び解説
第16回	第四課 ①場所をあらわす代名詞 ②存在をあらわす「在」
第17回 AL 3	第四課 ③動詞の重ね型 ④省略疑問文を作る「呢」(協働学習)
第18回	第五課 ①数詞 ②量詞
第19回 AL 3	第五課 ③「几」と「多少」 ④語気助詞「吧」(協働学習)
第20回	第六課 ①存在をあらわす「有」 ②連動文
第21回 AL 3	第六課 ③月日、曜日 ④時刻(協働学習)
第22回	総合練習、中国文化紹介
第23回	中国文化紹介と小テスト
第24回	第七課 ①助動詞「要」「想」 ②介詞「在」「从」
第25回 AL 3	第七課 ③完了をあらわす「了」(協働学習)
第26回	第八課 ①助動詞「能」「会」「可以」 ②経験をあらわす「过」
第27回 AL 3	第八課 ③時間の長さのあらわし方(協働学習)
第28回	第九課 ①介詞「給」「对」 ②動詞の進行をあらわす「正」「在」「正在」
第29回	第九課 ③動作・状態の持続をあらわす「着」
第30回	最終試験及び解説

成績評価方法	中間試験(筆記) 30% 定期試験(筆記) 40% 小テスト 30%					
教科書	『中国語ポイント42』本間史、孟広学(白水社)					
参考文献	授業中に指示します。					
事前学習(内容・時間)	授業前にCDを使って単語の発音を予習しておく(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	毎回習った会話文を復習しておく(1時間)。					
フィードバックの方法	試験の解説は授業内で行います。					
備考	発音練習時は積極的に口に出して練習しよう。			オフィスアワー	出講日の授業前後	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	△	—	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ビジネス中国語	潘 建秀	演習	1年次 通年	選択	2	60	KGE12303

科目の概要

初めて中国語を勉強する方やある程度中国語を学んだ人のためのビジネス中国語入門コースである。中国語の基本知識や発音から始まり、基本文法と基礎会話を導入する。ビジネスに欠かせない中国語を段階的に学べる簡単な中国語会話を教授する。例えば、接待用語、連絡用語、依頼や約束等の商談用語を通じてビジネス中国語の基礎を固められるよう指導する。

到達目標

- 発音記号（ピンイン）を正しく表記し、発音することができる。
- 教科書で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語から中国語、中国語から日本語に訳することができる。
- 中国語での簡単な文書の作成や初級のビジネスコミュニケーション能力を身につけることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス、基本知識、発音と文法特徴
第2回	ピンイン紹介、母音の特徴①単母音
第3回	子音、軽声
第4回	母音の特徴②複合母音
第5回	母音の特徴③鼻母音
第6回	声調変化と発音の総合練習
第7回	小テスト、中国文化紹介
第8回	第一課 ①人称代名詞 ②「是」の文
第9回 AL 3	第一課 ③「吗」疑問文 ④名前の言い方
第10回	第二課 ①動詞述語文 ②場所代名詞
第11回 AL 3	第二課 ③疑問詞を使う疑問文 ④「先…然后」
第12回	第三課 ①形容詞述語文 ②指示代名詞
第13回 AL 3	第三課 ③反復疑問文 ④副詞「也」 ⑤構造助詞「的」
第14回	総合練習
第15回	中間試験及び解説と中国文化の紹介
第16回	第四課 ①動詞「有」 ②助数詞
第17回 AL 3	第四課 ③動詞の重ね型 ④数字
第18回	第五課 ①時刻の言い方 ②名詞述語文
第19回 AL 3	③「了」 ④所在を表す「在」
第20回	第六課 ①前置詞「在」 ②「(一)边…(一)边…」
第21回	第六課 ③「快/要…了」 ④存現文 ⑤動詞+过
第22回	小テスト、中国文化紹介
第23回	第七課 ①「要」「得」+動詞 ②時間詞
第24回 AL 3	③「打算」「想」+動詞 ④時間量補語 ⑤選択疑問文
第25回	第八課 ①方位詞 ②連動文
第26回 AL 3	第八課 ③介詞「从」「到」「离」 ④「(是)…的」 ⑤度量衡
第27回	第九課 ①「一…就」 ②(有)多+形容詞
第28回	第九課 ③副詞「就」「才」 ④概数表現 ⑤比較表現
第29回	総合練習
第30回	最終試験、中国文化の紹介

成績評価方法	中間試験(筆記)30% 定期試験(筆記)40% 小テスト 30%					
教科書	『仕事のための基礎中国語』 荘嚴、佐藤貴子 (金星堂)					
参考文献	授業中に指示します。					
事前学習(内容・時間)	授業前にCDを使って単語の発音を予習しておく(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	毎回習った会話文を復習しておく(1時間)。					
フィードバックの方法	試験の解説は授業内で行います。					
備考	発音練習時は積極的に口に出して練習しよう。			オフィスアワー	出講日の授業前後	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	△	—	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
イタリア語 I	中川 光	演習	1年次 通年	選択	2	60	KGE12304

科目の概要

イタリア語の基礎的な表現と仕組みを身につけてもらいます。毎回、文法事項と会話表現を平行して進めていきます。授業はできるだけ発声したり、書いたりする作業をしてもらいます。テキストとプリントを併用しながら講義を行います。

到達目標

- イタリア語の基本的な仕組みを理解し、簡単な文章を記述することができる。
- イタリア旅行に使えるレベルの表現を発話できる。
- イタリア語の発音方法を修得できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション 受講時の注意事項 イタリア語・イタリアの紹介(1)
第2回 AL3	発音と読み方 あいさつ
第3回 AL3	名詞 近況をたずねる表現・自己紹介
第4回 AL3	冠詞 お礼の表現・声かけ
第5回 AL3	形容詞(1) 状況を表す
第6回 AL3	形容詞(2) お詫び
第7回 AL3	動詞essere(1) 値段の尋ね方
第8回 AL3	動詞essere(2) 数字の言い方
第9回 AL3	不規則動詞(1) 希望を伝える
第10回 AL3	不規則動詞(2) 感情を伝える
第11回 AL3	不規則動詞(3) 予定を伝える
第12回 AL3	規則動詞(1) 必要性を訴える
第13回 AL3	規則動詞(2) 好みを言う
第14回 AL3	規則動詞(3) ものを尋ねる
第15回 AL3	前期のまとめ (授業時間とは別に定期試験期間に中間試験を行います)
第16回 AL3	前期の復習 イタリアの紹介(2)
第17回 AL3	冠詞前置詞 場所を尋ねる
第18回 AL3	副詞 有無を尋ねる
第19回 AL3	所有形容詞 どれか尋ねる
第20回 AL3	数詞・時間表現 手段を尋ねる
第21回 AL3	疑問詞 所要時間を尋ねる
第22回 AL3	不規則動詞(1) 所有を尋ねる
第23回 AL3	不規則動詞(2) 依頼する
第24回 AL3	不規則動詞(3) 許可を求める
第25回 AL3	目的代名詞(1) 時間を尋ねる
第26回 AL3	目的代名詞(2) 曜日日付を言う
第27回 AL3	再帰動詞(1) 聞き返す
第28回 AL3	再帰動詞(2) 励ましの表現・天候表現
第29回 AL3	近過去 困ったときの表現
第30回 AL3	総復習 (定期試験期間中に期末試験を行います)

成績評価方法	中間試験(筆記) 25% 定期試験(筆記) 25% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	『イタリア語がびっくりするほど身につく本』鶴田真子美 (あさ出版)					
参考文献	各種イタリア語辞典 (授業内で指示します)					
事前学習(内容・時間)	テキストをあらかじめ読んでおく (約30分)					
事後学習(内容・時間)	例文の音読暗唱、単語の綴り書き (約30分)					
フィードバックの方法	原則として小テスト、課題等は授業中に解題、解説する。					
備考	授業以外にもイタリア語と接する機会をつくってください (自宅復習、TVラジオイタリア語講座、インターネットなど)。授業内の小テスト時期はその都度指示します。			オフィスアワー	授業前後の休み時間	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	△	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ドイツ語 I	神竹 道士	演習	1年次 通年	選択	2	60	KGE12305

科目の概要

大学で初めてドイツ語を学ぶ学生のための入門的な初級ドイツ語の授業です。文法はひと通りすべての学習項目を扱いますが、「読む」と「話す」ことに重点を置きます。ドイツ語の学習だけでなく、教科書の「コラム」欄を通してドイツ語圏社会への関心を引き出せるような授業を展開します。

到達目標

- ドイツ語の綴りと発音の仕方を習得する。
- ドイツ語の基礎的な文構造を理解する。
- ドイツ語学習を通して異文化社会への理解を深める。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	導入:アルファベット、綴りと発音、ドイツ語圏の国々の紹介
第2回	第1課:動詞の現在人称変化(1)
第3回 AL 3	テキストの朗読と和訳、練習問題(グループワーク)
第4回	第2課:名詞の性、定冠詞と不定冠詞
第5回 AL 3	テキストの朗読と和訳、練習問題(グループワーク)
第6回	第3課:名詞の複数形、否定文
第7回 AL 3	テキストの朗読と和訳、練習問題(グループワーク)
第8回	第4課:動詞の現在人称変化(2)
第9回 AL 3	テキストの朗読と和訳、練習問題(グループワーク)
第10回	第5課:前置詞、並列接続詞
第11回 AL 3	テキストの朗読と和訳、練習問題(グループワーク)
第12回	第6課:話法の助動詞
第13回 AL 3	テキストの朗読と和訳、練習問題(グループワーク)
第14回	第7課:形容詞
第15回 AL 3	テキストの朗読と和訳、練習問題(グループワーク)、<前期のまとめ>
第16回	第8課:比較表現
第17回 AL 3	テキストの朗読と和訳、練習問題(グループワーク)
第18回	第9課:動詞の3基本形
第19回 AL 3	テキストの朗読と和訳、練習問題(グループワーク)
第20回	第10課:現在完了形
第21回 AL 3	テキストの朗読と和訳、練習問題(グループワーク)
第22回	第11課:再帰動詞
第23回 AL 3	テキストの朗読と和訳、練習問題(グループワーク)
第24回	第12課:定関係代名詞
第25回 AL 3	テキストの朗読と和訳、練習問題(グループワーク)
第26回	第13課:受動文
第27回 AL 3	テキストの朗読と和訳、練習問題(グループワーク)
第28回	第14課:接続法
第29回 AL 3	テキストの朗読と和訳、練習問題(グループワーク)
第30回	<後期のまとめ>

成績評価方法	中間・定期試験(筆記) 50% 小テスト 30% 成果物 20%					
教科書	『プレーミエ ドイツ語総合読本』神竹道士・國光圭子・田島昭洋著(白水社) 必携					
参考文献	独和辞典(第1回の授業で紹介) 必携					
事前学習(内容・時間)	既習内容の再確認(30分)					
事後学習(内容・時間)	ドイツ語の発音練習(30分)					
フィードバックの方法	小テストは授業中に返却し、正解を板書して解説します。					
備 考	積極的に授業に参加してください。			オフィスアワー	昼休み(非常勤講師控室)	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	—	△	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
教育学概論	伊佐 夏実	講義	2年次 前期	選択	2	30	KGE23101

科目の概要

教育学の対象は、学校教育のような制度化された側面だけでなく、家庭や地域で行われる人間形成としての側面も含んでいる。本講義では、看護師に必要とされる教育学の基礎的知識や技能について概説する。その際、人間の発達や学習の特質とともに、社会のなかで教育が果たしている機能についても検討する。

到達目標

- 人間の発達や学習についての基礎的な知識を身につけ、説明することができる。
- 指導者としての看護師の役割について理解し、指導の方法を身につけることができる。
- 自身のキャリアを開発する上で必要とされる学習について理解し、その方法を身につけることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL2	教育学ってなんだろう？
第2回 AL2	発達と教育:遺伝か環境か？
第3回 AL2	子どもの成長・発達をめぐる諸問題
第4回 AL2	学習の原理と方法
第5回 AL2	学習意欲と成果
第6回 AL2	教育評価の理念と方法
第7回 AL2	指導者の役割と姿勢
第8回 AL2	指導の設計と効果的な指導法
第9回 AL3	コミュニケーションの技法①
第10回 AL3	コミュニケーションの技法②
第11回 AL3	ディスカッションの技法①
第12回 AL3	ディスカッションの技法②
第13回 AL3	リーダーシップとチーム力
第14回 AL3	キャリアと専門性
第15回 AL3,4	まとめ

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	特に使用しません。適宜、プリントや参考資料を配布します。					
参考文献	『看護のための教育学』中井俊樹、小林忠資編著(医学書院)					
事前学習(内容・時間)	毎時間グループワークを行いますので、テーマについて事前に調べてくること(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	毎時間の授業内容を踏まえた小レポートを作成し、次回授業時まで提出すること(1時間)。					
フィードバックの方法	成果物および小テストについては、授業内で解説します。					
備 考	毎時間グループワークを実施しますので、受講生の意欲的な参加を求めます。			オフィスアワー	授業の前後ほか随時	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
発達心理学	小川 詩乃	講義	2年次 前期	選択	2	30	KGE23102

科目の概要

わたしたち人間は生まれてから死ぬまで心身ともに「変化し続ける生き物」です。こうした変化を全て「発達」ととらえ、人間のこころや身体、行動などの変化を研究するのが「発達心理学」という学問です。本講義では、人間の胎児期から高齢期までの各発達段階における特徴、および、発達障害について講義します。また本講義では、子どもの行動への対応について、受講生のみなさんと一緒に考えていきます。

到達目標

- 人間の各発達段階における発達の特性についての基礎知識を述べることができる。
- 発達障害の特性を理解し、発達障害児者への支援・対応について説明できる。
- 応用行動分析の基本概念を理解し、子どもの行動への対応についての是非を指摘できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画		
第1回 AL6	発達心理学とは	心理的疑似体験①	子どもの行動への対応①
第2回 AL6	胎児期・乳児期	心理的疑似体験②	子どもの行動への対応②
第3回 AL6	幼児期①	心理的疑似体験③	子どもの行動への対応③
第4回 AL6	幼児期②	心理的疑似体験④	子どもの行動への対応④
第5回 AL6	発達障害①	心理的疑似体験⑤	子どもの行動への対応⑤
第6回 AL6	児童期①	心理的疑似体験⑥	子どもの行動への対応⑥
第7回 AL6	児童期②	心理的疑似体験⑦	子どもの行動への対応⑦
第8回 AL6	発達障害②	心理的疑似体験⑧	子どもの行動への対応⑧
第9回 AL6	青年期	心理的疑似体験⑨	子どもの行動への対応⑨
第10回 AL6	成人期①	心理的疑似体験⑩	子どもの行動への対応⑩
第11回 AL6	成人期②	心理的疑似体験⑪	子どもの行動への対応⑪
第12回 AL6	発達障害③	心理的疑似体験⑫	子どもの行動への対応⑫
第13回 AL6	高齢期①	心理的疑似体験⑬	子どもの行動への対応⑬
第14回 AL6	高齢期②	心理的疑似体験⑭	子どもの行動への対応⑭
第15回	各発達段階における発達の特性の振り返り・補足		

成績評価方法	定期試験(筆記) 60% 成果物 40%					
教科書	なし(毎回プリントを配布する)					
参考文献	『史上最強図解よくわかる発達心理学』林洋一(ナツメ社)					
事前学習(内容・時間)	講義終了時に、次回講義に関係するウェブサイト(例:厚生労働省の乳幼児身体発育調査等)の閲覧を指示するので、みて理解しておくこと(30分)。					
事後学習(内容・時間)	講義で取り上げた内容を意識して、新聞やテレビ等のニュースをみておくこと(60分)。					
フィードバックの方法	レポートに記載されたコメント・質問に対しては、授業内で解説します。					
備 考	成果物(毎回行うレポート)に積極的に感想や質問、知りたいことなど記述するようにしてください。			オフィスアワー	授業終了後30分、教室で質問を受け付ける。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ジェンダー論	木村 千尋	講義	2年次 後期	選択	2	30	KGE23103

科目の概要

心理学を基礎に男性、女性の性差を考える。また、看護に必要なジェンダーを理解するために、最新の科学的知見といった客観的な情報に基づき、ジェンダーやセクシュアリティという概念を説明する。ジェンダーの歴史を概説し、差別や抑圧に満ちた現実を変える為の実践活動、フェミニズムや同性愛者解放運動、近年の日本政府による男女参画行政などとの密接な結びつきについても教授する。

到達目標

- ジェンダーから見えてくる社会を理解し、述べることができる。
- 看護職における、多様な生き方を論ずることができる。
- 個人の特徴を生かしたミッション・ビジョン・バリュー設定の技能を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL2	オリエンテーション・ジェンダー論概論
第2回 AL3	教育の中で伝わるジェンダーのメッセージ、隠れたカリキュラム
第3回 AL2	家族変貌とジェンダーのゆくえ
第4回 AL2	主婦の存在・母性って
第5回 AL3	ジェンダーフリー
第6回 AL4	仕事にまつわるジェンダー・ギャップ
第7回 AL2	ジェンダーとセクシュアリティ
第8回 AL2	性暴力をどう対処するのか
第9回 AL3	見た目とモテ問題
第10回 AL2	恋愛心理学・恋愛がもつ意味とチカラ
第11回 AL2	ジェンダーが強い身体の役割
第12回 AL4	メディアに潜むジェンダー・ステレオタイプ
第13回 AL3	フェミニズムと学問
第14回 AL3	ケーススタディ・看護とジェンダー
第15回 AL4	性別役割・自分らしく生きる為に

成績評価方法	成果物100%（内、レポート課題80%、作品20%）					
教科書	プリント随時配布					
参考文献	適宜紹介					
事前学習（内容・時間）	新聞・雑誌・インターネット等を通して、講義内容に関する情報を事前に収集する（15分）。					
事後学習（内容・時間）	毎講義後、授業内で扱ったテーマについて家族、友人と意見を交わす（15分）。					
フィードバックの方法	最終日にレポートを返却し、コメントを一人ずつ伝えます。					
備 考	グループワークで意見を出して、興味の幅を広げてもらう事を望みます。			オフィスアワー	出講日の授業前後	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
民俗学	鈴木 洋昭	講義	2年次 後期	選択	2	30	KGE23104

科目の概要

柳田国男の民俗学を中心に学問の対象・方法・課題について説明する。「民俗」とは、人々の生活習慣である。生活の中の社会・経済・宗教・芸能など諸側面における習慣と伝統であり、知識・技術・観念などの生活の知恵といえる。そうした民俗の分析を通して、具体的には恋愛と結婚をテーマに、人間とは何かを考えることにより、看護の現場や受講生自身の生涯設計に活用できるよう講義する。

到達目標

- 人間の生命活動を理解し、比較論的研究法や民俗誌的研究法といった民俗学的方法論を身につけ、説明できる。
- 生活文化とその歴史的解明を行う中で、日本の伝統的な社会と文化を体系的に修得し、論ずることができる。
- われわれの今生きている現在が、「民俗」といかにかわっているかを理解し、述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL2	はじめに
第2回	民俗学とは何か？
第3回	民俗とは何か？
第4回 AL2	柳田国男と民俗学
第5回	動作伝承と言語伝承
第6回 AL2	昔話と伝説
第7回	民俗学の方法論(1)
第8回	民俗学の方法論(2)
第9回	民俗学の方法論(3)
第10回 AL3	人生と儀礼(1) 誕生～成人
第11回 AL3	人生と儀礼(2) 恋愛
第12回 AL3	人生と儀礼(3) 結婚
第13回 AL3	人生と儀礼(4) 死
第14回	民俗学の近代化
第15回	まとめ

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物(レポート) 30%					
教科書	なし					
参考文献	その都度紹介する					
事前学習(内容・時間)	講義時に紹介するテーマについて事前に調べる(30分)。					
事後学習(内容・時間)	講義終了後、講義から得られたものや感じたものを簡単にまとめる(30分)。					
フィードバックの方法	レポートに対する講評を授業内で行います。					
備 考				オフィスアワー	授業終了後30分程度教室で質問を受け付ける。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	—	—	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療ジャーナリズム論	佐々木 宏	講義	2年次 前期	選択	2	30	KGE23105

科目の概要

医療と社会の関係について新聞記事を通してジャーナリズムの視点から考える。二人に一人はがんになり、介護のあり方も大きな社会問題になる中、医療を見る目は家族だけでなく、国・行政も厳しくなっている。ジャーナリズムが医療を取り上げる意味について何かを講義し、文章、討論などで「あるべき医療」を考える。

到達目標

- 医療に求められる社会的な視点について説明できる。
- 多様な観点から医療に従事する者としての常識を身につけることができる。
- プレゼン力、文章的な表現力を身につけられる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス(医療と社会)＝作文提出
第2回	新聞から読み解く医療①(高齢者年齢の定義Ⅰ)＝レポート提出
第3回	新聞から読み解く医療②(高齢者年齢の定義Ⅱ)
第4回	新聞から読み解く医療③(認知症についてⅠ)＝レポート提出
第5回	新聞から読み解く医療④(認知症についてⅡ)
第6回	新聞から読み解く医療⑤(薬害エイズについて)
第7回	新聞から読み解く医療⑥(がん患者・家族の支援についてⅠ)＝レポート提出
第8回	新聞から読み解く医療⑦(がん患者・家族の支援についてⅡ)
第9回 AL 2	グループ討論①
第10回 AL 2	グループ討論②
第11回 AL 2	グループ討論③
第12回	医療テーマに関する調査・研究
第13回 AL 4	調査・研究結果の発表(プレゼンテーション)①
第14回 AL 4	調査・研究結果の発表(プレゼンテーション)②
第15回	医療と社会を考える＝作文提出

成績評価方法	成果物 80% 小テスト 20%					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	新聞に目を通しておくこと(毎日10分)。					
事後学習(内容・時間)	レポートの添削で指摘されたことを再考する(30分)。					
フィードバックの方法	原則として、課題レポートは次回授業で返却し、講評します。					
備 考	毎回、医療に関する新聞記事コピーをテーマごとに配布します。 毎回、一般常識として知っておきたい「実践ことば力」のミニテストを行います。			オフィスアワー		授業終了後30分、教室で質問を受ける。
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	△	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅱ (Writing 1)	毛利 郁子	演習	2年次 通年	必修	2	60	KGE21301

科目の概要

看護師と患者の対話、痛みや症状の表現、薬の基本的知識など看護・医療の現場で役立つ様々な英語表現の基礎と応用を教授します。英作文や英会話を学習しながら、ライティングのみならず、リスニング、リーディング、スピーキングをも総合的にスキルアップし、英語でコミュニケーションをとれるよう指導します。ペアワーク、グループワークのアクティブラーニングを取り入れた参加型授業です。

到達目標

- 看護・医療英語における専門用語や言い回しを習得し、記述できる。
- 国際的な医療従事者として心得ておくべき、基本的な英作文や対話を習得する。
- 医療現場において、実際に臨機応変に英語で対応できる様、習得した知識をスムーズに運用できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション、Unit1-1: First Visit 初診・問診票 その1
第2回 AL3	Unit1-2: First Visit 初診・問診票 その2
第3回	Unit2-1: At the Examination Room 診察室での基本会話 その1
第4回 AL3	Unit2-2: At the Examination Room 診察室での基本会話 その2
第5回	Unit3-1: Flu Symptoms インフルエンザの症状 その1
第6回 AL3	Unit3-2: Flu Symptoms インフルエンザの症状 その2
第7回	Unit4-1: Pain Problems 痛みへの対処 その1
第8回 AL3	Unit4-2: Pain Problems 痛みへの対処 その2
第9回	Unit5-1: Stomachache 胃痛 その1
第10回 AL3	Unit5-2: Stomachache 胃痛 その2
第11回	Unit6-1: Abdominal Pain 腹痛 その1
第12回 AL3	Unit6-2: Abdominal Pain 腹痛 その2
第13回	Unit7-1: Urinalysis 尿検査 その1
第14回 AL3	Unit7-2: Urinalysis 尿検査 その2
第15回	前期総復習
第16回	前期試験返却、前期講義振り返り
第17回	Unit8-1: Cholesterol コレステロール その1
第18回 AL3	Unit8-2: Cholesterol コレステロール その2
第19回	Unit9-1: Anemia 貧血 その1
第20回 AL3	Unit9-2: Anemia 貧血 その2
第21回	Unit10-1: Injury 怪我 その1
第22回 AL3	Unit10-2: Injury 怪我 その2
第23回	Unit11-1: Operation Period 手術の準備 その1
第24回 AL3	Unit11-2: Operation Period 手術の準備 その2
第25回	Unit12-1: Alcohol Poisoning アルコール中毒 その1
第26回 AL3	Unit12-2: Alcohol Poisoning アルコール中毒 その2
第27回	Unit13-1: Ultrasound Examination 超音波検査 その1
第28回	Unit13-2: Ultrasound Examination 超音波検査 その2
第29回	後期総復習1
第30回	後期総復習2

成績評価方法	中間・定期試験(筆記) 50% 小テスト 39% 成果物 11%					
教科書	『Medical English Clinic』西原俊明、西原真弓、Tony Brown (センゲージ・ラーニング)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	次週範囲内の単語調べ(30分)					
事後学習(内容・時間)	授業の復習(60分)					
フィードバックの方法	課題、小テストは授業内で解説する。結果は学生に確認してもらう。					
備考					オフィスアワー	出講日(水曜日、木曜日)授業の前後
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅱ (Writing 1)	池田美智子	演習	2年次 通年	必修	2	60	KGE21302

科目の概要

この講義では身近な健康問題、感染症などを含む世界的規模の健康問題、DNA解析など先端医療の発展と問題点について講義する。英文を読み進めることで、ネットやニュースなどで目にしたことのある健康問題について、より深い理解と知識を広げることができるように説明する。

到達目標

- リーディング、リスニング、穴埋め問題を通して、健康問題への専門知識、用語、表現を英語で記述できる。
- 英語で書かれた図表やグラフを読み取り説明できる。
- ネットやニュースで目にする健康問題について英語で説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	Sense of Taste and Eating Habits(その1)味覚と食習慣
第2回 AL3	Sense of Taste and Eating Habits(その2)味覚と食習慣
第3回	Lose Weight and Stay Active(その1)体重管理
第4回 AL3	Lose Weight and Stay Active(その2)体重管理
第5回	Dangers of Internet Addiction(その1)インターネット依存症
第6回 AL3	Dangers of Internet Addiction(その2)インターネット依存症
第7回	Before It Is Too Late(その1)大気汚染
第8回 AL3	Before It Is Too Late(その2)大気汚染
第9回	Global Water Problem(その1)地球規模の水問題
第10回 AL3	Global Water Problem(その2)地球規模の水問題
第11回	Global Cooperation to Prevent Dementia(その1)認知症への世界的協力
第12回 AL3	Global Cooperation to Prevent Dementia(その2)認知症への世界的協力
第13回	Battle against the Ebola Virus(その1)エボラ出血熱との闘い
第14回 AL3	Battle against the Ebola Virus(その2)エボラ出血熱との闘い
第15回	Need for Disaster Medicine: DMAT and JMAT(その1)大規模災害での医療活動
第16回 AL3	Need for Disaster Medicine: DMAT and JMAT(その2)大規模災害での医療活動
第17回	Angelina's Decision(その1)アンジーの選択
第18回 AL3	Angelina's Decision(その2)アンジーの選択
第19回	Ethical Implications of Prenatal Testing(その1)新型出生前診断
第20回 AL3	Ethical Implications of Prenatal Testing(その2)新型出生前診断
第21回	ES Cells and iPS Cells(その1)ES細胞とiPS細胞
第22回 AL3	ES Cells and iPS Cells(その2)ES細胞とiPS細胞
第23回	Mindfulness in Today's Multitasking Culture(その1)新しいリラクゼーション法
第24回 AL3	Mindfulness in Today's Multitasking Culture(その2)新しいリラクゼーション法
第25回	Preventing Child Abuse(その1)幼児虐待を防ぐ
第26回 AL3	Preventing Child Abuse(その2)幼児虐待を防ぐ
第27回	Towards a More Inclusive Society(その1)誰もが参加できる社会へ
第28回 AL3	Towards a More Inclusive Society(その2)誰もが参加できる社会へ
第29回	Education for Better Health and a Better Future(その1)健康と未来のための教育
第30回 AL3	Education for Better Health and a Better Future(その2)健康と未来のための教育

成績評価方法	中間試験・定期試験(筆記) 50% 小テスト・成果物 50%					
教科書	『Mindfulness これからの健康的な社会へ』園城寺康子他(南雲堂)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	次回学習する内容について単語などを調べておくこと(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	学習した内容について必ず復習しておくこと(1時間)。					
フィードバックの方法	小テストなど返却時に解説を行う。					
備考	テキスト、ノート、電子辞書持参のこと				オフィスアワー	出講日の授業の前後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅱ (Writing 1)	永田 節子	演習	2年次 通年	必修	2	60	KGE21303

科目の概要

英語Ⅰの基礎の上に、ライティングを中心に総合的な英語力を強化できるよう指導します。グローバル化が進み、医療や看護の現場でも外国人の患者数が増え、英語でコミュニケーションを取ることが求められるようになっていきます。そこで、医療現場で本当に必要な英語表現や、役に立つ専門用語を教授します。

到達目標

- ライティングの為の英語力を習得できる。
- 看護英語に必要な語彙を習得できる。
- 医療や看護に関する専門用語や英語表現を習得できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	Introduction
第2回	Unit 1 Power of Language 言葉の力
第3回	Unit 2 Don't worry. 励ましの声をかけましょう(1)
第4回	Unit 2 Don't worry. 励ましの声をかけましょう(2)
第5回	Unit 3 How may I help You? どうなさいましたか(1)
第6回	Unit 3 How may I help You? どうなさいましたか(2)
第7回	Unit 4 How are you feeling? 気分を聞いてみましょう(1)
第8回	Unit 4 How are you feeling? 気分を聞いてみましょう(2)
第9回	Unit 5 Could you fill in this medical questionnaire? この問診票にご記入いただけますか(1)
第10回	Unit 5 Could you fill in this medical questionnaire? この問診票にご記入いただけますか(2)
第11回	Unit 6 Take the elevator, please. 行き先を案内しましょう(1)
第12回	Unit 6 Take the elevator, please. 行き先を案内しましょう(2)
第13回	Unit 7 What are your symptoms? 症状を尋ねましょう(1)
第14回	Unit 7 What are your symptoms? 症状を尋ねましょう(2)
第15回	Unit 8 Where does it hurt? 痛みの場所を聞きましょう(1)
第16回	Unit 8 Where does it hurt? 痛みの場所を聞きましょう(2)
第17回	Unit 9 How long have you had these symptoms? 症状の持続時間を聞きましょう(1)
第18回	Unit 9 How long have you had these symptoms? 症状の持続時間を聞きましょう(2)
第19回	Unit 10 I'm going to take a blood sample. 検査の手順を説明しましょう(1)
第20回	Unit 10 I'm going to take a blood sample. 検査の手順を説明しましょう(2)
第21回	Unit 11 Let me take your vital signs. 入院患者との会話を学びましょう(1)
第22回	Unit 11 Let me take your vital signs. 入院患者との会話を学びましょう(2)
第23回	Unit 12 Your surgery will be tomorrow. 手術前後の説明をしましょう(1)
第24回	Unit 12 Your surgery will be tomorrow. 手術前後の説明をしましょう(2)
第25回	Unit 13 There are three kinds of medicine. 薬の説明をしましょう(1)
第26回	Unit 13 There are three kinds of medicine. 薬の説明をしましょう(2)
第27回	Unit 14 Are you worried about anything? 文化の違いによる心配事を聞きましょう(1)
第28回	Unit 14 Are you worried about anything? 文化の違いによる心配事を聞きましょう(2)
第29回	Unit 15 It's time to be discharged. 退院後の説明をしましょう(1)
第30回	Unit 15 It's time to be discharged. 退院後の説明をしましょう(2)

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 小テスト・成果物 50%					
教科書	『LIFESAVER: Basic English in Medical Situations』New edition, Maki Inoue & Toshiya Sato(セービング ラーニング株式会社) 他、適宜資料配布します。					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	教科書に目を通し、単語や熟語など調べておくこと(2時間)。					
事後学習(内容・時間)	授業内容や教科書を復習し、必要な表現や単語を覚えること(1時間)。					
フィードバックの方法	小テストは授業内で解説します。					
備考	教科書、ノート、筆記用具、辞書を持参すること。			オフィスアワー	出講日の授業の前後	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英会話Ⅱ (Listening & Speaking 2)	永田 節子	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22301

科目の概要

看護に関する語彙を使った会話文を使用し、リスニングやスピーキングをとおして英会話能力を高めることを目標とする。日本語を解しない患者へのコミュニケーションの取り方（症状、体調、治療に対する希望や不満、薬の飲み方の説明や治療上必要な注意事項、患者の症状、病名、治療法の説明、病院内の案内等）について、必要な英語表現を教授する。

到達目標

- 医療現場で想定される英会話力を習得することができる。
- 医療・看護に必要な語彙を身につけることができる。
- 医療・看護の様々な場面に使用できるような英語表現を習得することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	Introduction
第2回 AL3	Unit 1 Getting to Know the Patients 1
第3回 AL3	Unit 2 Getting to Know the Patients 2 (1)
第4回 AL3	Unit 2 Getting to Know the Patients 2 (2)
第5回 AL3	Unit 3 Getting to Know the Patients 3 (1)
第6回 AL3	Unit 3 Getting to Know the Patients 3 (2)
第7回 AL3	Unit 4 Getting to Know the Patients 4 (1)
第8回 AL3	Unit 4 Getting to Know the Patients 4 (2)
第9回 AL3	Unit 5 Examination 1 (1)
第10回 AL3	Unit 5 Examination 1 (2)
第11回 AL3	Unit 6 Examination 2 (1)
第12回 AL3	Unit 6 Examination 2 (2)
第13回 AL3	Unit 7 Instructing Medication (1)
第14回 AL3	Unit 7 Instructing Medication (2)
第15回 AL3	Unit 8 Treating the Patients 1 (1)
第16回 AL3	Unit 8 Treating the Patients 1 (2)
第17回 AL3	Unit 9 Treating the Patients 2 (1)
第18回 AL3	Unit 9 Treating the Patients 2 (2)
第19回 AL3	Unit 10 Treating the Patients 3 (1)
第20回 AL3	Unit 10 Treating the Patients 3 (2)
第21回 AL3	Unit 11 Operation (1)
第22回 AL3	Unit 11 Operation (2)
第23回 AL3	Unit 12 Pregnancy (1)
第24回 AL3	Unit 12 Pregnancy (2)
第25回 AL3	Unit 13 In the Hospital (1)
第26回 AL3	Unit 13 In the Hospital (2)
第27回 AL3	Unit 14 Emergencies (1)
第28回 AL3	Unit 14 Emergencies (2)
第29回 AL3	Unit 15 Living a Healthy Life (1)
第30回 AL3	Unit 15 Living a Healthy Life (2)

成績評価方法	定期試験(レポート) 50% 小テスト・成果物50%					
教科書	『実践看護英語—専門用語の習得と英会話能力の養成—』濱田真由美 (英宝社)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	教科書に目を通し、わからない単語や熟語を調べておくこと (2時間)。					
事後学習(内容・時間)	授業内容や教科書を復習し、英語表現や医療・看護に関する単語を復習しておくこと (1時間)。					
フィードバックの方法	小テストは授業内で解説します。					
備考	教科書、ノート、筆記用具、辞書を持参すること			オフィスアワー	出講日の授業の前後	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅲ (Reading 2)	永田 節子	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22302

科目の概要

リーディングを含めて総合的な英語力をつけることができるように、特に医療・看護の現場で役立つ英語表現を説明します。近年、急速なグローバル化の進展に伴い、看護分野における英語力はその必要性を増してきています。将来、病院などの医療系の現場で働く際に求められることを想定し、医療の現場に必要な表現と語彙を教授します。

到達目標

- リーディングを含めた総合的な英語力を習得することができる。
- 医療・看護に必要な語彙を習得することができる。
- 様々な医療・看護の為に専門用語や英語表現を習得することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	Introduction
第2回	Chapter 1 Welcoming a Patient 患者を迎える(1)
第3回	Chapter 1 Welcoming a Patient 患者を迎える(2)
第4回	Chapter 2 Taking Vital Signs バイタルサイン測定(1)
第5回	Chapter 2 Taking Vital Signs バイタルサイン測定(2)
第6回	Chapter 3 Pain Assessment 痛みのアセスメント(1)
第7回	Chapter 3 Pain Assessment 痛みのアセスメント(2)
第8回	Chapter 4 Feeling So Sick! 症状(1)
第9回	Chapter 4 Feeling So Sick! 症状(2)
第10回	Chapter 5 Transferring a Patient 体位変換 / 移乗(1)
第11回	Chapter 5 Transferring a Patient 体位変換 / 移乗(2)
第12回	Chapter 6 Medical Departments 診療科目(1)
第13回	Chapter 6 Medical Departments 診療科目(2)
第14回	Chapter 7 Review & Medical Terminology まとめと医学英語の構造(1)
第15回	Chapter 7 Review & Medical Terminology まとめと医学英語の構造(2)
第16回	Chapter 8 Personal Care 日常生活援助(1)
第17回	Chapter 8 Personal Care 日常生活援助(2)
第18回	Chapter 9 Giving Medication to a Patient 与薬(1)
第19回	Chapter 9 Giving Medication to a Patient 与薬(2)
第20回	Chapter 10 Elimination (Bowel movement / Urination) 排泄(排便 / 排尿)(1)
第21回	Chapter 10 Elimination (Bowel movement / Urination) 排泄(排便 / 排尿)(2)
第22回	Chapter 11 Chronic Diseases 慢性疾患(1)
第23回	Chapter 11 Chronic Diseases 慢性疾患(2)
第24回	Chapter 12 Critical Care / Operating Room 急性期 / 手術室(1)
第25回	Chapter 12 Critical Care / Operating Room 急性期 / 手術室(2)
第26回	Chapter 13 Pregnancy Check-up 妊婦健診(1)
第27回	Chapter 13 Pregnancy Check-up 妊婦健診(2)
第28回	Chapter 14 Review & Medical Reading まとめと医学英文読解(1)
第29回	Chapter 14 Review & Medical Reading まとめと医学英文読解(1)
第30回	総復習

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 小テスト・成果物 50%					
教科書	『Talking with your Patients in English』 Mitusko Hirano, Christine D. Kuramoto (成美堂)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	教科書に目を通し、わからない単語や熟語を調べておくこと(2時間)					
事後学習(内容・時間)	授業内容や教科書を復習し、英語表現を覚えること(1時間)					
フィードバックの方法	小テストは授業内で解説します。					
備 考	教科書、ノート、筆記用具、辞書を持参すること。			オフィスアワー	出講日の授業の前後	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅳ (Writing 2)	池田美智子	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22303

科目の概要

この講義は看護師として32年間病院勤務した著者が病院での様々な経験を記録した文章を扱う。原文を読み進めながら、使用される医療器具や治療法についての英語表現を教授するとともに、病院内で起こり得る事象の英語表現について講義する。

到達目標

- リーディング、ライティング、リスニングを通して、医療に関する英語の専門知識、用語、表現を習得する。
- 汎用性の高い口語表現を身につける。
- 医療器具や治療法についての英語表現への知識を広げ、英語で説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	The Quiet Boy(その1)ひとりぼっちの少年
第2回 AL 3	The Quiet Boy(その2)ひとりぼっちの少年
第3回	Tribulations of a Student Nurse(その1)看護学生の試練
第4回 AL 3	Tribulations of a Student Nurse(その2)看護学生の試練
第5回	Not Just a 9-to-5 Job(その1)コンピューターから浣腸まで何でもあり
第6回 AL 3	Not Just a 9-to-5 Job(その2)コンピューターから浣腸まで何でもあり
第7回	Stolen Goods(その1)盗品
第8回 AL 3	Stolen Goods(その2)盗品
第9回	A Proctologist(その1)直腸病専門医
第10回 AL 3	A Proctologist(その2)直腸病専門医
第11回	A Demanding Orthopedics Patient(その1)整形外科の困った患者
第12回 AL 3	A Demanding Orthopedics Patient(その2)整形外科の困った患者
第13回	Emergency Ward(その1)救命病棟
第14回	Emergency Ward(その2)救命病棟
第15回 AL 3	Emergency Ward(その3)救命病棟
第16回	Thrown from a Window(その1)窓から投げ落とされた女性
第17回 AL 3	Thrown from a Window(その2)窓から投げ落とされた女性
第18回	A Doctor's Depression(その1)あるドクターの憂鬱
第19回 AL 3	A Doctor's Depression(その2)あるドクターの憂鬱
第20回	An Alzheimer's Patient(その1)アルツハイマー病
第21回 AL 3	An Alzheimer's Patient(その2)アルツハイマー病
第22回	Brain Damage(その1)脳損傷の男性
第23回 AL 3	Brain Damage(その2)脳損傷の男性
第24回	Drug Abuser(その1)麻薬乱用者たち
第25回 AL 3	Drug Abuser(その2)麻薬乱用者たち
第26回	Urology(その1)泌尿器科
第27回 AL 3	Urology(その2)泌尿器科
第28回	A Paralyzed Cancer Patient(その1)がん患者
第29回	A Paralyzed Cancer Patient(その2)がん患者
第30回 AL 3	A Paralyzed Cancer Patient(その3)がん患者

成績評価方法	中間試験・定期試験(筆記) 50% 成果物・小テスト 50%					
教科書	『The Dramas of Hospital Life ある看護師のみた病院生活のドラマ』 田中芳文 (三修社)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	次回学習する内容について単語を調べておくこと (1時間)。					
事後学習(内容・時間)	学習した内容について復習しておくこと (1時間)。					
フィードバックの方法	提出物は返却時に解説を行う。					
備考	テキスト、ノート、電子辞書持参のこと				オフィスアワー	出講日の授業の前後 30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
フランス語Ⅱ	渋谷 直樹	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22304

科目の概要

この授業では、今なお世界中で愛読されている、フランス人作家 サン＝テグジュペリの『星の王子さま』（1943年）を読みます。この作品は童話と言われていますが、実際は大人のために書かれました。授業の進め方としましては、平叙文は日本語で、王子さまの平易な会話はフランス語で読みます。この短いながらも彼の言葉を通して作品全体を味わうことができるような授業にします。

到達目標

- 王子さまと登場人物との会話を通して、日常的な会話を覚え、会話能力と読む能力を身につけることができる。
- 会話の中の基礎的な文法を習得することで、フランス語によって簡単な文章を書くことができる。
- 会話の内容を深く味わうことで、登場人物の考え方、さらにはサン＝テグジュペリの文学観を述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリの人生と作品
第2回 AL 4	【星の王子さまの星での出来事(1)】「奇妙な出会いⅠ」
第3回 AL 6	【星の王子さまの星での出来事(2)】「奇妙な出会いⅡ」
第4回 AL 6	【星の王子さまの星での出来事(3)】「羊と花の戦いⅠ」
第5回 AL 6	【星の王子さまの星での出来事(4)】「羊と花の戦いⅡ」
第6回 AL 6	【星の王子さまの星での出来事(5)】「星の王子さまの花Ⅰ」
第7回 AL 6	【星の王子さまの星での出来事(6)】「星の王子さまの花Ⅱ」
第8回 AL 6	【星の王子さまの星での出来事(7)】「星の王子さまの出発Ⅰ」
第9回 AL 6	【星の王子さまの星での出来事(8)】①「星の王子さまの出発Ⅱ」②「夕日」
第10回 AL 6	【星の王子さまの星での出来事(9)】「王様Ⅰ」
第11回 AL 6	【星の王子さまの星での出来事(10)】「王様Ⅱ」
第12回 AL 6	【星の王子さまの星での出来事(11)】「自惚れ屋」「酔っ払い」
第13回 AL 6	【星の王子さまの星での出来事(12)】「点灯人Ⅰ」
第14回 AL 6	【星の王子さまの星での出来事(13)】「点灯人Ⅱ」
第15回	【前期のまとめ】
第16回	『星の王子さま』の構造
第17回 AL 6	【星の王子さまの地球での出来事(1)】「蛇Ⅰ」
第18回 AL 6	【星の王子さまの地球での出来事(2)】「蛇Ⅱ」
第19回 AL 6	【星の王子さまの地球での出来事(3)】①「花」②「山」
第20回 AL 6	【星の王子さまの地球での出来事(4)】「バラ園」
第21回 AL 6	【星の王子さまの地球での出来事(5)】「鉄道員」
第22回 AL 6	【星の王子さまの地球での出来事(6)】「狐Ⅰ」
第23回 AL 6	【星の王子さまの地球での出来事(7)】「狐Ⅱ」
第24回 AL 6	【星の王子さまの地球での出来事(8)】「狐Ⅲ」
第25回 AL 6	【星の王子さまの地球での出来事(9)】「狐Ⅳ」
第26回 AL 6	【星の王子さまの地球での出来事(10)】「蛇との最後の出会いⅠ」
第27回 AL 6	【星の王子さまの地球での出来事(11)】「蛇との最後の出会いⅡ」
第28回 AL 6	【星の王子さまの地球での出来事(12)】「蛇との最後の出会いⅢ」
第29回 AL 6	【星の王子さまの地球での出来事(13)】「蛇との最後の出会いⅣ」
第30回	【後期のまとめ】

成績評価方法	成果物 60% 中間試験(筆記) 20% 定期試験(筆記) 20%					
教科書	平叙文の日本語の訳文と、単語を注として載せたフランス語のテキストをプリントでお配りします。					
参考文献	授業中に紹介します。					
事前学習(内容・時間)	毎回順番にフランス語で読んだ後に、日本語に訳してもらいますので、訳せるように予習して下さい(60分)。					
事後学習(内容・時間)	物語ですので作品の流れを把握するためにも、その週に読んだ文章については読み返して下さい(60分)。					
フィードバックの方法	質問やコメントに対しては、講義内で皆さんとシェアし、解説します。					
備 考	フランス語には1つ1つ単語の意味を載せますし、詳しい説明もしますので心配せずに、作品を味わって下さい。			オフィスアワー	授業終了後30分、教室で質問を受け付けます。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	—	○	△	—	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
中国語会話Ⅱ	潘 山海	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22305

科目の概要

本科目は中国語会話の基礎作りを終えた初級者や、基礎が未だ弱い中国語初心者向けの医療系中国語基礎コースである。教員が学生に中国語基礎知識や会話基本表現を教えながら、保健医療の場面別に活用される中国語単語を説明・朗読練習して、保健医療系の実践的な基礎中国語会話を教授する。また、場面に合わせて中国の文化・習慣や医療・看護の現状知識をも紹介する。

到達目標

- 中国語発音能力の必須項目「四声」と「拼音一覧表」を暗唱することができ、活用できる。
- 場面別の保健医療系の実践的な基礎中国語表現と基礎会話技能を習得できる。
- 中国の文化・習慣や医療・看護の現状についての知識を述べられる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス(学習注意事項等を説明)；名前を中国語で読む練習/基本挨拶復習
第2回	中国語基本知識(発音復習一)：「四声」と「拼音一覧表」をスラスラ読めるように音声練習する
第3回	中国語基本知識(発音復習二)：「四声」と「拼音一覧表」を暗唱できるように繰り返し読み書きする
第4回 AL3	第一課：保健医療系場面別会話を始めよう(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第5回 AL3	第一課：保健医療系場面別会話を始めよう(その二：自己紹介・挨拶・会話学習・練習)(グループワーク)
第6回 AL3	第二課：あなたは中国人ですか？(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第7回 AL3	第二課：あなたは中国人ですか？(その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)
第8回 AL3	第三課：健康保険証を持っていますか？(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第9回 AL3	第三課：健康保険証を持っていますか？(その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)
第10回 AL3	第四課：ご家族にはどんな人がいますか？(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第11回 AL3	第四課：ご家族にはどんな人がいますか？(その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)
第12回 AL3	第五課：あそこで少しお待ちください。(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第13回 AL3	第五課：あそこで少しお待ちください。(その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)
第14回 AL3	第六課：外国語は少し話せます。(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第15回 AL3	第六課：外国語は少し話せます。(その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)；小テスト実施
第16回 AL3	第七課：検査室に行き検査を受けてください。(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第17回 AL3	第七課：検査室に行き検査を受けてください。(その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)
第18回 AL3	第八課：どうしましたか？(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第19回 AL3	第八課：どうしましたか？(その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)
第20回 AL3	第九課：口を開けてください。(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第21回 AL3	第九課：口を開けてください。(その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)
第22回 AL3	第十課：この薬を飲んだことがありますか？(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第23回 AL3	第十課：この薬を飲んだことがありますか？(その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)
第24回 AL3	第十一課：服をあそこにおいてください。(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第25回 AL3	第十一課：服をあそこにおいてください。(その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)
第26回	いろいろな言葉の追加学習・練習(その一：身体各部位と趣味・生活用語表現)
第27回 AL3	第十二課：病状はずっと良くなりました。(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第28回 AL3	第十二課：病状はずっと良くなりました。(その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)
第29回 AL3	いろいろな言葉の追加学習・練習(その二：病名病状と検査・治療用語表現)(グループワーク)
第30回 AL3	全書の復習と任意会話・通訳練習及び会話実技テストの準備指導。(グループワーク)

成績評価方法	定期試験(実技) 70% 小テスト 30%					
教科書	『医療系学生のための初級中国語』山田眞一著(白帝社)					
参考文献	必要に応じてその都度プリントを配布する。					
事前学習(内容・時間)	授業に出る前に教科書とノートで既習内容を復習し次回の内容を予習すること(30分)					
事後学習(内容・時間)	授業で既習内容を復習し、宿題を完成すること(1時間ぐらい)					
フィードバックの方法	宿題は授業内で確認・訂正します。小テストは授業内で解説します。					
備考	授業に出るときは必ず教科書とノートを持参しよう。朗読練習やグループワークには積極的に参加しよう。宿題・課題は必ず完成しよう。			オフィスアワー		授業終了後30分、教室で質問を受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
イタリア語Ⅱ	小松 寛明	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22306

科目の概要

現代イタリア語の基本的な語彙の習得と読解力・表現力の養成を目標とします。またイタリアの歴史・地理・文化・時事を折に触れて紹介いたします。

到達目標

- つづり字と発音の習得
- 基本的な言葉による読解の養成
- 基本的な言葉による表現力の養成

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	つづり字と発音 1
第2回	つづり字と発音 2
第3回	つづり字と発音 3
第4回 AL 4	小テスト、AL
第5回	名詞の性 1
第6回	名詞の性 2
第7回	名詞の数 1
第8回	名詞の数 2
第9回 AL 4	小テスト、AL
第10回	基本的な動詞 1
第11回	基本的な動詞 2
第12回	基本的な動詞 3
第13回 AL 4	小テスト、AL
第14回	形容詞や疑問詞
第15回	まとめ／前期学科試験
第16回	注意すべき発音 1
第17回	注意すべき発音 2
第18回	不規則動詞 1
第19回	不規則動詞 2
第20回	不規則動詞 3
第21回 AL 4	小テスト、AL
第22回	目的語代名詞 1
第23回	目的語代名詞 2
第24回	目的語代名詞 3
第25回 AL 4	小テスト、AL
第26回	過去の表現 1
第27回	過去の表現 2
第28回	過去の表現と現在の使い分け 1
第29回	過去の表現と現在の表現の使い分け 2
第30回	まとめ／後期学科試験

成績評価方法	定期試験(筆記) 40% 小テスト 30% 成果物 30%					
教科書	『私のイタリア』一ノ瀬俊和(朝日出版社)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	予習(30分)					
事後学習(内容・時間)	復習(60分)					
フィードバックの方法	試験類は採点、課題は添削の上、解答・配点・解説を付して返却					
備考					オフィスアワー	出講日の授業の前後30分、控室または教室にて質問を受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ドイツ語Ⅱ	神竹 道士	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22307

科目の概要

初級ドイツ語を履修した学生を対象にしたドイツ語購読の授業です。教材はドイツ語学習者のためにドイツで特別に編纂された「探偵小説」(シリーズ、CD付)を使います。文章は初学者にも読める簡潔な日常語で書かれていますので、読解力と会話の習得に最適です。

到達目標

- 初級ドイツ語の読解力を習得する。
- 基礎的なドイツ語の日常会話を理解する。
- 基礎的なドイツ語による発信力を習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	導入:プリント(教材)の配布、授業内容の説明、ドイツ語学習全般について説明
第2回	第1章:リスニングと朗読、母音と変母音の発音
第3回	文法の説明と和訳の確認
第4回 AL 3	表現練習:挨拶(グループワーク)
第5回	第2章:リスニングと朗読の練習、子音の発音
第6回	文法の説明と和訳の確認
第7回 AL 3	表現練習:数字と時刻(グループワーク)
第8回	第3章:リスニングと朗読の練習、外来語と人名の読み方
第9回	文法の説明と和訳の確認
第10回 AL 3	表現練習:名前・出身地・職業の聞き方(グループワーク)
第11回	第4章:リスニングと朗読の練習、語アクセントと文アクセント
第12回	文法の説明と和訳の確認
第13回 AL 3	表現練習:自己紹介(グループワーク)
第14回	第5章:リスニングと朗読の練習、文の種類
第15回	<前期のまとめ>
第16回	第5章:文法の説明と和訳の確認
第17回 AL 3	表現練習:天気(グループワーク)
第18回	第6章:リスニングと朗読の練習、時制
第19回	文法の説明と和訳の確認
第20回 AL 3	表現練習:健康(グループワーク)
第21回	第7章:リスニングと朗読の練習、定動詞の位置
第22回	文法の説明と和訳の確認
第23回 AL 3	表現練習:買い物(グループワーク)
第24回	第8章:リスニングと朗読の練習、接続詞
第25回	文法の説明と和訳の確認
第26回 AL 3	表現練習:旅行(グループワーク)
第27回	第9章:リスニングと朗読の練習、主文と副文
第28回	文法の説明と和訳の確認
第29回 AL 3	表現練習:祝辞(グループワーク)
第30回	<後期のまとめ>

成績評価方法	中間・定期試験(筆記) 50% 小テスト 30% 成果物 20%					
教科書	プリントを配布します。					
参考文献	独和辞典(第1回の授業で紹介) 必携					
事前学習(内容・時間)	既習事項の確認(30分)					
事後学習(内容・時間)	テキストの朗読(30分)					
フィードバックの方法	小テストは授業中に返却し、正解を板書して解説します。					
備 考	積極的に授業に参加してください。				オフィスアワー	昼休み(非常勤講師控室)
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	—	△	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
文章表現法Ⅱ	加畑公一郎	講義	3年次 前期	選択	2	30	KGE33101

科目の概要

人の心をつかむ文章とは何だろう。作家、詩人、哲学者、医師、ジャーナリストたちの著作をはじめ、無名の市民が書いた作文コンクール入賞作品などを読み、すぐれた表現が備えている特徴を分析する。その読み解きの作業を通して、いい文章を書く技法を教授する。

到達目標

- エッセイ・詩・評論などから学んだ技法を生かして、自分の意思を正確に豊かに伝える力を身につけることができる。
- 人々の言動や社会の出来事をじっくり観察し、自分の視点で問題点を指摘することができる。
- 相手の気持ちをくみとり信頼関係がきずける文章を書くことができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	プロの文章とアマチュアの文章
第2回	目の見えない作家の描写力
第3回 AL2	相手を思いやる表現
第4回	大切なのは頭ではなく腹である(古代言語から身体と表現について考える)
第5回	前景の奥に隠れているものを見抜く
第6回 AL2	思考停止に陥らない言葉遣い
第7回	批評の精神
第8回	ユーモア感覚を身につけよう
第9回 AL2	人の尊厳をささえる文章とは
第10回	問題を見つけることが出発点だ
第11回	ひととは違う文章の切り口
第12回 AL2	詫び状を書いてみよう
第13回	事実と意見を書き分ける
第14回 AL2	自分を売り込む作法(抑制の美学)
第15回	言葉の喚起力

成績評価方法	成果物(授業中に書く作文)70% 定期試験(レポート)30%					
教科書	なし					
参考文献	授業の中で紹介する					
事前学習(内容・時間)	新聞・テレビや読書で気になった言葉や用例を集め、それを授業で報告し、話し合う(30分)。					
事後学習(内容・時間)	添削された自分の作文を清書するほか、授業で使った教材資料を読み返す(30分)。					
フィードバックの方法	授業中に書いた作文は、添削し、コメントを添えて本人に返却する。					
備 考					オフィスアワー	授業の前後に対応する
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	—	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療概論（生命倫理）	林 貴啓	講義	1年次後期	必修	2	30	KSB11101

科目の概要

患者の権利、脳死と臓器移植、生殖補助医療、終末期医療、遺伝子医療といったテーマを材料に、現代の医療が孕む複雑な倫理的問題を考察する。受講者に背景知識と判断材料を提供し、主体的に問題を検討し、意見を交換することを通して、自ら倫理的に思考し、判断する力を培うことがこの講義の目標である。

到達目標

- 倫理に関する知識を深め、説明することができる。
- 倫理が問われるさまざまな医療問題について理解し、論ずることができる。
- 物事を倫理的に考える姿勢を身につけ、自らの考えを述べるることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL2	医療の倫理とは 倫理的な思考の基本
第2回 AL2	倫理学のさまざまな考えかた
第3回 AL2	インフォームド・コンセントと看護の視点
第4回 AL2	道徳的想像力
第5回 AL2	安楽死・尊厳死をめぐる
第6回 AL2	脳死と臓器移植
第7回 AL2	人工妊娠中絶をめぐる
第8回 AL2	出生前診断と選択的中絶
第9回 AL2	生殖補助医療 I—不妊治療をめぐる状況
第10回 AL2	生殖補助医療 II—AIDと代理出産の問題
第11回 AL2	文献を読んで考える—レポート執筆のためのワークショップ
第12回 AL2	治療拒否の問題
第13回 AL2	最先端医療の倫理
第14回 AL2	医療とは—看護の見地からの意味
第15回 AL2	死生学の課題

成績評価方法	定期試験(レポート) 60% 成果物(各回の小レポート) 40%					
教科書	「教科書」という形では特に指定しない。					
参考文献	各回の配布資料でそれぞれのテーマについて紹介する。第15回の「死生学」については、担当者著『問いとしてのスピリチュアリティ—宗教なき時代に生死を語る』(京都大学学術出版会)の一読を薦める。					
事前学習(内容・時間)	シラバスに提示した各回のテーマについて、興味のあるものは事前に情報を集める(30分～1時間程度)。					
事後学習(内容・時間)	特別には設定しないが、講義時に紹介した文献を読み、理解を深めることを推奨する(30分～1時間程度)。					
フィードバックの方法	質問や各回の提出課題に対しては次回講義時に配布資料・説明を通してフィードバックする。					
備考	オフィスアワー					講義時の前30分。また講義時の配布資料に担当者のメールアドレスを記するので、Eメールを介した質問・意見は随時受け付ける。
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療行動科学	日高 庸晴	講義	1年次 後期	選択	2	30	KSB13101

科目の概要

現代医療における重要な点は、予防的保健行動の促進であり、それに相反する不健康なライフスタイルを変容するためのモデルについて、喫煙や食事、運動、性行動といった具体的事例を例に講義を展開する。講義は人間の行動を包括的にとらえるために心理学・社会学・教育学・保健学など多領域の知見と理論を統合して行う。また、視聴覚教材や疫学調査によるエビデンスを随時紹介することによって、理解度を深めることを目指す。

到達目標

- 健康行動に関係する大規模データの読み取り方や考え方を身に付け、説明できる。
- 健康増進と疾病の予防に寄与する人の行動のメカニズムを理解し、述べるができる。
- 古典的な行動理論から臨床現場で実践・応用可能な理論まで幅広く学び、列挙できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション
第2回 AL6	行動変容のためのコミュニケーション1
第3回 AL6	健康信念モデル
第4回	オペラント条件付け・学習理論
第5回 AL6	合理的行動理論・計画的行動理論
第6回 AL3	禁煙の行動科学—どうしても煙草がやめられない—
第7回 AL6	エイズパンデミック—世界・アジア・日本—行動科学的予防アプローチ
第8回 AL3	HIVや性感染症予防について、必要な予防対策の立案
第9回 AL6	多職種チームでHIV陽性者を支えるということ
第10回 AL6	セクシュアルマイノリティの健康問題1
第11回 AL6	セクシュアルマイノリティの健康問題2
第12回 AL6	食行動とダイエット
第13回 AL6	タイプA行動特性—「忙しい！忙しい！」手帳に用事がビッシリ
第14回 AL6	合法？ 脱法？ アルコールとドラッグ使用の健康問題
第15回 AL3	いのちは誰のものか

成績評価方法	定期試験(筆記) 100%					
教科書	適宜配付資料を用意します。					
参考文献	適宜紹介します。					
事前学習(内容・時間)	オリエンテーション時の説明および講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習を行うこと(30分)。					
事後学習(内容・時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること(30分)。					
フィードバックの方法	コメントシートの記入内容の一部を、次回の講義時に全体で共有すると共に、講評します。					
備 考	講義中、スマートフォンは机の上に置かず鞆にしまうこと。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
栄養と健康	坂元 美子	講義	1年次 後期	必修	2	30	KSB11102

科目の概要

ヒトが健康を維持し、成長するために必ず摂取しなければならない食品中の成分を栄養素といい、5種類ある。食事で摂取した栄養素が体内でどのように吸収され、利用されるのかについて解説する。さらに、これらの栄養素と生活習慣病やその他の疾患との関連について、健康を維持するための食事について教授する。

到達目標

- 五大栄養素と栄養素の体内での代謝について答えられるようになる。
- 栄養が密接に関係する生活習慣病とその他の疾患についてどのような食事の摂り方が理想的かを答えられるようになる。
- 健康を維持するために栄養・運動・休養が揃っている必要があることが説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	栄養とは・健康栄養の歴史と位置づけ
第2回	栄養の定義・五大栄養素
第3回	糖質の種類
第4回	糖質の代謝
第5回	脂質の種類
第6回	脂質の代謝
第7回	たんぱく質の種類
第8回	たんぱく質の代謝
第9回	ビタミンの種類
第10回	ビタミンの代謝
第11回	ミネラルの種類
第12回	ミネラルの代謝
第13回	生活習慣病と栄養
第14回	健康と栄養
第15回	健康とサプリメント

成績評価方法	定期試験(筆記) 100%					
教科書	『スポーツ・健康栄養学』坂元美子編 (化学同人)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	テキストの前の授業内容を見直し、理解しておく (1回30分)					
事後学習(内容・時間)	授業を行った部分について疑問に思ったことや理解しきれなかったことについて調べておく (1回30分)					
フィードバックの方法	定期試験終了後解答を配布します					
備 考				オフィスアワー	授業終了後30分、教室で質問を受け付ける	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	△	△	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人体構造機能論 I (人体の構造と機能)	巽 圭太	講義	1年次 前期	必修	2	60	KSB11103

科目の概要

この科目は、疾病時に起こる形態及び機能的な変化の状況を理解するための最も基礎となる医学で、人体を構成する基本単位の細胞とその組み合わせの組織、及び人体各部位の構造と機能について教授する。具体的には、各器官系の主要な器官の形態と機能を理解し、今後、疾病について学習するのに必要な「正常な人体」の基礎知識を講義する。

到達目標

- 主要な器官の名称と構造を系統的に説明出来る。
- 主要な器官の機能を系統的に説明出来る。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	はじめに～医学を学ぶにあたって、この科目の学修方法・成績評価方法～
第2回	解剖生理学を学ぶための基礎知識 1
第3回	解剖生理学を学ぶための基礎知識 2 (Web課題による自主学習支援)
第4回	消化器系 1
第5回	消化器系 2
第6回	消化器系 3 / 小テスト 1
第7回	呼吸器系・血液 1
第8回	呼吸器系・血液 2 (スマホアプリ等を使用した双方向授業)
第9回	呼吸器系・血液 3
第10回	呼吸器系・血液 4
第11回	循環器系 1
第12回	循環器系 2 / 小テスト 2
第13回	循環器系 3
第14回	泌尿器系 1
第15回	泌尿器系 2
第16回	内分泌系 1
第17回	内分泌系 2
第18回	内分泌系 3
第19回	自律神経
第20回	神経系 1 / 小テスト 3
第21回	神経系 2
第22回	感覚器系
第23回	骨格・筋系 1
第24回	骨格・筋系 2
第25回	骨格・筋系 3
第26回	体表からみた構造
第27回	免疫系 1
第28回	免疫系 2 / 小テスト 4
第29回	生殖器系 1
第30回	生殖器系 2

成績評価方法	定期試験(筆記) 65% 小テスト 35%					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野「人体の構造と機能[1] 解剖生理学」「疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学』(医学書院)、『病気がみえる「vol. 1 消化器」「vol. 2 循環器」「vol. 3 糖尿病・代謝・内分泌」「vol. 4 呼吸器」「vol. 6 免疫・膠原病・感染症」「vol. 7 脳・神経』(メディックメディア)、『看護師・看護学生のためのレビューブック2020』(メディックメディア)、6月頃『看護師国家試験 高正答率過去問題集』(東京アカデミー)					
参考文献	『得意になる解剖生理』美田 誠二 (照林社)、『ぜんぶわかる人体解剖図』坂井 建雄、橋本 尚詞 (成美堂出版)、『新版 からだの地図帳』佐藤 達夫 監修 (講談社)、『カラーで学ぶ解剖生理学 (第2版)』コメディカルサポート研究会 (翻訳) (メディカルサイエンスインターナショナル)、関連科目で既購入の教科書					
事前学習(内容・時間)	教科書での予習。講義予定の内容を把握し、注意すべき用語をチェックする (60分)。					
事後学習(内容・時間)	講義・各種テストの復習。Web(G Suite)課題。用語は当日、翌日、1週間後に見直す (60分)。					
フィードバックの方法	課題については、授業中ないしWebにてフィードバックする。					
備考	授業で告知した成績評価に関わる不正行為は厳罰とする。 この科目の学習を通じて、大学生から社会人まで必要な学習方法を磨き、社会人基礎力を修得すること。			オフィスアワー	木曜14:40～15:10	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	△	—	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人体構造機能論Ⅱ (人体の機能と生理)	山口 三郎	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSB11104

科目の概要

病気の時に起こる機能的変化などを理解するために、人体を構成する基本単位である細胞からはじめて、組織及び臓器の構造と機能について講義する。具体的には、植物機能、すなわち、循環器系、消化器系、泌尿器系、呼吸器系などの機能と動物機能である神経系や筋・骨格系の機能について説明する。

到達目標

- 看護に必要とされる人体の機能の基礎を述べることができる。
- 健康の保持・増進との関係性を人体構造の知識を使って説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	人体の構造と機能を学ぶために
第2回	基礎知識(その1)
第3回	基礎知識(その2)
第4回	消化と吸収
第5回	呼吸
第6回	血液
第7回	心臓
第8回	循環
第9回	体液の調節と尿の生成
第10回	内臓機能の調節(その1)
第11回	内臓機能の調節(その2)
第12回	情報の受容と処理(その1)
第13回	情報の受容と処理(その2)
第14回	からだの支持と運動・外部環境からの防衛
第15回	生殖・発生と老化

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 成果物 20%					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』坂井建雄、岡田隆夫(医学書院)					
参考文献	『標準生理学』小澤瀨司、福田康一郎(医学書院)					
事前学習(内容・時間)	講義予定の部分の教科書を読む(30分)					
事後学習(内容・時間)	教科書を復習し、資料の確認問題を解く(30分)					
フィードバックの方法	直接面談					
備 考	レポートは返却します			オフィスアワー	出講日の授業の前後(各30分)	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	—	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
病態治療学 I (総論と主な疾患)	高原 史郎	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSB11105

科目の概要

治療及び看護の実際の基盤となる病態の横断的な考え方を習得し、実地に不可欠な器官別での疾患について、疾患の成り立ちやその病理・病態像を、正しく認識することを目的とする講義をする。人体が単なる諸器官の集合体ではなく規律ある融合体であることを認識し、疾病における治療看護のあり方を把握できるよう展開する。総論では、医学用語の学修を基盤として横断的な病態病理を、各論では、その発生のメカニズムや予後を講義する。

到達目標

- 治療及び看護の実際の基盤となる病態の横断的な考え方を習得し、疾患の成り立ちやその病理・病態像の知識を述べることができる。
- 疾患に対する基本的包括的な技術について述べるができる。
- 疾患に対する病理学的見地からの考え方を論ずることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	総論1 (先天異常、代謝障害・細胞障害、循環障害、内因外因、再生と修復)
第2回	総論2 (腫瘍、炎症、移植、老化と個体死)
第3回	総論3 (日本の3大死因)
第4回	循環器系疾患1 (心疾患)
第5回	循環器系疾患2 (血管系疾患)
第6回	消化器系疾患1 (消化管疾患)
第7回	消化器系疾患2 (消化器臓器疾患)
第8回 AL 6	小テスト・解説 (第1回～第7回までの確認)
第9回	呼吸器系疾患1 (喘息・腫瘍・感染症など)
第10回	呼吸器系疾患2 (喘息・腫瘍・感染症など)
第11回	ホルモン依存性疾患、内分泌系疾患
第12回	造血器系疾患、感覚器系疾患
第13回	腎・泌尿器系疾患・生殖器系疾患性
第14回	脳・神経系疾患
第15回	運動器系疾患 (骨、筋)

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 小テスト 30% 成果物 20%					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [2] 病態生理学』田中越郎 (医学書院)					
参考文献	『カラーで学べる病理学』渡辺照男編 (スーヴェルヒロカワ)、『解明 病理学』青笹克之編 (医歯薬出版)					
事前学習 (内容・時間)	教科書及びレジメを2回予習すること (2時間)。					
事後学習 (内容・時間)	講義中に行った小テストについて復習すること (2時間)。					
フィードバックの方法	レポートは採点后、点数表を配布します。小テストはテスト後に授業内で解説します。					
備 考					オフィスアワー	授業日の講義前10分～ 講義終了30分後まで
ディプロマ・ポリシーに 掲げる 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニ ケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	—	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
生化学	堀家なな緒	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSB11107

科目の概要

生化学は生命現象に関わる理を化学的に追究する学問である。生体を構成している化学物質と、それを維持している代謝調節の化学反応を分子レベルで学び、様々な生命現象と病態のしくみについて概観する。講義の前半では、生体物質の化学構造とその性質、機能、五大栄養素、遺伝子の発現調節機構について講義する。後半では、ホルモンとシグナル伝達、代謝（合成・分解）の調節を教授すると共に、これらの制御機構の破綻がもたらす疾患の発症機序の理解を目指す。

到達目標

- 五大栄養素を中心とした生体を構成、調節する物質の基本構造と性質を述べることができる。
- 栄養素からエネルギーを獲得する代謝系全体が、酵素及びホルモンによってどのように整理・統合されているのかを説明できる。
- 肥満、高血圧、糖尿病、脂質異常症、動脈硬化等代表的な代謝関連疾患の病因と発病機序について生化学的に論ずることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	生化学を学ぶための基礎知識
第2回	糖質
第3回	脂質
第4回	タンパク質
第5回	ビタミン
第6回	水と無機質
第7回	核酸と遺伝子発現調節
第8回	ホルモンとシグナル伝達
第9回	糖質代謝
第10回	脂質代謝
第11回	タンパク質代謝
第12回 AL 4	五大栄養素のまとめ
第13回	第1回～第7回までのまとめと確認テスト(筆記)
第14回	酵素
第15回 AL 4	三大栄養素の代謝調節

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 定期試験(レポート) 10% 成果物 10%					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2] 生化学』三輪一智、中 恵一(医学書院)					
参考文献	『イラストでまなぶ生化学』前場良太(医学書院)、『栄養科学イラストレイテッド 生化学』菌田 勝(羊土社)、『集中講義 生化学』鈴木敬一郎ほか(メジカルビュー社)					
事前学習(内容・時間)	配布資料を読む、前回の講義内容の練習問題と小テストを解く(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	小テストの間違った部分を復習する。配布資料の範囲と教科書を照らし合わせて読み、理解する(1時間)。					
フィードバックの方法	小テストの解答を解説します。					
備 考				オフィスアワー	授業終了後30分、教室で質問を受け付けます	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	—	—	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
感染と免疫	入江 章子	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSB11108

科目の概要

細菌やウイルスなどの病原微生物の性質やそれによって引き起こされる主な感染症と感染経路、感染症に対する生体の防御機構を講義する。さらに治療行為によっておこる耐性菌の出現や医療関連感染、そして感染予防におけるワクチンの役割などを説明する。これらの講義を通じて、社会の中での感染症の位置づけについても言及する。

到達目標

- 病原微生物の特徴と引き起こされる感染症について説明できる。
- 微生物の感染経路から感染症を予防・コントロールし、社会とのかかわりについて考え、感染症を総合的に考え、説明することができる。
- 感染症を原因微生物と宿主の係わる生体防御システムとしてとらえ、免疫のしくみを修得し、述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンスと科目の全体像
第2回	微生物学の基礎(1)
第3回	微生物学の基礎(2)
第4回	感染とその防御(1)
第5回	感染とその防御(2)
第6回	感染源・感染経路から見た感染症
第7回	感染症の予防・診断・治療
第8回 AL 3	第2回から第7回のまとめとグループワーク(日和見感染)、小テスト
第9回	細菌感染症(1)
第10回	細菌感染症(2)、真菌・原虫感染症
第11回	ウイルス感染症(1)
第12回	ウイルス感染症(2)
第13回	感染症の現状
第14回	感染症の対策
第15回 AL 3	第9回から第14回のまとめとグループワーク(感染症と社会)

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 小テスト 20%					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進4 微生物学』南嶋洋一、吉田眞一、永淵正法 (医学書院)					
参考文献	プリントを配布する。					
事前学習(内容・時間)	教科書の授業範囲を読む(30分)。					
事後学習(内容・時間)	教科書、授業時の内容、配布プリントを参考に整理する(1時間)。					
フィードバックの方法	小テストは授業内で解説を行います。					
備 考	小テストは教科書、プリント持ち込み。			オフィスアワー	授業前30分、教室で質問を受け付ける。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	—	△	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
情報処理 I (入門編)	林 勇氣	講義・演習	1年次前期	必修	1	30	KSB11201

科目の概要

この講義では、情報処理の基礎知識であるソフトウェアやネットワークを利用する上でのマナーや倫理を教授する。社会における情報の価値、コンピュータの概念、情報インフラなどに関して講義し、文章作成ソフト (Word) や表計算ソフト (Excel)、プレゼンテーションソフト (Power Point)、メールの使用方法、インターネット等の媒体から情報を入手する技術を習得するよう指導する。

到達目標

- 情報処理の基礎知識を説明することができる。
- インターネットでの情報収集や管理方法を身につけ、実践できる。
- コンピュータとWord、Excel等の基本的な使用方法を習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	コンピュータの使用方法と概念についてその1 / Wordの基礎 -データ入力-
第2回	コンピュータの使用方法と概念についてその2 / Wordの基礎 -データ入力の応用-
第3回	コンピュータの使用方法の応用その1 / Wordの基礎 -文章のレイアウト-
第4回	コンピュータの使用方法の応用その2 / Wordの基礎 -表の操作-
第5回	ネットワークのマナーその1 倫理 / Wordの基礎 -オートシェイプ-
第6回	ネットワークのマナーその2 法 / Wordの基礎 -アプリケーションとの連携-
第7回	メディアリテラシー / Excelの基礎 -データ入力の基礎-
第8回	マルチメディアとは / Excelの基礎 -データ入力の応用-
第9回	情報セキュリティその1 / Excelの基礎 -表のレイアウト-
第10回	情報セキュリティその2 / Excelの基礎 -数式の計算とグラフの作成とデータベースの作成-
第11回	1～11回目の授業のまとめの小テスト・実技
第12回	情報セキュリティその3 / Power Pointの基礎 -スライド作成の基礎-
第13回	情報とモバイル / Power Pointの基礎 -スライドのデザイン-
第14回	情報と社会の関係 / Power Pointの応用 -画像処理ソフトと組み合わせる-
第15回	情報社会と心 / Power Point -スライドショーを作成する-、プレゼンテーション資料作成

成績評価方法	成果物 50% 小テスト 50%					
教科書	『イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル Office 2013・2010対応』（noa出版）					
参考文献	なし					
事前学習 (内容・時間)	前回の講義の内容を習得しておくこと (1時間)。					
事後学習 (内容・時間)	毎回の講義時に復習用の課題を出すので、それらを再度復習しておくこと (2時間)。					
フィードバックの方法	授業内の小テスト・課題の正解は翌週提示する。					
備 考					オフィスアワー	授業の終了後20分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	△	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
情報処理Ⅱ（応用編）	吉田 浩	講義・演習	1年次 後期	選択	1	30	KSB13201

科目の概要

情報処理Ⅰで習得した知識・技術を基に「Power Point」を活用したプレゼンテーションが最終目標です。プレゼンターと聴衆がコミュニケーションを十分に取れるような“プレゼント”としてのメッセージを各自が整理しまとめ、それらを伝えるためのスライド（発表資料）制作に必要な方法論をポイントを絞って指導します。

到達目標

- ブレインストーミングを通じて、伝えるべき情報を整理し、それらをまとめられる。
- プレゼンテーションに必要なスライド制作をシンプルかつ大胆に行う方法を理解し、発表資料を作成することができる。
- 聴衆との十分なコミュニケーションのとれたプレゼンテーションが行える。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション(授業の進め方とプレゼンテーションの基礎概説)
第2回 AL2	プレゼンテーションの準備1(アイデアを提案する)／ブレインストーミング
第3回 AL2	プレゼンテーションの準備2(独創的なアイデアとは)／ブレインストーミング
第4回 AL2	プレゼンテーションの準備3(中心となるメッセージ)／ブレインストーミング
第5回	プレゼンテーションの準備4(意味のあるプレゼン)
第6回	プレゼンテーションの資料制作1(物語の演出)
第7回	プレゼンテーションの資料制作2(意思を伝える方法)
第8回	プレゼンテーションの資料制作3(スライドデザイン＝デザインとデコレーション)
第9回	プレゼンテーションの資料制作4(スライドデザイン＝引用句と余白)
第10回	プレゼンテーションの資料制作5(スライドデザイン＝コントラスト・反復)
第11回 AL4	プレゼンテーションの実践1(ミニプレゼンの実施)／プレゼンテーション
第12回	ミニプレゼンの講評と修正(発表内容と資料のチェック)
第13回 AL4	プレゼンテーションの実践2(ミニプレゼンの実施)／プレゼンテーション
第14回	ミニプレゼンの講評と修正(発表内容と資料のチェック)
第15回 AL4	最終プレゼンテーションと総評／プレゼンテーション

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	なし					
参考文献	必要に応じて授業内で紹介します					
事前学習(内容・時間)	スライドデザインに必要な資料収集(2時間)					
事後学習(内容・時間)	スライドデザインの修正作業(2時間)					
フィードバックの方法	ミニプレゼンの後、個別に発表内容について指導します					
備 考	プレゼンテーションに対する真摯な態度を望みます			オフィスアワー	授業終了後30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	△	—	—	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
癒しと芸術	中村 貞夫	講義	2年次 前期	必修	2	30	KSB21101

科目の概要

芸術と看護には大きな共通点があります。芸術は人の心を癒し、看護は心と身体を癒します。この授業では学生一人一人と対話しながら「癒しと芸術」について考えていきます。画家の私は体験、体感を重視し、ナビゲーターとしてアートの内側に学生を誘い、アートの世界では正解は一つでないこと、芸術に向かう心は万人に備わっていることを理解してもらい、看護の現場で有効なアートの力を身に付けていただきます。毎回の授業で実技作品の講評を行います。

到達目標

- 講義と実技によって、自分の中のアーティストとしての資質に目覚め、人物、静物、風景画によって表現できる。
- 色彩感覚を磨き、明暗のグラデーション、遠近表現の基礎を修得する。音楽を絵画で表現できる。
- 看護の中で活かすことのできる柔らかな感性を身につけ、作品を通じて表す。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画		
第1回 AL6	癒しと芸術の関連について	感動体験（アンケート）	実技1
第2回 AL6	癒しと芸術の関連について	「見る」と「看る」	実技2
第3回 AL6	癒しと芸術の関連について	「見る」と考える	実技3
第4回 AL6	癒しと芸術の関連について	聴くことについて	実技4
第5回 AL6	看護における芸術の役割	美について	実技5
第6回 AL6	看護における芸術の役割	素直な筒	実技6
第7回 AL6	看護における芸術の役割	優しさについて	実技7
第8回 AL6	感性を磨く	右と左（アンケート）	実技8
第9回 AL6	感性を磨く	i(不確定、保留)について	実技9
第10回 AL6	感性を磨く	補色の軸について(アンケート)	実技10
第11回 AL6	感性を磨く	マザー・テレサ	実技11
第12回 AL6	感性を磨く	ヘレン・ケラー	実技12
第13回 AL6	感性を磨く	パブロ・ピカソ	実技13
第14回 AL6	感性を磨く	ピエル・ボナール	実技14
第15回 AL6	総論	自分探しの旅	実技15
授業の進行状況で順序が変わることがあります。			

成績評価方法	成果物100%					
教科書	なし					
参考文献	『「聴く」ことのか—臨床哲学試論』鷺田清一（阪急コミュニケーションズ）、『マザー・テレサと神の子[新版]』小林正典写真集（ビレッジプレス）					
事前学習（内容・時間）	実技のテーマの趣旨を理解し、必要なものを用意する（30分）					
事後学習（内容・時間）	実技作品の講評の内容を理解する（30分）					
フィードバックの方法	対話形式で講評を行い、わたくし自身も感性に満ちた作品の内容から学ぶことを具体的に伝える。					
備 考	指定のスケッチブック、筆記・着彩用具、初回の自画像のための手鏡を持参してください。			オフィスアワー	授業終了後30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
病態治療学Ⅱ (内科系)	巽 圭太	講義	1年次後期・ 2年次前期	必修	2	60	KSB11106

科目の概要

代表的な内科疾患について、定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、治療法、予後などについて教授する。講義時間の都合上、本科目で学習する疾患は、極めて代表的なものに限られるが、教わった“知識”“だけ”を修得するのではなく、今後、学内演習、臨地実習、さらには卒後社会人になって、様々な疾患に出会ったときに、自学自習できる礎となる“知恵”の修得を目指す。

到達目標

- 各器官系について、おのおの代表的な疾患の定義・概念を5疾患以上説明することが出来る。
- 特に重要な疾患については、主な症状、検査所見、診断の基準、治療方法、予後、疫学について説明することが出来る。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	はじめに～内科学を学ぶにあたって～/循環器疾患
第2回	循環器疾患 1
第3回	循環器疾患 2
第4回	循環器疾患 3
第5回	循環器疾患 4 /小テスト 1
第6回	呼吸器疾患 1
第7回	呼吸器疾患 2
第8回	呼吸器疾患 3
第9回	消化管疾患 1 /小テスト 2
第10回	消化管疾患 2
第11回	消化管疾患 3
第12回	消化管疾患 3
第13回	肝疾患 1 /検査値の見方/小テスト 3
第14回	肝疾患 2 /胆道・膵臓・脾臓・腹膜疾患 1
第15回	胆道・膵臓・脾臓・腹膜疾患 2 /小テスト 4
第16回	血液疾患 1
第17回	血液疾患 2
第18回	腎疾患 1
第19回	腎疾患 2
第20回	内分泌疾患 1 /小テスト 5
第21回	内分泌疾患 2
第22回	代謝疾患 1
第23回	代謝疾患 2
第24回	脳・神経疾患 1
第25回	脳・神経疾患 2 /小テスト 6
第26回	脳・神経疾患 3
第27回	脳・神経疾患 4
第28回	免疫関連疾患 1
第29回	免疫関連疾患 2 /小テスト 7
第30回	免疫関連疾患 3

成績評価方法	定期試験(筆記) 65% 小テスト 35%					
教科書	「人体構造機能論Ⅰ」「病態治療学Ⅰ」で既購入の教科書。2019年度前期購入：『病気がみえる「vol. 5 血液」, 「vol. 8 腎・泌尿器」』（メディックメディア）					
参考文献	『わかりやすい内科学（第4版）』井村 裕夫（編集主幹）（文光堂）、関連科目で既購入の教科書。					
事前学習(内容・時間)	教科書での予習。講義予定の内容を把握し、注意すべき用語をチェックする（60分）。					
事後学習(内容・時間)	講義・各種テストの復習。Web(G Suite)課題。用語は当日、翌日、1週間後に見直す（60分）。					
フィードバックの方法	課題については、授業中ないしWebにてフィードバックする。					
備考	授業で告知した成績評価に関わる不正行為は厳罰とする。 この科目の学習を通じて、大学生から社会人まで必要な学習方法を磨き、社会人基礎力を修得すること。			オフィスアワー	木曜14:40～15:10	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	△	—	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
病態治療学Ⅲ (外科系)	高原 史郎	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSB21102

科目の概要

外科各科に共通する臨床看護学に必要な知識と技術や理念を修得することを目的とした講義をする。特に外科看護の総論に力点をおき、各論では病態治療学Ⅰ（病理学）の内容を基盤とし、外科治療の対象となる疾患とその治療法について講義する。総論では、外科医療に特異的な看護の基礎、周手術期・手術前・手術中・手術後の患者に対する看護、ICUにおける看護、各論では、頭部、胸部、腹部、四肢、小児に関する外科的疾患及び臓器移植についての理解を促す講義をする。

到達目標

- 外科医療の看護、周手術期・手術前・手術中・手術後、ICUにおける看護及び臓器移植についての知識を述べることができる。
- 外科各科の基本的な技術について述べるができる。
- 疾患に関する外科的アプローチについての考え方を論ずることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	滅菌法および消毒法
第2回	手術室の構造と機能、手術室業務(手洗い、手術介助、機械だし)
第3回	外科治療上注意すべき術前の合併疾患(感染症、循環器疾患、呼吸器疾患、肝硬変、慢性腎不全、糖尿病、肥満、免疫不全、精神障害)
第4回	術後合併症1(中枢神経系合併症、循環器系合併症)
第5回	術後合併症2(呼吸器系合併症、消化器系合併症、術後感染症、多臓器不全)
第6回	輸液、輸血、栄養
第7回	麻酔
第8回 AL 6	小テスト(第1－7回授業分)及び解説
第9回	腹部疾患1(消化管癌、急性腹症)
第10回	腹部疾患2(肝胆臓)
第11回	鏡視下手術
第12回	頭部疾患(外傷、脳出血、脳梗塞)
第13回	胸部疾患(乳癌、心筋梗塞、肺癌、気胸)
第14回	小児外科(小児外科の特徴と術前術後管理)、老人外科(高齢者患者の特徴と術前術後管理)
第15回 AL 4	臓器移植

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 小テスト 30% 成果物 20%					
教科書	『ナースの外科学』磯野可一編著(中外医学社)					
参考文献	『外科系実践的看護マニュアル』川島みどり他(看護の科学社)					
事前学習(内容・時間)	教科書及びレジメを2回予習すること(2時間)。					
事後学習(内容・時間)	講義中に行った小テストについて復習すること(2時間)。					
フィードバックの方法	レポートは採点后、点数表を配布します。小テストはテスト後に授業内で解説します。					
備 考				オフィスアワー	授業日の講義前10分～ 講義終了30分後まで	
ディプロマ・ポリシーに 掲げる 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニ ケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	—	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
薬理学	内海 美保	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSB21103

科目の概要

この授業では、臨床現場での安全かつ効果的な薬物療法を提供するため、薬が作用する仕組みや生体に及ぼす影響を講義する。また、一般的な薬理学の知識以外にも、薬の体内動態（吸収・分布・代謝・排泄）や製剤学的特徴、薬物相互作用、副作用、使用上の注意など、薬物療法に関する幅広い視点から授業を行う。第1～2回目の総論では、薬の基本を概説し、第3回目以降の各論では、臨床で汎用される医薬品を取り上げ、その薬理作用と副作用を、疾患を踏まえて講義する。

到達目標

- 薬が作用する仕組みや生体に及ぼす影響について説明できる。
- 臨床で汎用される医薬品の特徴（体内動態、製剤学的特徴、使用上の注意等）を列挙できる。
- 薬物療法の際の看護のポイントを説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL2	薬理学総論 I
第2回 AL2	薬理学総論 II
第3回	抗感染症薬 I
第4回	抗感染症薬 II
第5回	抗がん薬、免疫治療薬、抗アレルギー薬・抗炎症薬
第6回	末梢神経系に作用する薬物
第7回	中枢神経系に作用する薬物 I
第8回	中枢神経系に作用する薬物 II
第9回	心臓・血管系に作用する薬物 I
第10回	心臓・血管系に作用する薬物 II
第11回	血液に作用する薬物
第12回	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物
第13回	物質代謝に作用する薬物
第14回	皮膚科用薬・眼科用薬、消毒薬
第15回	救急の際に使用される薬物、輸液剤・輸血剤

成績評価方法	定期試験(筆記) 90% 成果物 10%					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学』吉岡充弘、泉 剛、井関健編著 (医学書院)					
参考文献	『NEW 薬理学』田中千賀子、加藤隆一編著 (南江堂)					
事前学習(内容・時間)	次回の講義内容を教科書で確認しておいてください(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	授業内容が広範囲に及ぶため、1回の講義に対して、最低2時間以上の復習をするようにしてください。					
フィードバックの方法	練習問題に関しては、授業中に解説をするほか、個別の質問、相談にも応じます。					
備 考					オフィスアワー	出講日の授業の前後 30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	—	△	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
疫学	日高 庸晴	講義	2年次 後期	必修	2	30	KSB21104

科目の概要

疫学の歴史的発展と疫学の主要目的のひとつである疾病のリスク因子の同定、分布と発生頻度の測定、自然経過と予後の把握、保健医療および環境（衛生）政策の評価方法、予防と治療などその具体的な内容の基礎知識、またその前提となる研究デザインをはじめとした疫学的方法論の教示を行う。また、国内外の健康課題についてグローバルヘルスの視点から講義を行う。

到達目標

- 「いつ・どこで・だれが」疾患にかかっているのかといった、基本的な考え方を身に付け、述べることができる。
- 疾病や健康問題を集団的な現象として量的に把握するための方法論を理解し、説明できる。
- 現代の健康問題の解決の一方法としての疫学的方法論を学び、習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション、疫学の歴史と定義
第2回	疫学の基礎的な考え方：因果関係や疾病・診断の定義
第3回	疫学調査1：研究デザイン、データのバイアス、妥当性と信頼性
第4回 AL6	疫学調査2：研究倫理、質問紙調査方法1
第5回 AL6	疫学調査3：質問紙調査方法2
第6回	スクリーニングと予防の疫学
第7回	臨床疫学
第8回	感染症疫学1：主な感染症、要因、流行、予防
第9回	感染症疫学2：注目される新興・再興感染症、関連法規
第10回	行動疫学
第11回	差別と疾病－ハンセン病の歴史
第12回	あいりん地域の福祉と健康をめぐる課題－結核対策を中心に－
第13回	疾病別の疫学動向
第14回	生活習慣病・環境疫学・産業疫学
第15回	国際保健学（アフリカでの疫学研究の実際）

成績評価方法	定期試験（筆記）100%					
教科書	『標準保健師講座 別巻2 疫学・保健統計学』牧本清子（医学書院）					
参考文献	適宜紹介します。					
事前学習（内容・時間）	オリエンテーション時の説明および講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習を行うこと（30分）。					
事後学習（内容・時間）	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること（30分）。					
フィードバックの方法	コメントシートの記入内容の一部を次回の講義で全体でシェアすると共に、講評します。					
備 考	講義中の私語・スマートフォンの使用等は厳禁とします。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	△	○	○	△	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
福祉情報技術	宮阪 信次	講義・演習	2年次 前期	選択	2	30	KSB23201

科目の概要

電子・情報技術の進歩によって私達の生活は便利で豊かになり、新しい福祉社会を実現しようとする試みが始まった。本講義では、看護をされる側、する側が容易に情報の共有ができるネットワークや障害者・高齢者に使いやすい福祉機器・コミュニケーション支援技術の特質などの現状・将来について講義する。

到達目標

- コミュニケーション支援に関する福祉情報技術の理論を理解し、概要を述べることができる。
- ピアカウンセリングのグループ実習において、コミュニケーション支援の方法を実践できる。
- 肢体不自由者用ソフトを用いた疑似体験実習から、障害者・高齢者に使いやすい福祉機器について説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション「福祉と情報処理技術」 福祉の定義と歴史
第2回	障害者・高齢者とは(1)「障害の定義と実態統計」
第3回	障害者・高齢者とは(2)「高齢者実態統計と高齢者の心身的機能」
第4回 AL 3	障害の疑似体験と共感的理解
第5回	心身の機能とその障害について / 調査課題結果発表(健康寿命と平均寿命)
第6回 AL 3	ピアカウンセリングの説明 グループ検討課題(ロールプレイ実習)
第7回 AL 4	ピアカウンセリンググループ発表会と相互討議
第8回	障害者・高齢者が使いやすいヒューマンインターフェースとは
第9回	障害者・高齢者の可能性を拓けるコンピュータ機能の体験
第10回	情報機器のアクセシビリティ(1)OSの基本機能についての説明
第11回	情報機器のアクセシビリティ(2)OSの基本機能の実習
第12回 AL 3	肢体不自由者用ソフト「オパナビ」体験 グループ体験実習(ソフトを用いた体験実習)
第13回 AL 4	体験実習グループ発表会と相互討議
第14回 AL 4	福祉情報技術についてのグループ別調査課題の発表会
第15回	課題本(参考文献)の発表会 / 日本・海外の福祉制度について

成績評価方法	定期試験(レポート) 50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	『福祉と情報技術(知の科学)』市川熹ほか(オーム社)					
参考文献	『死はこわくない』立花隆(文藝春秋)2章のみ					
事前学習(内容・時間)	講義中に紹介した文献などは次回までに読んでおくこと(1時間)					
事後学習(内容・時間)	講義中に出す課題について個人ファイルに作成すること(1時間)					
フィードバックの方法	小テストは、授業内で解説を行います					
備 考	Power pointは講義・演習で不可欠なツールであるので基本機能をマスターしておいてください。			オフィスアワー	出講日の授業の前後30分間	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
カウンセリング	伊藤 園子	講義	2年次 前期	選択	1	30	KSB23102

科目の概要

人間理解に役立つ基本的な理論を講義し、看護師・保健師にとって必要なカウンセリングマインドを身につけさせる。自己理解が進むよう自分自身を知るための課題も取り入れる。カウンセリングを毎回のワークを通じて学んでもらい、実際の看護場面で活用できるように演習を行う。

到達目標

- カウンセリングの基礎理論を説明できる。
- 心理的問題の発達段階に応じた理解、対処ができる。
- 自分を知り、自分の長所を生かしたカウンセリングを実施できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL6	カウンセリングの前に
第2回 AL2,6	カウンセリングの基礎理論 傾聴・受容・共感
第3回 AL2,6	カウンセリングの基礎理論 父性・母性
第4回 AL2,6	カウンセリングの基礎理論 交流分析
第5回 AL2,6	カウンセリングの基礎理論 性格論
第6回 AL2,6	カウンセリングの基礎理論 精神分析
第7回 AL2,6	カウンセリングの実際 芸術療法
第8回 AL6	イメージを通じて心を探る 映像授業①(タイトル未定)
第9回 AL6	イメージを通じて心を探る 映像授業②(タイトル未定)
第10回 AL6	イメージを通じて心を探る 映像授業の振り返り
第11回 AL2,6	カウンセリングの実際 認知療法
第12回 AL2,6	ライフサイクルとカウンセリング①乳幼児期から青年期
第13回 AL2,6	ライフサイクルとカウンセリング②成人期から老年期
第14回 AL2,6	ストレス理論とストレスマネジメント
第15回	全体のまとめと復習

成績評価方法	成果物 50% 定期試験(筆記) 50%					
教科書	適宜資料を配布します。					
参考文献	講義内に適宜紹介します。					
事前学習(内容・時間)	講義時に使用する参考文献等を次回の講義までに読んでおくこと (30分)。					
事後学習(内容・時間)	講義時に配布したレジюмеを参考にしてノートにまとめる (45分)。					
フィードバックの方法	レポートは授業内で解説します。					
備 考	意見交換時には、積極的に発言し、授業に参加してください。私語は慎んでください。			オフィスアワー	授業終了後30分、教室で質問を受け付ける。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
社会保障と福祉	長谷川 章子	講義	2年次 後期	必修	2	30	KSB21105

科目の概要

現代社会における社会保障について、その発達の歴史、理念と意義、社会保障の体系、社会保障各制度の概要、民間保険の概要と公的施策との関係等を教授し、医療専門職として理解しておくべき社会保障の基本的知識を説明する。また、ライフサイクルを基礎とし、人々の生活に社会保障がどのように関わり、支えているかを講義する。

到達目標

- 医療従事者として理解しておかなければならない社会保障制度を説明できる。
- グループワークを通して、社会保障をより身近なものとして理解を深め、医療現場で使用できる社会保障制度を述べる事ができる。
- 社会福祉学を通して、「人を援助する」ことを学び、適切な援助をディスカッションできる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	社会保障の概念および理念 —— 社会保障とは ——
第2回	出生～乳児期の社会保障 —— 出産費用・出産保障等 ——
第3回 AL 3	幼児期の社会保障 —— 保健所の役割、保育所の役割等 ——
第4回	児童期の社会保障 —— 小学校、中学校、学童保育等 ——
第5回 AL 4	出生～児童期までの社会保障を学び、各グループでテーマを設定しグループでプレゼンテーションを行う。
第6回	青年期前期の社会保障 —— 高校、大学、専門学校、アルバイト等 ——
第7回 AL 3	青年期後期の社会保障 —— 就労等 ——
第8回 AL 4	青年期の社会保障を学び、各グループでテーマを設定しグループでプレゼンテーションを行う。
第9回	成人期前期の社会保障 —— 結婚、出産等 ——
第10回 AL 3	成人期後期の社会保障 —— 子育て等 ——
第11回	高齢期の社会保障 —— 定年、介護等 ——
第12回 AL 4	成人期以降の社会保障を学び、各グループでテーマを設定しグループでプレゼンテーションを行う。
第13回	医療保障の概要 —— 医療保障とは・医療保障の種類 ——
第14回	年金制度の概要 —— 公的年金とは・民間年金とは ——
第15回 AL 3	年金制度の概要 —— 障害年金・遺族年金・老齢年金 ——

成績評価方法	定期試験(レポート) 50% 成果物 20% 小テスト 30%					
教科書	毎講義で講師の方から資料を配布します。					
参考文献	『はじめての社会保障』 椋野美智子、田中耕太郎 (有斐閣)					
事前学習(内容・時間)	ライフサイクルについて事前に流れを理解しておくこと (1時間)。					
事後学習(内容・時間)	グループワークの討議に備えて、各講義の内容を復習し、十分に理解すること (1時間)。					
フィードバックの方法	個人課題に対するコメントは、次回講義時に返却します。小テストの解答は次回講義時に解説します。					
備 考					オフィスアワー	講義日の講義開始30分前
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療と情報（保健統計）	日高 庸晴	講義・演習	3年次 前期	必修	2	30	KSB31201

科目の概要

医療従事者は常に先端の医療知識を身につける必要があり、さらに情報開示やインフォームド・コンセントの形成に対する強い社会的要請、密接な情報交換に基づく信頼形成等も求められている。これらに対応すべく現代の医療と情報について教授する。具体的にはEBMという現代医療における情報活用方法、プライバシー保護や医療情報システムについて概説する。さらに医療情報や公の統計情報のなどの医療情報を獲得する技術を身につけるために、国民衛生の動向や医学中央雑誌、PubMedなど情報リソースを活用した情報収集とその整理・分析方法を理解し、収集したデータの集計およびプレゼンテーション方法をも身につけることを目標とする。

到達目標

- 情報をアクティブに収集していくことの重要性を理解し、実施できる。
- 情報収集の過程で、情報にはクオリティがあることを知り、その重要性を述べるができる。
- 情報のクオリティと善し悪しを見分け、最善の情報を収集する技術を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーションー現代社会における公衆衛生上の課題
第2回	EBMの理念
第3回	患者中心の医療のための情報化と医療現場における情報システム
第4回	保健衛生に関する統計資料(1)
第5回	保健衛生に関する統計資料(2)
第6回	保健衛生に関する統計資料(3)
第7回	保健衛生に関する統計資料(4)
第8回	医学研究における倫理と患者対象調査
第9回 AL6	医療情報の検索方法(1)(検索演習)
第10回 AL6	医療情報の検索方法(2)(検索演習)
第11回 AL6	医療情報の検索演習(検索演習)
第12回 AL6	医療情報の検索演習(検索演習)
第13回 AL4	プレゼンテーション
第14回 AL4	プレゼンテーション
第15回	労働者の職場環境や職業性ストレスとワークライフバランス

成績評価方法	定期試験(筆記) 100%					
教科書	適宜配布資料を用意します。					
参考文献	適宜紹介します。					
事前学習(内容・時間)	オリエンテーション時の説明および講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習を行うこと(30分)。					
事後学習(内容・時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること(30分)。					
フィードバックの方法	コメントシートの記入内容の一部を次回の講義で全体でシェアすると共に、講評します。					
備 考	講義中の私語・スマートフォンの使用等は厳禁とします。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療と経済	川島 隆志	講義	3年次 前期	選択	2	30	KSB33101

科目の概要

医療・看護を取り巻く環境は、ますます厳しくなっている。その大きな要因が「経済」である。日本が高度成長を続けていた頃は、医療において経済・経営が語られることはなかった。バブル崩壊、リーマンショック、企業の倒産、少子化・高齢化の促進等がその要因となっている。本講義により、医療と経済の関係を理解し、効果的・効率的なケアを保證する看護の必要性を理解することを促す。

到達目標

- 経済学の基本を理解し、述べることができる。
- 経済に関わる統計を医療・看護の視点で説明できるようになる。
- 医療と経済の関わりを説明できるようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	はじめに 本講義の概要
第2回	経済学の基礎①
第3回 AL 2	経済学の基礎②
第4回	人口動態、世帯構成の現状
第5回 AL 2	人口動態、世帯構成と医療・看護の関係
第6回	高齢者の生活状況
第7回 AL 2	高齢者の生活状況と医療・看護の関係
第8回	国民医療費の推移、社会保障給付金の現状
第9回 AL 2	国民医療費の推移、社会保障給付金の現状と医療・看護の関係
第10回	医療従事者数、医療施設数の現状
第11回 AL 2	医療従事者数、医療施設数の現状と医療・看護の関係
第12回	病院経営・財務諸表の基礎
第13回 AL 2	病院経営と看護師の役割
第14回 AL 2	医療と経済の関係
第15回	医療と経済のまとめ

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物(レポート) 30%					
教科書	厚生労働省のホームページより必要な統計データをダウンロードしていただきます(講義で指示します)。					
参考文献	『国民衛生の動向 2018/2019』厚生労働統計協会(厚生労働統計協会)					
事前学習(内容・時間)	マクロ的状況と医療・看護の関係をディスカッションするための事前準備(90分)。					
事後学習(内容・時間)	ダウンロード資料およびディスカッションについて復習する(90分)。					
フィードバックの方法	レポートは授業中に返却します。					
備 考	講義は静かに聞いて下さい。ディスカッションのための準備は必ずすること。			オフィスアワー	講義前、講義後の時間で設定	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	—	△	△	△	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
生涯教育論	伊佐 夏実	講義	2年次 後期	選択	2	30	KSB23101

科目の概要

これからの社会で必要とされる生涯教育（生涯学習）とは何か、生涯教育の理念や意義、役割について学び、今後の生涯教育の在り方についての理解を深めるための内容を講義する。また、ワークショップやグループワークを通して、参加型の学習方法についても教授する。

到達目標

- 現代社会における生涯教育の意義や役割についての理解を深め、説明できる。
- これからの生涯学習社会の中で、自己の生涯学習に取り組むスキルや方法を類別できる。
- 授業における発表やグループワークを通して、プレゼンテーションやディスカッションのスキルを身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL2	イントロダクション 生涯にわたる人間形成
第2回 AL2,3	生涯教育の理念と思想
第3回 AL2,3	生涯学習と学校教育
第4回 AL2,3	生涯学習と社会教育・家庭教育
第5回 AL2,3	生涯学習の多様な学習方法①
第6回 AL3,4	生涯学習の多様な学習方法②
第7回 AL2,3	生涯学習活動を支える社会教育施設の役割
第8回 AL2,3	子どもを育てる地域コミュニティ
第9回 AL3,4	南北問題やグローバルな課題への取り組み
第10回 AL3,4	多文化共生社会のなかでの生涯学習の役割
第11回 AL2,3	男女共同参画社会のなかでの生涯学習の役割①
第12回 AL3,4	男女共同参画社会のなかでの生涯学習の役割②
第13回 AL2,3	メディア・リテラシー①
第14回 AL3,4	メディア・リテラシー②
第15回 AL3,4	これからの生涯教育(生涯学習)を構想する

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	特に使用しません。適宜、プリントや参考資料を配布します。					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	毎時間グループワークを行うので、テーマについて事前に調べてくること(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	毎時間の授業内容を踏まえた小レポートを作成し、次回授業時まで提出すること(1時間)。					
フィードバックの方法	成果物および小テストについては、授業内で解説します。					
備 考	毎時間グループワークを実施しますので、受講生の意欲的な参加を求めます。			オフィスアワー	授業の前後ほか随時	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
運動と健康	幣 友香	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSB33201

科目の概要

この授業では、生活習慣病をはじめとした病気や障害に対する予防・治療を目的とした身体活動、運動の必要性について講義する。加えて、解剖学に基づいて骨、筋肉、腱、関節、それぞれの役割を理解し、柔軟性、筋力、筋持久力を向上させていく技術を教授する。簡単にできるストレッチ法から最新のエクササイズまで幅広く体験することで、自身の身体のバランスに気づき、ひずみを調整する方法、および健康へアプローチする運動の方法についての理解を促す。

到達目標

- 運動の不足や過剰がもたらす病気や障害について理解し、健康の一助としての運動の必要性について論ずることができる。
- 身体の柱となる骨格の役割、および筋の役割を理解し、説明できる。
- 自身の身体を使ってストレッチやエクササイズなどの実技を行うことにより、身体のバランスを整えるための技術を習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL6	身体のバランスの重要性／ボールを使って身体を整える
第2回 AL6	脚後面の筋肉と関わる骨、関節①／ボールを使った運動と関節筋周辺をほぐすためのストレッチ
第3回 AL6	脚後面の筋肉と関わる骨、関節②／ボールを使った運動と股関節周辺をほぐすためのストレッチ
第4回 AL6	脚前面の筋肉と関わる骨、関節①／ボールを使った運動とフットセラピー
第5回 AL6	脚前面の筋肉と関わる骨、関節②／ボールを使った運動とフットセラピー
第6回 AL6	骨盤周辺の筋肉から脊椎に関わる筋肉①／ボールを使った運動とピラティス
第7回 AL6	骨盤周辺の筋肉から脊椎に関わる筋肉②／ボールを使った運動とピラティス
第8回 AL6	腹部の筋肉から胸、肩周辺の筋肉①／ボールを使った運動とピラティス
第9回 AL6	腹部の筋肉から胸、肩周辺の筋肉②／ボールを使った運動とピラティス
第10回 AL6	動きの仕組み/体操①
第11回 AL6	動きの仕組み/体操②
第12回 AL6	動きの仕組み/体操③
第13回 AL6	動きの仕組み/有酸素運動①
第14回 AL6	動きの仕組み/有酸素運動②
第15回 AL6	実技テスト及びまとめ

成績評価方法	小テスト100%					
教科書	プリント配布					
参考文献	『骨単』河合良訓（NTS）、『肉単』河合良訓（NTS）、『筋肉のしくみ・はたらきゆるとと事典』坂井建雄（永岡書店）					
事前学習（内容・時間）	次の授業に必要な筋肉の付着部を覚えてくる（10分程度）。					
事後学習（内容・時間）	授業で行ったワークを1つでも実践し、確認する（10分程度）。					
フィードバックの方法	小テストは授業内に解説します。					
備 考	水分を補給しながらの実技なので水を用意すること。又Gパン、スカート、ストッキングは×です。動きやすい服装で汗もかくのでTシャツ、トレーニング用のコットン素材のスパッツ又はトレーニング用パンツ着用。			オフィスアワー	授業後15分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	—	△	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅰ（概論）	峯岸由紀子	講義	1年次前期	必修	1	30	KSP11101

科目の概要

本科目では、看護を志す初学者として看護の基本的な考え方を講義する。看護学の発展の歴史の変遷を踏まえ、看護学の基本概念（人間、健康、環境、看護）と看護学の知識体系（理論）の概念について説明し、専門職としての看護の役割と機能について講義する。また、看護実践における倫理的な問題と、専門職業人としての看護職者の責務について講義する。

到達目標

- 看護の役割と機能を説明できる。
- 看護の対象である人間を、健康という側面から説明できる。
- 専門職業人としての看護職者の責務について説明できる。
- 看護職者に必要な倫理的態度について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス:本看護学科のカリキュラムにおける看護学概論の位置づけ、学習の方法／看護とは
第2回	看護の役割／実践科学としての看護／看護実践のための基準
第3回 AL3	看護の変遷と看護の役割機能
第4回	ナイチンゲール・ヘンダーソンの看護について
第5回	DVD事例から看護を考える
第6回	看護の対象である人間の理解①(統合体として、生活者としての人、家族、地域、ストレス軽減)
第7回 AL3	健康とは(健康と病気のとらえ方と人々の健康状態)[事例をもとにグループワーク・発表]
第8回 AL3	保健・医療・福祉システム(チームにおける看護の役割)
第9回 AL3	認定看護師の活動について
第10回 AL3	災害時における看護職者の活動について
第11回 AL3	海外における看護職者の活動について
第12回 AL2,3	看護倫理(看護における倫理と倫理的課題)
第13回 AL2,3	看護の対象である人間の理解②(ライフサイクル)
第14回 AL3	医療安全への取り組み
第15回	看護の展望 まとめ

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 30%					
教科書	『ナースング・グラフィカ基礎看護学① 看護学概論』志自岐康子他(メディカ出版) 『看護の基本となるもの』V.ヘンダーソン著、湯槇ます、小玉香津子訳(日本看護協会出版会) 『ナイチンゲールの<看護覚書>イラスト・図解でよくわかる!』金田一薫編著(西東社) 『看護覚え書 看護であること看護でないこと』F.ナイチンゲール著、湯槇ます訳(現代社)					
参考文献	適宜紹介する					
事前学習(内容・時間)	教科書の指定された項目を読んでくること。グループによる発表についてはPower pointを使用して発表できるように準備すること。個人への課題も必ずやってくること(2時間)。					
事後学習(内容・時間)	講義およびグループ発表された内容の理解と記憶をすること(1時間)。					
フィードバックの方法	成果物(レポート)等は授業の中でコメントし返却する。					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	△	—	—	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅱ (コミュニケーション技術)	澤田 京子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	KSP11201

科目の概要

看護師は患者を中心としたチーム医療の中で、高いコミュニケーション能力が期待される。そのために患者や家族に対する良好なコミュニケーション能力を習得する必要がある。看護師の何気ない一言や態度で患者との信頼関係が崩壊するケースがある。本講義では、患者と良好なコミュニケーションをとるための基礎的知識について講義する。コミュニケーション技術は演習を通して身につけられるように指導する。

到達目標

- コミュニケーションの種類と影響要因について説明できる。
- 積極的傾聴と共感について述べるができる。
- 良好なコミュニケーションに必要な技法について説明できる。
- 日常生活場面で敬語の使用やあいさつができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス／なぜ看護師はコミュニケーションを学ぶのか
第2回 AL3	特別講義 「コミュニケーションとマナー」①
第3回	特別講義 「コミュニケーションとマナー」②
第4回	コミュニケーションとは何か(構成要素・成立過程・特徴)
第5回 AL3	コミュニケーションの種類(言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション)
第6回	コミュニケーションに影響するもの
第7回 AL2	良好なコミュニケーションに必要な技法(質問技法) DVD視聴とまとめ
第8回 AL2	積極的傾聴と共感 DVD視聴とまとめ
第9回 AL2	良好なコミュニケーションに必要な技法(関係構築の技法)
第10回 AL3	アサーティブなかかわり
第11回	プロセスレコードとは(事例の紹介)
第12回 AL3	事例(空間の位置関係)の演習とグループワーク
第13回 AL4	事例(空間の位置関係)の演習 ポスターセッション
第14回 AL4	臨地実習でのコミュニケーション①
第15回	臨地実習でのコミュニケーション② まとめ

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	資料配布					
参考文献	『やっぱり見た目が9割』竹内一郎(新潮社)					
事前学習(内容・時間)	自分の日常生活でのコミュニケーションを振り返る(15分)。					
事後学習(内容・時間)	日常生活での挨拶や敬語が使えるように努力する(30分)。					
フィードバックの方法	成果物(プロセスレコード)は、授業中に解説し、個人にはコメントし返却する。					
備考	コミュニケーションは、知識だけでなく、正しい内容を正しい方法で学ばなければ、スキルの習得はできません。トレーニングを行い実践しながら学んでいきましょう。			オフィスアワー	火・木 15:00～18:00	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅲ（健康教育）	尾ノ井美由紀	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21201

科目の概要

地域で生活する様々なライフサイクルや健康レベルにある個人・家族・集団がより良い生活を目指して展開される地域看護の観点から、地域看護活動の場と役割、対象特性・活動の特徴を教授する。また、健康教育の理念および理論と方法について理解し、健康教育の方法、実践的なアプローチを演習を通して習得させる。

到達目標

- 健康教育や支援の目的を説明できる。
- 健康支援に用いられる必要な健康教育理論について説明できる。
- 個人や集団の特性に合った健康教育を計画・実践する方法が分かる。
- 効果的な健康教育の技術を、演習を通して習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	健康教育の定義・理念、歴史
第2回	健康教育と健康行動・行動変容
第3回	健康行動変容理論(保健信念モデル、変化ステージモデル)
第4回	健康行動変容理論(プリシード・プロシードモデル)
第5回	個人・集団を対象とした健康教育(患者教育他)
第6回 AL 3	健康教育の技法(面接技術、コミュニケーション)
第7回	健康教育プログラムの計画・評価(ニーズアセスメント、企画立案、評価)①
第8回	健康教育プログラムの計画・評価(ニーズアセスメント、企画立案、評価)②
第9回	小テスト 　　まとめ
第10回 AL 3	健康課題の抽出
第11回 AL 4	健康教育のテーマ
第12回 AL 3	健康教育の企画立案①
第13回 AL 3	健康教育の企画立案②
第14回 AL 4	健康教育(発表)①
第15回 AL 4	健康教育(発表)②

成績評価方法	成果物 70% 小テスト 30%					
教科書	『新しい健康教育－理論と事例から学ぶ健康増進への道』日本健康教育士養成機構（保健同人社）					
参考文献	『最新保健学講座（別巻1）健康教育論』宮坂忠夫編著（メヂカルフレンド社）					
事前学習（内容・時間）	該当部分のテキストを読んでおく（1時間）					
事後学習（内容・時間）	授業時間に指示された課題を実施する（1時間）					
フィードバックの方法	課題について、授業の中で解説します。					
備 考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニ ケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅳ－1 (基礎看護技術)	瀬山由美子 峯岸由紀子 平野加代子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	KSP11202

科目の概要

看護の対象者が日常生活を送る上で必要な基本的ニーズについての理解を深め、健康の維持・増進や健康の回復、疾病の予防のために基本的な看護技術を教授する。目的と根拠を明確にし、安全で安楽な看護技術を提供できるよう指導する。さらに、看護場面に潜むリスクを認識し、対象者の安全の確保についても考察できるように促す。

到達目標

- 原理原則に基づいた看護技術を提供するための基本的な知識を修得し、述べられる。
- 目的と根拠を明確にし、安全で安楽な看護技術を提供できる。
- 看護場面に潜むリスクを認識し、対象者の安全の確保について述べられる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス 看護技術の考え方、受講の手引き、実習室の使い方
第2回	環境に関する看護技術(講義)
第3回 AL2	ボディメカニクス、活動と休息に関する看護技術 (講義・演習)
第4回	ベッドメイキング(演習)
第5回 AL2	安楽な体位、体位変換①(演習)
第6回 AL2	安楽な体位、体位変換②(演習)
第7回 AL2	体位変換と移送の方法③(演習)
第8回	清潔に関する看護技術(講義)
第9回 AL2	臥床患者のシーツ交換(演習)
第10回 AL2	洗髪(演習)
第11回 AL2	寝衣交換(演習)
第12回 AL2	清拭・足浴①(演習)
第13回 AL2	清拭・足浴②(演習)
第14回	総合まとめ①
第15回	総合まとめ②

成績評価方法	定期試験(筆記) 60% 定期試験(実技) 20% 成果物 20%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ』有田清子他(医学書院)					
参考文献	『看護技術が見える Vol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所(メディックメディア)					
事前学習(内容・時間)	授業資料・テキストを読み、講義・演習までに学習し、臨んでください(1～3時間)。					
事後学習(内容・時間)	学習課題を提出し、技術を修得できるまで、繰り返し練習してください(1～3時間)。					
フィードバックの方法	看護技術が正しいかは、演習中に指導します。課題についてはコメントを記入しますので確認してください。					
備 考	学習した技術は身につける段階まで、繰り返し練習を重ねてください。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	△	—	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅳ－２ (基礎看護技術)	峯岸由紀子 平野加代子 瀬山由美子	講義・演習	1年次 後期	必修	2	60	KSP11203

科目の概要

基礎看護学Ⅳ－２では、看護の対象となる人が、安全で安楽に診療が受けられる援助と、医師の指示による診療の補助に関する基礎的知識・技術・態度について教授する。看護における診療の補助に伴う技術は、患者の療養上の世話を含めた観察と援助を含む。そのため、看護の対象となる人の状態を把握して、適切なアセスメントを行い、最適な方法で援助が実施できるよう指導する。具体的な内容においては、バイタルサイン、電法、食事、排泄、感染予防、与薬、検査に関する看護技術について講義と技術の指導を行う。

到達目標

- バイタルサインの測定が正確に実施できる。
- 無菌操作および感染性廃棄物の取り扱いが確実に実施できる。
- 食事・排泄の援助ができる。
- 与薬・検査時における安全の確認と安楽の保持ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	診療の補助とは 授業計画 バイタルサイン①[電法含む](講義)
第2回	バイタルサイン②(講義)
第3回 AL 2	バイタルサイン③(演習)
第4回 AL 2	バイタルサイン④(講義・演習)
第5回	感染予防①[標準予防策・手指衛生・防護用具の装着](講義)
第6回 AL 2	感染予防②[標準予防策・手指衛生・防護用具の装着](演習)
第7回	感染予防③[滅菌物の取り扱い・消毒物品の渡し方](講義)
第8回 AL 2	感染予防④[滅菌物の取り扱い・消毒物品の渡し方](演習)
第9回	食事の援助①[栄養と食事](講義)
第10回 AL 2	食事の援助②[口腔ケア](講義・演習)
第11回	食事の援助③[食事介助・口腔ケア](講義・演習)
第12回 AL 2	食事の援助④[食事介助・口腔ケア](演習)
第13回	排泄の援助①(講義)
第14回 AL 2	排泄の援助②[陰部洗浄・オムツ交換](演習)
第15回	排泄の援助③[浣腸](講義)
第16回 AL 2	排泄の援助④[浣腸](演習)
第17回	排泄の援助⑤[導尿](講義)
第18回 AL 2	排泄の援助⑥[導尿](演習)
第19回	検査時の看護技術①[さまざまな検査](講義)
第20回	検査時の看護技術②[検査における看護の役割、採血・検尿](講義)
第21回 AL 2	検査時の看護技術③[採血・検尿](講義・演習)
第22回 AL 2	検査時の看護技術④[採血・検尿](演習)
第23回	与薬①[与薬とは、与薬の種類(経口・吸入・直腸など)](講義)
第24回	与薬②[注射、輸血](講義)
第25回 AL 2	与薬③[注射(皮内・皮下・筋肉内注射)](講義・演習)
第26回 AL 2	与薬④[注射(皮下・筋肉内注射)](演習)
第27回 AL 2	与薬⑤[注射(静脈内注射・点滴静脈内注射)](講義・演習)
第28回 AL 2	与薬⑥[注射(点滴静脈内注射)](演習)
第29回	看護技術の統合(1)
第30回	看護技術の統合(2)

成績評価方法	定期試験(筆記) 60% 定期試験(実技) 20% 成果物 20%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ』有田清子他(医学書院) 『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所(メディックメディア) 『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所(メディックメディア)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	事前学習課題・手順書を講義・演習までに学習して臨んでください(2時間)。					
事後学習(内容・時間)	演習レポート等の学習課題を期限までに提出してください(2時間)。					
フィードバックの方法	課題(演習、レポート)については、教員がコメントを口頭で伝えるかレポートに記載します。					
備 考	技術の練習をすることで知識・態度も並行して養われるので、練習は主体的・計画的・継続的に実施すること。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅴ (フィジカルアセスメント)	平野加代子 瀬山由美子 澤田 京子	講義・演習	2年次 前期	必修	1	30	KSP21202

科目の概要

フィジカルアセスメントは、対象者の身体的状態について、系統的に主観的・客観的情報を得て、対象の健康状態を判断する。本科目では、フィジカルアセスメントの意義や重要性を理解し、情報を得るための基本的知識・技術・態度が習得でき、身体の情報に正常・異常の判断ができるように講義・演習をする。

到達目標

- 看護の場面におけるフィジカルアセスメントの意義が説明できる。
- フィジカルイグザミネーションの基本技術の方法と根拠が説明でき実施できる。
- フィジカルイグザミネーションで得られた情報を正確に記録できる。
- 看護過程におけるフィジカルアセスメント実施でき、援助につなげることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ヘルスアセスメントと看護の役割とフィジカルアセスメントの概念
第2回	フィジカルアセスメントの基本技術とシステムレビュー(講義・演習)
第3回	脳神経系のフィジカルアセスメントの基本(講義)
第4回 AL 3	脳神経系のフィジカルイグザミネーションの実際(演習)
第5回	筋・骨格系のフィジカルアセスメントの基本(講義)
第6回 AL 3	筋・骨格系のフィジカルイグザミネーションの実際(演習)
第7回	呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際(講義)
第8回	呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの実際(演習)
第9回	循環器系のフィジカルアセスメントの実際(講義)
第10回 AL 3	循環器系のフィジカルイグザミネーションの実際(演習)
第11回	消化器系のフィジカルアセスメントの実際(講義)
第12回 AL 3	消化器系のフィジカルイグザミネーションの実際(演習)
第13回 AL 2, 3	事例検討: 事例を用いたフィジカルイグザミネーションの実際(情報収集)(演習)
第14回 AL 2, 3	事例検討: 事例を用いた系統的フィジカルイグザミネーションの実際とアセスメント(演習)
第15回 AL 2, 3	事例検討: 事例を用いたフィジカルイグザミネーションと看護援助(演習)

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 成果物 20%					
教科書	『ナースィング・グラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント』松尾ミヨ子他編(メディカ出版)					
参考文献	『フィジカルアセスメントワークブック』山内豊明著(医学書院)、その他は開講時・随時提示します。					
事前学習(内容・時間)	人体の構造と機能についての事前学習、フィジカルイグザミネーションの方法について(2時間)					
事後学習(内容・時間)	事後レポート(1時間)					
フィードバックの方法	コミュニケーションカードでフィードバックします。					
備 考	血圧計、聴診器、授業資料、テキストを持参すること			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	△	—	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学VI (看護過程)	澤田 京子 平野加代子	講義・演習	2年次 前期	必修	1	30	KSP21203

科目の概要

看護過程とは、看護の知識体系に基づいて、対象の健康上の問題を明らかにし、最適かつ個別的な看護を提供するための組織的・系統的な看護実践方法のひとつである。本科目においては、効果的な看護活動を展開するための系統的な問題解決法である看護過程を展開する方法を教授する。

到達目標

- 看護過程の概念と構成要素を説明することができる。
- 事例について、看護上必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。
- 事例について、看護上の問題を明確にし、看護計画を立案することができる。
- 事例の看護計画に沿って、模擬患者に看護を実施・評価し記録を書くことができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	授業ガイダンス:看護学における看護過程の位置づけ、看護過程の構成要素
第2回	看護過程の各段階(1)アセスメント(情報収集・分析・解釈・推論・問題の統合)
第3回	看護過程の各段階(2)看護上の問題の明確化、全体像の把握
第4回	看護過程の各段階(3)看護目標、具体的援助計画の立案
第5回	看護過程の各段階(4)実施・評価・記録
第6回 AL3	事例1を用いた看護過程の展開(1)事例の提示、情報収集
第7回 AL3	事例1を用いた看護過程の展開(2)情報の分析・解釈・推論・統合
第8回 AL3	事例1を用いた看護過程の展開(3)看護問題の明確化と全体像
第9回 AL3	事例1を用いた看護過程の展開(4)看護計画
第10回 AL3	事例2提示 情報収集(解剖・病態生理 検査 治療 日常生活への影響 看護)
第11回 AL3	事例2を用いた情報収集・アセスメント シミュレーション演習
第12回 AL3	事例2を用いた情報収集・アセスメント シミュレーション演習
第13回 AL3	事例2を用いた問題点の明確化と全体像 看護計画の立案 行動計画
第14回 AL3	事例2を用いた看護計画の実施・記録・評価 シミュレーション演習
第15回 AL4	看護過程の展開 まとめ

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	『ナーシング・グラフィカ基礎看護学① 看護学概論』志自岐康子他(メディカ出版)					
参考文献	『実習記録の書き方がわかる 看護過程展開ガイド』任 和子(照林社) 『疾患別 看護過程の展開』山口瑞穂子、関口恵子監修(学研)					
事前学習(内容・時間)	アセスメントに必要な知識を随時、復習・学習する。授業資料を読んでおく(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	指定された課題を必ずやってくる(2時間)。					
フィードバックの方法	レポート課題は、授業時に講評する。					
備考	本科目を修得するには、人体の構造・機能や病態学など、既習の知識を活用する論理的思考力が必要である。専門職者として根拠のある看護実践を行う上で重要な内容を教授するので、十分に理解し、思考過程の進め方を習得してほしい。主体的な学習態度が求められる。				オフィスアワー	火・木 15:00~18:00
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学Ⅰ（概論）	中川ひろみ	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSP11102

科目の概要

成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴、発達課題とともに、健康課題による生活への影響について概説する。また、生活習慣、職業、生活ストレスに関連する健康障害について解説する。さらに、発達課題を踏まえ、健康レベルに応じ、個々の人生設計に沿ったセルフケア、療養を支える看護実践に必要な概念や理論について教授する。

到達目標

- 成人期の特徴を身体的変化と心理的・社会的諸相との関連による統一体として説明できる。
- 成長発達過程と健康及び健康課題について理解し、ライフスタイルや生活ストレスと関連させて説明できる。
- セルフケアによる生活の再構築やquality of life(QOL)を維持する看護について説明できる。
- 成人を取り巻く社会や保健医療環境の変化・福祉の動向を考慮し、看護の役割について説明できる。
- 健康レベルに応じた看護の方法に関する概念や理論について理解し、アプローチについて説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	成人期にある人の理解:ライフサイクルから見た成人期の区分と特徴
第2回	成人期の特徴:身体的変化と心理的・社会的発達の相互関係
第3回 AL3	成人期にある人の健康①:生涯発達の視点から見た成人期にある人の健康をめぐる諸問題
第4回 AL4	成人期にある人の健康②:ライフモデルでとらえる成人期にある人の保健と健康課題
第5回	成人への基本的な看護アプローチ:機能障害とセルフケアへの援助
第6回 AL3	生活習慣・職業・生活ストレスに関連する健康障害 -1) 事例検討
第7回 AL4	生活習慣・職業・生活ストレスに関連する健康障害 -2) 事例検討
第8回 AL3	急性期の対象と看護:慢性的経過をたどる疾患の急性増悪期
第9回 AL4	慢性期の対象と看護:慢性期にある人の自律とアンドラゴジー理論(成人教育)
第10回 AL3	終末期の対象と看護:終末期にある人の苦痛・不安への緩和ケア
第11回 AL4	終末期の対象と看護:終末期における悲嘆とその人らしさへの援助
第12回	成人期にある人を看護するための重要な概念・理論 -1)
第13回 AL3	成人期にある人を看護するための重要な概念・理論 -2)
第14回	健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護:ヘルスプロモーション(1次予防・2次予防・3次予防)
第15回	成人看護における倫理と今日的課題

成績評価方法	定期試験(筆記)80% 成果物20%					
教科書	『看護学テキストNiCE 成人看護学概論 社会に生き世代をつなぐ 成人の健康を支える』林直子他編集(南江堂)					
参考文献	『系統看護学講座 成人分野Ⅱ 成人看護学総論』小松浩子他(医学書院)、『ナースンググラフィカ 成人看護学 成人看護学概論』安酸史子編集(メディカ出版)					
事前学習(内容・時間)	次回のシラバスの内容について予習する(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	授業で理解できなかったことを各自で学習する(1時間)。					
フィードバックの方法	小テストは授業内で解説します。課題・レポートに対しては、全体に向けて講評します。					
備考					オフィスアワー	出講日を基本とし、その他については相談に応じる 場所:研究室
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学Ⅱ (急性期・回復期援助論)	成人看護学 分野教員	講義・演習	2年次 後期	必修	2	60	KSP21204

科目の概要

急激に健康レベルが低下し生命の危機的状態が生じた成人期の患者および家族の特徴を概説し、救命救急時や集中治療下での援助と慢性疾患の急性増悪期の援助および周手術期の援助について教授する。また、生命の危機的状態を脱した回復期における成人期の患者および家族の特徴を概説し、社会生活への復帰に向けた看護援助について教授する。

到達目標

- 急性期から回復期における成人期の患者の身体・心理・社会的な特徴を説明できる。
- 急性疾患および周手術期患者の特徴を踏まえて心身の状態を説明できる。
- 急性疾患および周手術期患者の回復にむけた援助の方法について説明できる。
- 急性期から回復期において必要とされる看護の役割や技術を述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	急性期における看護の特徴①
第2回	急性期における看護の特徴②
第3回	救急医療や集中治療における看護①
第4回	救急医療や集中治療における看護②
第5回	手術前患者の看護①
第6回	手術前患者の看護②
第7回	手術中患者の看護①
第8回	手術中患者の看護②
第9回	手術後患者の看護①
第10回	手術後患者の看護②
第11回	手術後患者の看護③
第12回	手術後患者の看護④
第13回	一次救命処置(BLS)
第14回	二次救命処置(ALS)
第15回	呼吸器機能障害のある患者の看護①
第16回	呼吸器機能障害のある患者の看護②
第17回	循環器機能障害のある患者の看護①
第18回	循環器機能障害のある患者の看護②
第19回	消化器機能障害のある患者の看護①
第20回	消化器機能障害のある患者の看護②
第21回	脳・神経機能障害のある患者の看護①
第22回	脳・神経機能障害のある患者の看護②
第23回	腎・泌尿器機能障害のある患者の看護①
第24回	腎・泌尿器機能障害のある患者の看護②
第25回	運動機能障害のある患者の看護①
第26回	運動機能障害のある患者の看護②
第27回	性・生殖器障害のある患者の看護①
第28回	性・生殖器障害のある患者の看護②
第29回	回復期にある患者の看護①
第30回	回復期にある患者の看護②

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 成果物 50%					
教科書	『看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護Ⅰー概論・周手術期看護』林直子、佐藤まゆみ編集(南江堂)、『看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護Ⅱー救急看護』佐藤まゆみ、林直子編集(南江堂)、『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』矢永勝彦(医学書院)					
参考文献	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学』坂井建雄他(医学書院)					
事前学習(内容・時間)	人体構造機能論Ⅰ/Ⅱ、病態治療学Ⅰ/Ⅱ/Ⅲについて学習しておいてください(30分～1時間)。					
事後学習(内容・時間)	授業で理解できなかった内容については自己学習をしてください(30分～1時間)。					
フィードバックの方法	レポートは授業中に適宜フィードバックを行います。					
備考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	—	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学Ⅲ (慢性期・終末期援助論)	成人看護学 分野教員	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21205

科目の概要

我が国において慢性疾患を有する人は年々増加しており、深刻な健康問題となっている。慢性疾患の特徴および慢性疾患を抱えて生きる成人とその家族の特徴や病気とともに生活する人のセルフマネジメントを支援する援助方法について教授する。ターミナルケア・緩和ケアに関する概念およびターミナルケアを必要とする人および家族への援助方法を教授する。

到達目標

- 慢性疾患をもつ人とその家族の特徴について説明できる。
- 長期にわたり療養法を行っていく慢性疾患をもつ人の援助方法について説明できる。
- 緩和・ターミナルケアにかかわる概念、援助の基本的な考え方を説明できる。
- 患者や家族が抱える問題や苦痛について理解を深め、ターミナルケア・緩和ケアの必要性を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL2	慢性疾患を有する人とその家族の理解と援助支援の基本①
第2回 AL2	慢性疾患を有する人とその家族の理解と援助支援の基本②
第3回 AL2	慢性疾患の主な治療法と治療を受ける患者の看護①
第4回 AL2	慢性疾患の主な治療法と治療を受ける患者の看護②
第5回 AL2	呼吸器系の障害を有する人とその家族への援助
第6回 AL2	循環器系の障害を有する人とその家族への援助
第7回 AL2	消化器系の障害を有する人とその家族への援助
第8回 AL2	代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への援助
第9回 AL2	腎・泌尿器系の障害を有する人とその家族への援助
第10回 AL2	血液・免疫系の障害を有する人とその家族への援助
第11回 AL2	脳・神経系の障害を有する人とその家族への援助
第12回 AL2	感覚系の障害を有する人とその家族への援助
第13回	緩和ケア・ターミナルケアとは
第14回	ターミナル期にある人とその家族の特徴と理解および看護援助
第15回 AL2	ターミナルケアにおける倫理

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 30%					
教科書	『成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える』鈴木久美、野澤明子、森一恵編(南江堂) 『成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論』鈴木志津枝、内布敦子編 (ヌーヴェルヒロカワ)					
参考文献	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』坂井建雄、岡田隆夫(医学書院) 『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学』田中越郎(医学書院)					
事前学習(内容・時間)	人体構造機能論Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ・Ⅱで授業テーマと関連するところを復習しておくこと(30分)。					
事後学習(内容・時間)	授業ノートと資料を整理し、復習をすること(30分)。					
フィードバックの方法	レポート課題にコメントを記入して、返却する。					
備 考	主体的な参加を望みます。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	△	—	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学Ⅳ (援助方法論)	成人看護学 分野教員	演習	3年次 前期	必修	2	60	KSP31301

科目の概要

手術を受ける患者および急性および慢性疾患をもつ成人への看護援助に必要な知識・看護技術が習得できるように指導する。事例を通して急性期または慢性期の患者を身体的・社会的・心理的側面から総合的にとらえ、様々な知識や情報を用いてアセスメントを行うことで看護上の問題を抽出し、患者が必要としている看護の明確化および実践ができるように教授する。

到達目標

- 手術を受ける患者および急性および慢性疾患をもつ成人に必要な看護援助を実施できる。
- 急性期または慢性期の患者の看護上の問題を、看護理論を用いてアセスメントし、優先順位を考えて抽出できる。
- 看護上の問題から患者の目標を考え、目標を達成するために必要な看護援助を立案および実施できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL3	救急時の看護援助①
第2回 AL3	救急時の看護援助②
第3回 AL3	術前の心身を整える看護援助①
第4回 AL3	術前の心身を整える看護援助②
第5回 AL3	術後の回復促進と合併症予防のための看護援助①
第6回 AL3	術後の回復促進と合併症予防のための看護援助②
第7回 AL3	術後の回復促進と合併症予防のための看護援助③
第8回 AL3	術後の回復促進と合併症予防のための看護援助④
第9回 AL2	急性期における看護過程の展開①
第10回 AL2	急性期における看護過程の展開②
第11回 AL2	急性期における看護過程の展開③
第12回 AL2	急性期における看護過程の展開④
第13回 AL2	急性期における看護過程の展開⑤
第14回 AL2	急性期における看護過程の展開⑥
第15回 AL2	急性期における看護過程の展開⑦
第16回 AL2	急性期における看護過程の展開⑧
第17回	摂食・嚥下障害をもつ患者の看護①
第18回	摂食・嚥下障害をもつ患者の看護②
第19回	呼吸理学療法を必要とする患者の看護①
第20回	呼吸理学療法を必要とする患者の看護②
第21回	異常の早期発見や二次障害予防のための看護①
第22回	異常の早期発見や二次障害予防のための看護②
第23回 AL2	慢性期における看護過程の展開①
第24回 AL2	慢性期における看護過程の展開②
第25回 AL2	慢性期における看護過程の展開③
第26回 AL2	慢性期における看護過程の展開④
第27回 AL2	慢性期における看護過程の展開⑤
第28回 AL2	慢性期における看護過程の展開⑥
第29回 AL2	慢性期における看護過程の展開⑦
第30回 AL2	慢性期における看護過程の展開⑧

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 成果物 50%					
教科書	適宜紹介します。					
参考文献	適宜紹介します。					
事前学習(内容・時間)	既習の成人看護学の授業内容を復習してから授業に臨んでください(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	授業で理解できなかった内容については自己学習をしてください(30分～1時間)。					
フィードバックの方法	成果物に関しては適宜フィードバックを行います。					
備 考	この授業では後期からの実習を想定しているため演習を中心に行います。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	—	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学Ⅰ（概論）	山本 裕子	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21101

科目の概要

高齢者を、身体的・心理的・社会的な側面のみならず発達課題と時代背景からも理解を深められる様に高齢者の多様性について講義する。さらに、高齢者を取り巻く医療・保健・福祉および社会問題などの現状を踏まえた老年看護の理念や役割、今後の課題について講義する。

到達目標

- 老年看護の理念と担うべき役割、今後の課題について述べることができる。
- 高齢者を全人的に理解するとともに多様性について述べることができる。
- 高齢者を取り巻く医療、保健、福祉および社会問題と今後の課題について説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	導入(視聴覚教材を用いて)
第2回 AL 3	高齢者の個性①
第3回 AL 4	高齢者の個性②
第4回	高齢者が生きた時代(視聴覚教材を用いて)
第5回 AL 5	高齢者を取り巻く社会①
第6回 AL 5	高齢者を取り巻く社会②
第7回 AL 4	高齢者を取り巻く社会③
第8回	老年看護の役割
第9回	加齢に伴う生理的機能の変化
第10回	加齢に伴う生理的機能の変化(高齢者の性含む)
第11回	高齢者の健康と疾病
第12回	老年看護に関する理論(発達課題を含む)
第13回	高齢者の倫理
第14回	高齢者の保健医療福祉のしくみ
第15回	高齢者の家族支援(グリーンケア)

成績評価方法	定期試験(筆記) 90% 成果物 10%					
教科書	『老年看護学 概論と看護の実践 第6版』奥野茂代、大西和子監修 (ヌーヴェルヒロカワ)					
参考文献	適宜紹介します。					
事前学習(内容・時間)	該当する講義分野を、事前に熟読してください(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	授業内容をまとめて知識の定着を図ってください(2時間)。					
フィードバックの方法	授業内で、質問については説明を課題については講評を行います。					
備 考	全ての人が高齢者になることを忘れずに、高齢者の生活の仕方や高齢者を取り巻く環境を観察しましょう。			オフィスアワー	火曜日 10:50~12:20	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学Ⅱ (疾病と障害)	山本 裕子 梅川 奈々	講義	2年次 後期	必修	1	15	KSP21102

科目の概要

認知症を患っている高齢者のBPSD（認知症における行動・心理症状）が緩和し穏やかな生活を営むための看護援助について講義する。また、人生の最終ステージで迎える高齢者の死とその看護（看取り）について講義する。

到達目標

- 認知症高齢者のBPSD（認知症における行動・心理症状）について説明することができる。
- 認知症高齢者への看護援助方法を説明することができる。
- 高齢者の終末期看護のありかたについて述べるることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	認知症看護(認知症とBPSD)
第2回	認知症看護(認知症ケア)
第3回	認知症看護(視聴覚教材を用いて)
第4回 AL2,3	認知症看護の実際
第5回	高齢者の終末期
第6回 AL2	高齢者の死について(視聴覚教材を用いて)
第7回	高齢者の終末期とその看護(紙おむつとマウスケアの体験)
第8回	高齢者の終末期とその看護援助方法

成績評価方法	定期試験(筆記) 100%					
教科書	『老年看護学 概論と看護の実際 第6版』奥野茂代、大西和子監修(ヌーヴェルヒロカワ)					
参考文献	適宜紹介します。					
事前学習(内容・時間)	該当する講義分野を、事前に熟読してください(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	授業内容をまとめて知識の定着を図ってください(2時間)。					
フィードバックの方法	授業内で、質問については説明を課題については講評を行います。					
備 考	認知症病者の手記や看取りの体験記を読み知識を深めてください。			オフィスアワー	火曜日 10:50~12:20	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	△	△	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学Ⅲ (理論とアセスメント)	梅川 奈々 山本 裕子	演習	2年次 前期	必修	1	30	KSP21206

科目の概要

高齢者の残存機能維持・向上や強みなどについて理解を深め、QOLとは何かについて説明する。高齢者の健康レベルに応じた看護やその人らしさを尊重した看護を実践するための基本的知識と看護援助について講義する。

到達目標

- 高齢者のQOLとは何か、その人らしさとは何かについて説明することができる。
- 加齢や疾病による機能低下や障害を理解し、看護援助方法について説明することができる。
- 高齢者の療養の場における老年看護について説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	高齢者のQOL
第2回	ヘルスアセスメント
第3回	高齢者の心身機能の評価
第4回	アセスメントと看護(コミュニケーション)
第5回	アセスメントと看護(食事)
第6回	アセスメントと看護(排泄)
第7回	アセスメントと看護(活動と休息、移動、睡眠)
第8回	アセスメントと看護(視覚・聴覚障害と皮膚の障害)
第9回	アセスメントと看護(パーキンソン症候群)
第10回	アセスメントと看護(ロコモティブシンドローム、廃用症候群)
第11回	薬物療法と副作用
第12回	環境の管理(感染予防含む)
第13回	医療施設における看護
第14回	高齢者施設における看護
第15回	触れるケア

成績評価方法	定期試験(筆記) 100%					
教科書	『老年看護学 概論と看護の実践 第6版』奥野茂代、大西和子監修(ヌーヴェルヒロカワ)					
参考文献	適宜紹介します。					
事前学習(内容・時間)	該当する講義分野を、事前に熟読してください(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	授業内容をまとめて知識の定着を図ってください(2時間)。					
フィードバックの方法	授業内で、質問については説明を課題については講評を行います。					
備 考	専門基礎分野の人体構造機能論Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、薬理学等の復習を行ってください。			オフィスアワー	水曜日 10:50~12:20	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	△	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学IV (症状とケアプラン)	梅川 奈々 山本 裕子	講義・演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31201

科目の概要

講義では得られない高齢者の現状を知ることが目的に、学生が抱いた高齢者への疑問について調査するための質問紙作成を指導し、調査実施（老年看護学実習1）につなげる。高齢者の心身の活性化を目指した知識と技術修得のための演習を実施する。高齢者の個性をふまえた看護実践の思考構築ができるように講義する。

到達目標

- 高齢者への質問用紙を作成することができる。
- 看護情報の整理とその根拠のための症状別アセスメントシートを作成することができる。
- 高齢者の個性を尊重した看護過程の展開を実施することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL2,3	高齢者の現状把握(資料収集、質問内容の考案)
第2回 AL2,3	高齢者の現状把握(質問用紙の作成)
第3回	アクティビティ
第4回 AL2,3	症状別アセスメント項目の作成①
第5回 AL2,3	症状別アセスメント項目の作成②
第6回	高齢者看護過程の展開
第7回 AL3	看護過程の展開(情報収集と整理①)
第8回 AL3	看護過程の展開(情報収集と整理②)
第9回	看護過程の展開(アセスメントと看護問題・課題の明確化、看護目標の設定①)
第10回 AL3	看護過程の展開(アセスメントと看護問題・課題の明確化、看護目標の設定②)
第11回 AL3	看護過程の展開(アセスメントと看護問題・課題の明確化、看護目標の設定③)
第12回	看護過程の展開(看護計画立案①)
第13回 AL3	看護過程の展開(看護計画立案②)
第14回 AL3	看護過程の展開(看護計画立案③)
第15回 AL4	看護過程の展開(発表会)

成績評価方法	定期試験(筆記) 100%					
教科書	『老年看護学 概論と看護の実践 第5版』奥野茂代、大西和子監修(ヌーヴェルヒロカワ)					
参考文献	適宜紹介します。					
事前学習(内容・時間)	該当する講義分野を、事前に熟読してください(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	作成した看護過程を振り返り加筆修正を行います(2時間)。					
フィードバックの方法	授業内で、質問については説明を課題については講評を行います。					
備 考	既習した「看護過程の展開」を復習してください。			オフィスアワー	火曜日 10:50~12:20	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニ ケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学 I (概論と保健)	合田 友美	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21103

科目の概要

小児看護の対象である子どもの身体構造・機能や小児各期（新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期）の発達課題を概説し、成長・発達の特徴および健康の保持増進のあり方について教授する。また、現代の社会現象をとらえながら子どもの権利を擁護した支援のあり方を問い、子どもとその家族に対する小児看護の役割について講義する。

到達目標

- 小児各期の成長・発達の基本的知識を身につけることができる。
- 現代の社会状況を理解し、子どもと家族のより良い生活のための養育支援について説明することができる。
- 子どもの権利擁護のあり方についてディスカッションし、自分の考えを導き出すことができる。
- 小児看護の役割を類別し、今後の課題を指摘することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL3	ガイダンス、小児看護の目標と役割1：小児の世界を知る
第2回 AL3	小児・家族の生活と社会1：小児の環境と事故
第3回 AL3	小児の成長・発達1：小児にとっての成長・発達
第4回 AL3	小児の成長・発達2：新生児
第5回 AL3	小児の成長・発達3：乳児、小テスト
第6回 AL3	小児の成長・発達4：幼児1
第7回 AL3	小児の成長・発達5：幼児2
第8回 AL3	小児の成長・発達6：幼児3、小テスト
第9回 AL3	小児の成長・発達7：学童・思春期
第10回 AL2	小児の人権擁護1：小児の権利と人権擁護
第11回 AL3	小児の人権擁護2：児童虐待とその予防
第12回 AL2	小児・家族の生活と社会2：小児医療の変遷、日本と諸外国
第13回 AL3	小児・家族の生活と社会3：小児を中心とした保健、医療、福祉の法律
第14回 AL3	小児・家族の生活と社会4：病弱教育、特別支援教育
第15回 AL4	小児看護の目標と役割2：小児看護のあり方、専門看護師

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 小テスト 20% 成果物 10%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論、小児臨床看護総論』奈良間美保他(医学書院)、『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論』奈良間美保他(医学書院)					
参考文献	『こどもの病気の地図帳』鴨下重彦、柳澤正義(講談社)					
事前学習(内容・時間)	講義の該当箇所についてテキストを読んで予習をする(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	講義後にテキストおよび配布資料を用いて復習をする(1時間)。					
フィードバックの方法	小テスト終了時に解説をします。コメントカードへのフィードバックとして、次講義の中で講評をします。					
備 考	自分の子ども時代を思い出してください。どのような養育によって今の自分があるのか、今を生きる子どもの成長発達にはどういった支援が必要か。日頃から子どもとその周りの社会全体に目を向けるようにしましょう。 *小児の解剖生理の理解のために、成人の身体構造・機能について復習を十分に行って臨むこと。				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	—	○	—	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学Ⅱ (主な疾患と看護)	合田 友美	講義	2年次 後期	必修	1	15	KSP21104

科目の概要

身体構造・機能の特徴をふまえながら小児期に多くみられる症状や疾病を教授し、疾病・障害が小児と家族に与える影響や看護介入のあり方について紹介する。さらに、疾患・障害のある小児の在宅医療についても概説する。

到達目標

- 小児に代表的な疾患の病態生理と、起こりうる症状の基本的知識を習得することができる。
- 主な小児疾患の治療について説明することができる。
- 疾病・障害が子ども・家族の3側面（身体、精神、社会）に及ぼす影響を類別することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL3	主な小児疾患と看護－1：外傷
第2回 AL3	主な小児疾患と看護－2：運動疾患
第3回 AL3	主な小児疾患と看護－3：呼吸器疾患、免疫・アレルギー疾患
第4回 AL3	主な小児疾患と看護－4：循環器疾患、小テスト
第5回 AL3	主な小児疾患と看護－5：腎疾患、消化器疾患
第6回 AL3	主な小児疾患と看護－6：血液・造血器疾患、悪性新生物
第7回 AL3	主な小児疾患と看護－7：代謝・内分泌疾患
第8回 AL3	主な小児疾患と看護－8：神経疾患、耳鼻科疾患、小テスト

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 小テスト 30%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論』奈良間美保他(医学書院)、『発達段階からみた 小児看護過程+病態関連図(第3版)』浅野みどり他(医学書院)					
参考文献	『こどもの病気の地図帳』鴨下重彦・柳澤正義編著(講談社)					
事前学習(内容・時間)	講義の該当箇所についてテキストを読んで予習をする(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	講義後にテキストおよび配布資料を用いて復習をする(1時間)。					
フィードバックの方法	小テストの解説を終了時に実施する。コメントカードに書かれた質問について、次講義で解説する。					
備 考	「小児と成人の違い」を意識しながら理解すること。 *人体構造機能論(解剖生理学)、病態治療学Ⅰ(病理学、臨床検査)、病態治療学Ⅱ(内科疾患)、病態治療学Ⅲ(外科疾患)、薬理学を復習しながら講義に臨むこと。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	—	△	—	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学Ⅲ（健康障害のある小児と家族への援助）	西田 千夏 合田 友美	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21207

科目の概要

健康障害のある小児と家族のさまざまな療養環境の特徴、および代表的な健康障害の看護について教授する。小児と家族への健康回復・保持・増進に向けた看護を、小児に特徴的な症状・検査・治療・処置の側面からグループ討議・発表によって理解する方法を教授する。

到達目標

- 様々な健康障害のある小児および、家族の療養環境の状況や健康障害の特徴について述べるができる。
- 小児にみられる主な症状の機序・観察・看護を理解し、グループ内・全体での討議・発表によって説明することができる。
- 小児の治療・処置についての看護を理解し、インフォームド・アセントに基づいた看護を説明・実演することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス / 病気・障害をもつ子どもと家族の看護
第2回	外来・入院における小児と家族の看護
第3回	手術を受ける小児と家族の看護
第4回	気管支喘息の小児と家族の看護
第5回	腎炎・ネフローゼ症候群の小児と家族の看護
第6回	血液疾患・悪性腫瘍の小児と家族の看護
第7回	終末期にある小児と家族の看護
第8回	ハイリスク新生児と家族の看護
第9回	在宅療養中の小児と家族の看護
第10回 AL 3	小児にみられる主な症状のアセスメントと看護1（グループワーク）
第11回 AL 2	小児にみられる主な症状のアセスメントと看護2（発表準備、発表会、グループディスカッション）
第12回 AL 4	小児にみられる主な症状のアセスメントと看護3（発表会、グループディスカッション）
第13回 AL 3	治療処置、検査を受ける小児と家族の看護1（グループワーク）
第14回 AL 2	治療処置、検査を受ける小児と家族の看護2（グループワーク）
第15回 AL 4	治療処置、検査を受ける小児と家族の看護3（発表会、グループディスカッション）

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物 20% 小テスト 10%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論、小児臨床看護総論』奈良間美保他（医学書院）、『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論』奈良間美保他（医学書院）、『発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図（第3版）』浅野みどり編著（医学書院）					
参考文献	『こどもの病気の地図帳』鴨下重彦、柳澤正義 編著（講談社）					
事前学習（内容・時間）	講義前に該当箇所について、テキストを読んで予習をする。提示した事前課題を行う（1時間）。					
事後学習（内容・時間）	講義後は、テキストおよび資料を読んで復習をすること（1時間）。					
フィードバックの方法	質問や意見、提出課題、小テストのフィードバックとして、個人・グループ・全体に向けて講評します。					
備 考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	—	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学Ⅳ (小児のアセスメントとケア論)	西田 千夏 合田 友美	演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31302

科目の概要

さまざまな発達、健康段階にある小児とその家族への看護実践に必要な知識・アセスメント能力・看護技術の習得を目指す。看護過程演習では、事例の小児とその家族を身体・精神・社会的側面から統合的に捉え、必要な看護を導き出すための方法を教授する。小児看護技術演習では、看護技術の方法と小児の特徴を統合させた基本的技術を、演習を通して教授する。

到達目標

- 事例を通して、健康障害のある小児と家族のアセスメントができ、全体像を捉えて必要な看護を導き出すことができる。
- 健康障害のある小児と家族に必要な看護技術の意義とその方法を説明することができる。
- 健康障害のある小児に必要な看護技術を、モデル人形やロールプレイング等を用いて実施し、実施後の評価ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	講義ガイダンス
第2回	看護過程演習(事例の設定と必要な知識の共有学習)
第3回 AL3	看護過程演習(アセスメント)
第4回 AL3	看護過程演習(関連図)
第5回 AL2	看護過程演習(関連図)
第6回 AL3	看護過程演習(看護問題の抽出)
第7回 AL4	看護過程演習(発表会・まとめ) 看護技術演習ガイダンス
第8回 AL3	看護技術演習(観察の手順、及び留意点)
第9回 AL3	看護技術演習(バイタルサイン測定)
第10回 AL3	看護技術演習(身体計測技術)
第11回 AL3	看護技術演習:実技試験
第12回 AL3	看護技術演習:実技試験
第13回 AL3	看護技術演習(与薬・採血・持続点滴中の看護)
第14回 AL3	看護技術演習(小児のCPR)
第15回 AL3	小児看護学Ⅳのまとめ

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 20% 定期試験(実技) 10%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論、小児臨床看護総論』奈良間美保他(医学書院)、『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論』奈良間美保他(医学書院)、『ナーシンググラフィカ 小児看護学(2)小児看護技術』中野 綾美(メディカ出版)、『発達段階からみた小児看護過程+病態関連図(第3版)』浅野みどり編著(医学書院)					
参考文献	『こどもの病気の地図帳』鴨下重彦、柳澤正義 編著(講談社)					
事前学習(内容・時間)	事例の発達・疾患・治療・看護、指定された小児看護技術の事前学習を行って授業に臨む(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	グループディスカッション後の事後学習、看護技術演習の評価を行う(1時間)。					
フィードバックの方法	質問や意見、提出課題、実技試験のフィードバックとして、個人・グループ・全体に向けて講評します。					
備 考	授業は、小グループのディスカッション形式を中心に展開します。主体的・積極的に学んで下さい。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	—	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学Ⅰ（概論）	母性看護学 分野教員	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21105

科目の概要

母性看護学独自の特徴および母性看護の基盤となる概念について講義するとともに、我が国における母子保健の歴史の変遷や母子保健の今日的課題について概説する。

到達目標

- 母性看護の変遷を把握し、母性看護の特徴および対象について説明できる。
- 女性のライフステージ各期における特徴や健康問題を把握し、その支援方法について説明できる。
- 母子保健統計を把握し、母子保健行政や施策の現状と課題について述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	母性の定義、母性の特性、ヘルスプロモーション
第2回	母性看護のあり方、母性看護の課題と展望
第3回	母性看護の変遷と動向—出産をめぐる看護—
第4回	母性看護に関連する組織と法律
第5回	母性看護の場と職種、対象を取り巻く環境
第6回 AL2	女性生殖器の機能、女性のライフサイクルと家族
第7回 AL3	女性のライフステージ各期における看護（思春期・成熟期）
第8回 AL3	女性のライフステージ各期における看護（更年期・老年期）
第9回	母子保健の歴史の変遷と現状
第10回	母子保健の水準
第11回	母子保健に関する法律
第12回	現在の母子保健施策
第13回	健やか親子21、女性の健康とリプロダクティブヘルス/ライツ
第14回 AL3	リプロダクティブヘルスケア
第15回 AL4	母子保健の問題と課題

成績評価方法	定期試験（筆記）80% 成果物 20%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論』森 恵美編著（医学書院）、 『国民衛生の動向 2018/2019』厚生労働統計協会（厚生労働統計協会）					
参考文献	『わが国の母子保健—平成31年—』財団法人母子衛生研究会編（母子保健事業団）					
事前学習（内容・時間）	毎回の授業計画を確認し、テキストおよび参考文献を読んでおくこと（30分程度）。					
事後学習（内容・時間）	授業で学習した内容について、テキスト・参考文献・資料を読んで復習しておくこと（30分程度）。					
フィードバックの方法	講義中に質問を行います。また、小テスト（成果物扱い）を行うこともあります。					
備 考	本科目は、母性看護学を理解するための基盤となる重要な科目です。丁寧に学んでいきましょう。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	△	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学Ⅱ (女性生殖・周産期医療)	上山 直美	講義	2年次 後期	必修	1	15	KSP21106

科目の概要

女性の内分泌（ホルモン）状態について解説し、周産期に罹患しやすい疾病の病態・診断・治療、併せて女性のライフサイクルにおける性と生殖、リプロダクティブヘルスとヘルスケアの問題とそれらに対する支援方法について講義する。

到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ● 女性の心身社会的側面から生じる健康問題について、それぞれの側面における要因や問題を類別できる。 ● 女性の心身社会的側面から生じる健康問題について、医学的治療や看護ケアを説明できる。 ● 周産期の異常に伴う疾患や症状について、原因、医学的治療や看護ケアを説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL2	エストロゲン依存性疾患と看護ケア :Gender-specific Medicine(G S M)、女性の悪性腫瘍、女性生殖器疾患
第2回	周産期のメンタルヘルスと看護ケア
第3回	妊娠期の異常- 妊娠経過と健康逸脱
第4回	分娩期の異常- 分娩経過と健康逸脱
第5回	産褥の異常- 産褥経過と健康逸脱
第6回	乳がんと看護ケア
第7回 AL2	不妊症と看護ケア
第8回 AL2	更年期症状と看護ケアおよびヘルスプロモーション

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 成果物 20%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器』池田正編著 (医学書院)、その他の資料は適宜配布					
参考文献	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論』森 恵美編著 (医学書院)、『看護学テキストNiCE 母性看護学Ⅱ マタニティ・サイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践』大平光子他 (南江堂)					
事前学習(内容・時間)	妊娠期、分娩期、産褥期の生理的变化、ホルモン動態の変化について既習内容を復習してください(各講義前1時間)。					
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習し(1時間)、質問を次回の講義で行ってください。					
フィードバックの方法	レポートに対する講評を授業内で行います。					
備考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	△	○	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学Ⅲ (周産期アセスメント)	上山 直美	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21208

科目の概要

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における女性と新生児、および家族を対象とした生理的、心理・社会的変化と特徴を教授する。また、それらの対象に対する看護ケアとウェルネスの視点について解説する。

到達目標

- 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期において、生理的に経過する周産期女性、胎児と新生児の身体的・心理的、社会的変化について説明できる。
- 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護ケアについて、ウェルネスの視点からの類別ができ、説明できる。
- 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期において、生理的経過の範囲を逸脱した状態や健康障害、その看護ケアについて説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	妊娠期の生理的変化と胎児の健康状態①
第2回	妊娠期の生理的変化と胎児の健康状態②
第3回 AL 2	母親役割獲得準備状況と家族関係のアセスメント
第4回	正常分娩経過のアセスメントと看護①
第5回 AL 2, 3	正常分娩経過のアセスメントと看護②
第6回	産婦の心理変化、母子愛着形成および家族のアセスメント
第7回	出生直後の新生児のアセスメントと看護援助
第8回	新生児の子宮外生活適応についてのアセスメント①
第9回 AL 2	新生児の子宮外生活適応についてのアセスメント②
第10回	退行性変化のアセスメント①
第11回 AL 2, 3	退行性変化のアセスメント②
第12回	進行性変化のアセスメント①
第13回 AL 2, 3	進行性変化のアセスメント②
第14回	出産後の育児技術取得状況、愛着形成、家庭・社会生活への適応のアセスメント
第15回	ハイリスク妊娠・分娩、産科処置および看護 講義のまとめ

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 30%					
教科書	『看護学テキストNiCE 母性看護学Ⅱ マタニティ・サイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践』大平光子他 (南江堂)、『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器』池田正編著 (医学書院)					
参考文献	『看護実践のための根拠がわかる母性看護技術』北川眞理子他 (メヂカルフレンド社)					
事前学習(内容・時間)	授業計画の該当部分を予習すること (1時間程度)。					
事後学習(内容・時間)	授業始めまたは終わり前に小テストを行う。そのため講義の復習をすること (1時間程度)。					
フィードバックの方法	小テストは講義内で解説を行います。					
備 考	小テストは成果物として評価する。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	○	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学Ⅳ (周産期ケアマネジメント)	上山 直美 堀 陽子	講義・演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31202

科目の概要

周産期（妊娠・分娩・産褥）にある女性と新生児および家族を対象とし、それらの身体的・心理的特徴を踏まえ、母性看護に必要な援助技術を講義する。具体的には対象の看護上の問題や医療上の問題、生活上の問題の理解と周産期におけるセルフケアの視点に基づいた看護過程の展開と援助に焦点をあて説明する。

到達目標

- 周産期の女性、胎児、新生児の生理的变化および心理、社会的な側面におけるアセスメントができる。
- 周産期の女性、胎児、新生児の基本的技術の目的・必要性を理解し、正確に技術を実施できる。
- 問題解決思考、ウェルネスの視点および母子関係に着目した根拠に基づく看護援助技術方法や手順、目的を説明できる。
- 問題解決思考、ウェルネスの視点および母子関係に着目した根拠に基づく看護過程の展開ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL3	妊娠期のヘルスアセスメント① 妊婦健康診査の項目と援助技術
第2回 AL3	妊娠期のヘルスアセスメント② 妊婦健康診査の項目と援助技術
第3回 AL3	分娩期のヘルスアセスメント 分娩期の補助動作、呼吸法に関する援助技術
第4回 AL3	産褥期のヘルスアセスメント① 退行性変化と進行性変化のアセスメントと援助技術
第5回 AL3	産褥期のヘルスアセスメント② 退行性変化と進行性変化のアセスメントと援助技術
第6回 AL3	新生児のヘルスアセスメント① 全身観察、バイタルサイン測定
第7回 AL3	新生児のヘルスアセスメント② 抱き方、更衣、おむつ交換
第8回 AL3	出産後の家庭生活に必要な育児技術 沐浴
第9回	看護過程の展開:妊娠期の事例
第10回	看護過程の展開:分娩期の事例
第11回	看護過程の展開:産褥期の事例①
第12回	看護過程の展開:産褥期の事例②
第13回	看護過程の展開:新生児の事例①
第14回	看護過程の展開:新生児の事例②
第15回	事例の統合 関連図 講義のまとめ

成績評価方法	定期試験(筆記) 30% 成果物40% 定期試験(実技) 30%					
教科書	『看護学テキストNiCE 母性看護学Ⅱ マタニティ・サイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践』大平光子他 (南江堂)、『看護実践のための根拠がわかる母性看護技術』北川眞理子他 (メヂカルフレンド社)					
参考文献	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論』森 恵美編著 (医学書院)、『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器』池田正編著 (医学書院)					
事前学習(内容・時間)	演習前は、授業計画の該当部分を予習し手順書の作成を行う(1時間程度)。					
事後学習(内容・時間)	実技演習の練習、課題を行う(1時間程度)。					
フィードバックの方法	課題に関しては、授業内で解説を行います。					
備 考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学Ⅰ（精神保健）	八田 勘司	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21107

科目の概要

精神看護学を学ぶ上で理解しておくべき、患者と家族の精神の健康、心身相関の考え方に基づくホリスティックケア、自殺、レジリエンス等の基本的知識を身につけることを目的とする。心の健康・不健康について説明し、心の機能と発達、精神の健康に関する普及啓発について教授する。また、精神の健康とマネジメントについて講義する。

到達目標

- 精神の健康の概念について説明できる。
- 心の機能と発達について述べることができる。
- 精神の健康とマネジメントについて説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL2	精神の健康の概念 a.精神の健康の定義 b.精神障害の一次予防・二次予防・三次予防
第2回 AL4	心の機能と発達 a.精神と情緒の発達 b.自我の機能
第3回 AL4	心の機能と発達 c.防衛機制 d.精神力動 e.転移感情
第4回 AL4	精神の健康に関する普及啓発 a.偏見、差別、スティグマ b.精神保健医療福祉の改革ビジョン
第5回 AL4	危機<クライシス> a.危機<クライシス>の概念 b.危機<クライシス>の予防
第6回 AL4	危機<クライシス> c.危機介入 d.ストレスと対処 e.適応理論
第7回 AL4	精神の健康とマネジメント a.心身相関と健康 b.身体疾患がある者の精神の健康 c.精神疾患がある者の身体 の健康
第8回 AL4	精神の健康とマネジメント d.患者と家族の精神の健康 e.保健医療福祉に従事する者の精神の健康
第9回 AL4	精神の健康とマネジメント f.心身相関の考え方に基づくホリスティックケア g.リエゾン精神看護 h.患者、家族、保健医療福祉の専門職間の連携促進
第10回 AL3	精神科的面接(患者へと接するときの工夫)
第11回 AL4	病跡学
第12回 AL3	自殺
第13回	笑いと健康(映画「パッチアダムス」から)①
第14回 AL2	笑いと健康(映画「パッチアダムス」から)②
第15回 AL2	レジリエンス

成績評価方法	小テスト 90% 定期試験(レポート) 10%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎』武井麻子他(医学書院)					
参考文献	『職場や家族に潜む「心の闇」の気づき方』高木希奈(セブン&アイ出版)、『名作マンガで精神医学』林公一(中外医学社)、『レジリエンス入門—折れない心の作り方』内田和俊(ちくまプリマー新書)、『働く人のためのアドラー心理学「もう疲れたよ…」にきく8つの習慣』岩井俊憲(朝日文庫)、『自分の強みを見つけよう～「8つの知能」で未来を切り開く～』有賀三夏(ヤマハミュージックメディア)					
事前学習(内容・時間)	次回の講義内容をテキストで学習し、ノートにまとめる(45分)					
事後学習(内容・時間)	ノートのポイントを読み直して記憶する(45分)					
フィードバックの方法	レポートはコメントして返却する					
備考	テストの結果と総評を解説します。知的好奇心をもって、積極的にビデオなどで自己学習すること			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学Ⅱ (主な精神疾患と精神症状)	八田 勘司	講義	2年次 後期	必修	1	15	KSP21108

科目の概要

看護師として、精神疾患を理解するうえで必要な基礎知識を教授する。神経症とストレス関連障害、統合失調症、気分障害、器質性精神障害（アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症）、物質関連障害群、物質依存症およびパーソナリティ（人格）障害などについて事例を通して、定義、発病年齢、原因、病前性格、症状、診断基準、経過と予後、治療について講義する。

到達目標

- 神経症とストレス関連障害、統合失調症、気分障害、器質性精神障害の疾患の概念、症状、診断基準、治療について述べるができる。
- 物質関連障害群、物質依存症、パーソナリティ障害の疾患の概念、症状、診断基準、治療について述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL3	神経症とストレス関連障害
第2回 AL4	統合失調症 その1
第3回 AL2	統合失調症 その2
第4回 AL4	気分障害 その1
第5回 AL2	気分障害 その2
第6回 AL4	器質性精神障害（アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症）
第7回 AL4	物質関連障害群、物質依存症
第8回 AL4	パーソナリティ(人格)障害

成績評価方法	小テスト 60% 定期試験(レポート) 40%					
教科書	『精神疾患にかかわる人が最初に読む本』西井重超（照林社）					
参考文献	『ブラックジャックによるしく』(9～13巻) 佐藤秀峰（講談社）、『症例でわかる精神病理学』松本卓也（誠信書房）、『「うつ」の舞台』内海健（弘文堂）、『まとめてみた精神科』天沢ヒロ（医学書院）、『専門医がやさしく語る はじめての精神医学』渡辺雅幸（中山書店）					
事前学習(内容・時間)	課題をノートにまとめる(45分)					
事後学習(内容・時間)	学習内容を復習する(45分)					
フィードバックの方法	テストの結果と総評を解説します。					
備 考	知的好奇心をもって主体的に学ぶこと。参考文献を活用すること。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学Ⅲ (施設における援助)	大江 真人	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21209

科目の概要

精神看護の対象となる患者の権利擁護、安全管理に必要な知識を講義する。また、精神看護の対象の理解と支援の基本となる援助的関係を理解し、看護職者としての基本的な姿勢を教授する。さらに、主な精神疾患・障害の看護について学び、日常生活にどのような影響があるかをアセスメントし、援助する視点を説明する。

到達目標

- 精神看護の対象の理解と支援のための概念（援助的関係の構築、セルフケアの援助）について説明できる。
- 主な精神疾患・障害の特徴とその看護についての基礎的知識を説明できる。
- 精神看護の対象の人権と安全を守り、回復を支援する方法について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の基本的な考え方、安全管理、患者の権利擁護
第2回 AL 2	精神看護の対象の理解①:援助的関係の形成
第3回 AL 3	精神看護の対象の理解②:プロセスレコード
第4回	精神科で用いられる治療法、検査法
第5回	主な精神疾患の看護①:脳の仕組みと精神機能
第6回 AL 4	主な精神疾患の看護②:症状性を含む器質性精神障害、精神作用物質使用による精神・行動の障害
第7回 AL 4	主な精神疾患の看護③:統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害
第8回 AL 4	主な精神疾患の看護④:気分＜感情＞障害
第9回 AL 4	主な精神疾患の看護⑤:神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害、生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
第10回 AL 4	主な精神疾患の看護⑥:パーソナリティ障害、習慣および衝動の障害、性同一性障害
第11回 AL 4	主な精神疾患の看護⑦:知的障害、心理的発達障害の障害、小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害
第12回	精神看護の対象の支援①:基本的データ(生活歴、発達段階、精神状態、生きる力と強さ)
第13回	精神看護の対象の支援②:セルフケアの援助 空気・水・食物、排泄
第14回	精神看護の対象の支援③:セルフケアの援助 個人衛生、活動と休息
第15回	精神看護の対象の支援④:セルフケアの援助 孤独とつきあい、安全を保つ能力

成績評価方法	定期試験(筆記) 60% 成果物 40%					
教科書	『系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎』武井麻子他 (医学書院)、『系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開』武井麻子他 (医学書院)					
参考文献	『自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード』長谷川雅美他 (日総研出版)					
事前学習(内容・時間)	講義内容について、参考図書等を用いて予習を行い、レポートにまとめて提出する(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	講義内容、講義中に修正した自身のレポートに基づいて復習を行う(1時間)。					
フィードバックの方法	レポートはコメントをして返却する。					
備 考					オフィスアワー	月曜13:00~14:50
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	△	—	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学Ⅳ (地域における援助)	美王 真紀	講義	3年次 前期	必修	1	30	KSP31101

科目の概要

地域において精神障害者が利用する社会資源やリハビリテーションを伝え、精神障害者とその家族の現状を講義する。地域で生活している精神障害者とその家族が抱える多くの課題について、ノーマライゼーションの観点を含めながら学生が自分の考えを説明できるよう、講義する。

到達目標

- 精神科リハビリテーション、地域精神医療を考えるときに必要な概念、精神保健福祉法及び障害者総合支援法の特徴と事業内容について説明することができる。
- 長期入院患者及び地域で生活する精神障害者とその家族の現状と課題について、国内外の地域精神医療の現状を理解した上でノーマライゼーションの観点から自分の考えを述べるができる。さらに、看護師としてできる支援について自分の考えを述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL2	精神科リハビリテーションの概念／精神医療に関する法律の変遷/精神保健福祉法の運用と看護師の役割
第2回	障害者総合支援法の概要と事業内容、精神保健医療福祉に関する社会資源の活用と多職種連携
第3回	WRAPを用いた訪問看護の実践について(1)
第4回	WRAPを用いた訪問看護の実践について(2)
第5回 AL3	グループワーク(第6～13回の発表資料作成)
第6回 AL2,4	地域精神医療を考えるときに必要な概念:リカバリー、ストレングス、WRAP(Wellness and Recovery Action Plan)、オープンダイアローグ
第7回 AL2,4	ACT(Assertive Community Treatment)における多職種連携と社会資源の活用
第8回 AL2,4	アルコール依存症と薬物依存症患者の地域生活とセルフヘルプグループの活用/発達障害者の地域生活
第9回 AL2,4	精神障害を持つ患者の家族の思いと家族への看護
第10回 AL2,4	長期入院患者の特徴と退院支援
第11回 AL2,4	就労支援(統合失調症、うつ病、発達障害)
第12回 AL2,4	地域で行われている精神医療:イタリアの現状
第13回 AL2,4	地域で行われている精神医療:北海道浦河べてるの家の取り組み
第14回	ビデオ鑑賞(1)イタリアの精神医療
第15回 AL2	ビデオ鑑賞(2)災害時における精神保健医療活動

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 30%					
教科書	資料を配布する。					
参考文献	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎』、『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開』武井麻子他(医学書院)、『看護のための精神医学』中井久夫、山口直彦(医学書院)					
事前学習(内容・時間)	シラバスにあるキーワードについて調べる(1時間)。					
事後学習(内容・時間)	講義で生じた疑問について調べる。講義内容の復習(1時間)。					
フィードバックの方法	講義ごとに感想・質問を書いてもらい、次の講義の冒頭で説明する。					
備 考	講義中積極的にディスカッションし視野を広げて下さい			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	△	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅰ（概論）	尾ノ井美由紀 牧野 裕子	講義	2年次 前期	必修	1	15	KSP21109

科目の概要

在宅看護の変遷やその社会背景をはじめ、在宅看護の目的や基本理念とそれに関連する概念を教授する。在宅看護の対象者の特性とその支援について教授する。また、在宅看護を支える仕組みとその役割、更には在宅ケアにおける地域包括ケアシステムの概要について教授する。

到達目標

- 日本の在宅看護の変遷とその社会的背景、および在宅看護の目的と基本理念や関連する概念について説明できる。
- 在宅看護の対象者の特性とその支援の基本を説明できる。
- 在宅看護を支える仕組みと在宅看護の役割を説明できる。
- 地域包括ケアシステムの概要を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	在宅看護の背景・在宅看護の基盤
第2回	在宅看護を展開するための基本理念・在宅看護の倫理
第3回	在宅看護の対象者とその支援－ケアマネジメント－
第4回	在宅看護の対象者とその支援－家族支援－
第5回 AL 2	在宅看護を支える仕組み－介護保険制度－
第6回 AL 2	在宅看護を支える仕組み－社会保険制度－
第7回 AL 2	在宅看護を支える仕組み－訪問看護制度－
第8回	地域包括ケアシステムとは

成績評価方法	定期試験（筆記）80% 成果物 20%					
教科書	『系統看護学講座 統合分野 在宅看護論』秋山正子他（医学書院）					
参考文献	『ナースング・グラフィカ 在宅看護論（1）地域療養を支えるケア』臺 有桂他編（メディカ出版）					
事前学習（内容・時間）	該当部分のテキストを読んでおく（2時間）					
事後学習（内容・時間）	授業時間に指示された課題を実施する（2時間）					
フィードバックの方法	課題について、授業の中で解説します。					
備 考	授業開始時に講義受講に際しての注意事項を確認します。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 （看護実践力）
	△	○	△	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅱ (訪問看護の展開方法)	尾ノ井美由紀 牧野 裕子	講義・演習	2年次 後期	必修	1	15	KSP21210

科目の概要

在宅療養者及び家族を理解するために必要な知識と技術や看護職の役割について教授する。また、多職種と連携・協働しながら展開される在宅看護の展開方法について教授する。演習では、事例を用いて在宅療養者及び家族の生活を支援する看護援助について、援助計画を立案させる。

到達目標

- 在宅看護における家庭訪問の特徴とその実際を説明できる。
- 訪問看護過程の構成要素とその特徴を学び、対象者や家族の在宅療養生活を支援する重要性を説明できる。
- 訪問看護過程展開のプロセスを知り、事例展開できる。
- 事例を用いて在宅療養者及び家族の生活を支援する看護援助について考え、援助計画の立案ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	訪問看護とは
第2回 AL2	訪問看護の実際
第3回	訪問看護過程の特徴について
第4回 AL3	訪問看護展開－事例①情報の整理・アセスメント・療養上の課題とニーズの明確化－
第5回 AL3	訪問看護展開－事例①全体像の把握・看護の方向性－
第6回	訪問看護展開－事例①援助計画の立案－
第7回 AL3	訪問看護展開－事例②全体像の把握－
第8回 AL4	訪問看護の方向性－看護展開－援助計画の立案・まとめ－

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 成果物 50%					
教科書	『系統看護学講座 統合分野 在宅看護論』秋山正子他(医学書院)					
参考文献	『ナースング・グラフィカ 在宅看護論(2) 在宅療養を支える技術』臺有桂他編(メディカ出版)					
事前学習(内容・時間)	該当部分のテキストを読んでおく(1時間)					
事後学習(内容・時間)	授業時間に指示された課題を実施する(1時間)					
フィードバックの方法	課題について、授業の中で解説します。					
備考	授業開始時に講義受講に際しての注意事項を確認します			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	△	—	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅲ (在宅ケアの演習)	牧野 裕子	演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31303

科目の概要

在宅看護における安全と健康危機管理について教授する。また、在宅における日常生活援助、ならびに医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的展開方法を教授する。

到達目標

- 療養者の状況や介護力から必要な在宅看護技術を述べることができる。
- 在宅での特異的な看護技術の実際を説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	在宅看護における安全と健康危機管理
第2回 AL 2	在宅における援助技術①—生活ケアと医療的ケア、生活ケアの援助技術—食のアセスメント
第3回 AL 2	在宅における援助技術②—生活ケアの援助技術—排泄のアセスメント
第4回 AL 2	在宅における援助技術③—生活ケアの援助技術—清潔のアセスメント、感染予防
第5回 AL 2	在宅における援助技術④—生活ケアの援助技術—移動のアセスメント
第6回 AL 2	在宅における援助技術⑤—生活ケアの援助技術—呼吸のアセスメント
第7回 AL 3	在宅における援助技術⑥—医療的ケアの援助技術—服薬管理/インスリンの自己注射
第8回 AL 3	在宅における援助技術⑥—医療的ケアの援助技術—服薬管理/化学療法、放射線療法
第9回 AL 2	在宅における援助技術⑥—医療的ケアの援助技術—在宅酸素療法
第10回 AL 2	在宅における援助技術⑥—医療的ケアの援助技術—在宅人工呼吸器
第11回 AL 2	在宅における援助技術⑥—医療的ケアの援助技術—膀胱留置カテーテル、自己導尿、ストーマ
第12回 AL 3	在宅における援助技術⑥—医療的ケアの援助技術—ターミナルケア
第13回 AL 3	在宅における援助技術⑥—医療的ケアの援助技術—在宅経管栄養法
第14回 AL 3	在宅における援助技術⑥—医療的ケアの援助技術—在宅中心静脈栄養法
第15回 AL 3	在宅における援助技術⑥—医療的ケアの援助技術—良肢位の保持と褥瘡予防

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 成果物 50%					
教科書	『ナースンググラフィカ 在宅看護論(2) 在宅療養を支える技術』 臺 有桂他編 (メディカ出版)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	該当部分のテキストを読んでおく (1時間)					
事後学習(内容・時間)	授業時間に指示された課題を実施する (1時間)					
フィードバックの方法	課題について、授業の中で解説します。					
備 考	授業に際し、各自が基礎看護技術の確認を行っておくこと。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	—	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅳ (地域ネットワーク論)	尾ノ井美由紀	講義	3年次 前期	必修	1	30	KSP31203

科目の概要

療養者と家族を取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際から、在宅ケア・在宅看護サービスの展開に必要なケアネットワークの形成・仕組みづくりを説明する。地域包括ケアシステムに関わる機関や専門職の役割と連携方法から看護職の役割について教授する。また、演習を通して健康課題別の地域資源作りの考え方を習得させる。

到達目標

- 在宅ケア・在宅看護サービスの展開に必要なケアネットワークの形成と仕組みづくりを説明できる。
- 地域包括ケアシステムに関わる機関について説明できる。
- 地域包括ケアシステムにおける連携方法と看護職の役割を説明できる。
- 健康課題別に地域包括ケアシステム作りの考え方を発表できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	地域包括ケアシステムと地域包括ケア支援センター
第2回	地域包括ケアシステムづくりの方法と実際
第3回	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携
第4回	地域包括ケアシステムにおける看護職の役割
第5回 AL2	ケースマネジメント・ケアマネジメント
第6回 AL2	子どもの在宅療養を支える制度と社会資源
第7回 AL2	高齢者(介護予防・終末期)を支える制度と社会資源
第8回 AL2	認知症高齢者を支える制度と社会資源
第9回 AL2	障害者を支える制度(心身障がい者)と社会資源
第10回 AL2	障害者を支える制度(精神障がい者)と社会資源
第11回 AL2	難病患者を支える制度と社会資源
第12回 AL3	事例に基づく制度と社会資源(現行の社会資源)
第13回 AL3	事例に基づく制度と社会資源(不足する社会資源)
第14回 AL4	課題発表1
第15回 AL4	課題発表2

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 30%					
教科書	『系統看護学講座 統合分野 在宅看護論』秋山正子他(医学書院)					
参考文献	『ナースング・グラフィカ 在宅看護論(1) 地域療養を支えるケア』臺有桂他編(メディカ出版)					
事前学習(内容・時間)	該当部分のテキストを読んでおく(1時間)					
事後学習(内容・時間)	授業時間に指示された課題を実施する(1時間)					
フィードバックの方法	課題について、授業の中で解説します。					
備 考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ－① (絵画療法)	木村 千尋	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32201

科目の概要

自由に描いた絵は言語表現以上に自己の感情を示しており、人の心理状態を読みとることが可能となる。本科目では、心理的問題に対処できる絵画療法の概要や方法を、カウンセリングを含めた演習を主として教授する。さらに、ホスピタルアートの意義と技能について教授する。

到達目標

- 絵画療法による患者のカウンセリング技法について述べるができる。
- 絵画療法を活用した患者や医療従事者のセルフケア方法について説明できる。
- ホスピタルアートの表現方法や病院内での絵画選択方法を身につけて、院内の色彩計画書を作成できる技能を習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL2	オリエンテーション 絵画療法とは何か
第2回 AL4	絵画療法と看護の意識
第3回 AL3	色彩心理学概論
第4回 AL2	カウンセリング導入と絵画療法
第5回 AL3	医療と癒しのリズム
第6回 AL2	絵画療法 樹木画
第7回 AL2	絵画療法 家屋画
第8回 AL2	絵画療法 人物画
第9回 AL2	風景構成法 読み取りトレーニング
第10回 AL3	ホスピタルアートとミュージックセラピー
第11回 AL3	コラージュ療法
第12回 AL2	視覚コミュニケーションと色彩心理学
第13回 AL3	病院内での色彩活用方法
第14回 AL3	看護に使う具体的事例
第15回 AL3	ホスピタルアートのファシリテーション方法

成績評価方法	成果物100% (内、レポート課題80%、作品20%)					
教科書	プリント随時配布					
参考文献	適宜紹介する					
事前学習(内容・時間)	素材準備(第11回コラージュ療法で使用)(15分)、常にアートに関心を持ち、記録・撮影する(30分)。					
事後学習(内容・時間)	講義終了時に出す課題についてレポートを作成すること(60分)。					
フィードバックの方法	最終日にレポートを返却し、コメントを一人ずつ伝えます。					
備考	絵を上手に描く必要はなく、色や形を楽しんで表現する事を望んでいます。カウンセリング方法・コミュニケーション能力を身につけて頂きたい。			オフィスアワー	出講日の授業の前後	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ-② (音楽療法)	武田倫衣子	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32202

科目の概要

音楽療法では、クライアントのこころとからだの治療のために音楽を用いる。現在、音楽療法は看護と重要な関わりのある様々な臨床現場で実施されている。看護師をはじめとする医療スタッフの音楽療法への正しい理解は、クライアントへの音楽療法の効果を倍増させる。クライアントから深い信頼を寄せられるであろう未来の看護師として、音楽療法とどう関わっていくかを学ぶ授業とする。

到達目標

- 音楽療法についての基礎知識を修得し、説明できる。
- 音楽療法の意義と、看護師が積極的に参加することの重要性を理解し、解説することができる。
- 音楽療法で用いられる基礎的な技術の一部を修得し、活用できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	音楽療法の概要と歴史①
第2回	音楽療法の概要と歴史②
第3回	心身障がい者(児)のための音楽療法①
第4回 AL 6	心身障がい者(児)のための音楽療法②
第5回	精神科における音楽療法①
第6回	精神科における音楽療法②
第7回	小テスト・解説・高齢者の音楽療法に関する映画鑑賞
第8回	高齢者施設における音楽療法①(映画鑑賞の続きを含む)
第9回 AL 6	高齢者施設における音楽療法②
第10回	緩和ケア病棟・ホスピス/神経学的リハビリテーションにおける音楽療法①
第11回	緩和ケア病棟・ホスピス/神経学的リハビリテーションにおける音楽療法②・いろいろな代替療法
第12回	小テスト・解説・音楽療法に関するビデオ鑑賞
第13回 AL 3, 4	音楽療法のデザインと実践①
第14回 AL 3, 4	音楽療法のデザインと実践②・総括・音楽療法にまつわる映画を見ながら①
第15回	総括・音楽療法にまつわる映画を見ながら②

成績評価方法	小テスト 50% 定期試験(レポート) 30% 成果物 20%					
教科書	特になし(資料随時配布)					
参考文献	必要に応じて適宜紹介する。					
事前学習(内容・時間)	授業のテーマについて、本・インターネットなどで自分なりに知識を得ておく(30分)					
事後学習(内容・時間)	授業の要点(資料を配布)の復習(30分)					
フィードバックの方法	小テストについては、授業内で解説を行います。					
備 考					オフィスアワー	出講日の授業後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	△	○	○	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ－③ (笑い療法)	八田 勘司	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32203

科目の概要

笑いは相手の不安や緊張をほぐし、心に潤いや穏やかさをもたらす。人の心と心をつなぐ、極めて重要なコミュニケーションの道具である。歌や楽器演奏でこころを和ませ、大道芸で笑い、笑顔で盆踊りを踊って脳を活性化させれば、疲れたこころは癒され、新たな活力が生まれる。この科目は、ちんどんや大道芸のショーを楽しみ、ちんどん屋風の笑い療法をグループで企画し、フィールドワークで実践する。笑いがQOLを高める可能性を探っていく授業である。看護の場面で役立つ「笑い」を用いた心のケアについて教授する。

到達目標

- 笑いや笑顔の健康やコミュニケーションへの効果について説明できる。
- 音楽、大道芸、盆踊りなどさまざまな笑い療法に参加、実演できる。
- グループで、ちんどん屋風の笑い療法を企画し、フィールドワークで実演し評価考察ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL3	ガイダンス 笑い与健康 笑いとユーモア
第2回 AL3	芸術療法とは
第3回 AL3	ちんどんの歴史
第4回 AL3	ちんどんセラピーの概要と効果
第5回 AL5	ちんどんの実演ショー(ゲスト)
第6回 AL5	ちんどん体験学習
第7回 AL5	大道芸の実演ショー(ゲスト)
第8回 AL5	大道芸体験学習
第9回 AL3	ちんどんセラピー(音楽・大道芸・踊り)のプログラム企画
第10回 AL5	ちんどんセラピー(音楽・大道芸・踊り)のリハーサル1
第11回 AL5	ちんどんセラピー(音楽・大道芸・踊り)のリハーサル2
第12回 AL5	フィールドワーク1
第13回 AL5	フィールドワーク2
第14回 AL5	フィールドワーク3
第15回 AL2	フィールドワークの評価と考察

成績評価方法	成果物 60% 定期試験(レポート) 40%					
教科書	特になし					
参考文献	『芸術療法』飯森眞喜雄(日本評論社)、『笑いのこころユーモアのセンス』織田正吉(岩波書店)、『笑いの治癒力』志水彰(創元社)、『冗談の通じる人、通じない人―実践・笑いの講座』角辻豊(法研)、『爆笑コント入門 ウケる笑いの作り方、ぜんぶ教えます』元祖爆笑王(リットーミュージック)、『パッチ・アダムスと夢の病院―患者のための真実の医療を探し求めて』パッチ・アダムス(主婦の友社)、『最強のコミュニケーション ツッコミ術』村瀬健(祥伝社)、『笑いとうもろの心理学 何が可笑しいの?』雨宮俊彦(ミネルヴァ書房)					
事前学習(内容・時間)	大道芸、楽器演奏、踊りの練習(45分)					
事後学習(内容・時間)	大道芸、楽器演奏、踊りの練習(45分)					
フィードバックの方法	出席カードにコメントを書いて返却します。					
備考	笑い、音楽、大道芸、踊りなどに興味・関心があること フィールドワークを欠席した者は受験資格を失うので、必ず出席すること。(日程は変更の可能性あり)			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ-④ (セラピーメイク)	西尾ゆうこ	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32204

科目の概要

今、看護現場でもメイクアップの力が求められています。身だしなみを整える化粧行動は、外観を整えることで前向きになり明るく行動的になるなど、心理面にもよい効果があること「化粧療法」が様々な研究で明らかになってきています。その化粧療法に必要な知識と技術、カウンセリングやアドバイスなどのメイクを通したコミュニケーションについて教授します。

到達目標

- 看護師としての身だしなみでもある「セルフメイク」の知識と技術が習得できる。
- 人に寄り添う医療のための「セラピーメイク」の知識と技術が習得できる。
- 看取りの際におこなう「エンゼルメイク」の知識と技術が習得できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション メイクと心の関わりについて セラピーメイクの必要性について
第2回	スキンケア基礎 皮膚理論・クレンジングと洗顔
第3回	スキンケア基礎 肌質の特徴と保湿スキンケア
第4回	メイクアップ基礎 ファンデーションの種類と塗り方
第5回	メイクアップ基礎 チークの塗り方
第6回	メイクアップ基礎 眉の形作りと描き方
第7回	メイクアップ基礎 アイメイク化粧品の種類と塗り方
第8回	メイクアップ基礎 リップ化粧品の種類と塗り方
第9回	メイクアップ応用 顔分析メイク 顔型別のチークとハイライトの塗り方
第10回	メイクアップ応用 似合う色の選び方と化粧品の色分け法
第11回	メイクアップ応用 エイジレスメイク あらゆる世代が若々しく見えるメイク法
第12回	メイクアップ応用 敏感肌用メイク アトピー性皮膚炎や敏感肌のメイク
第13回	メイクアップ応用 カバーメイク ニキビ跡やアザ、傷跡のメイク
第14回	メイクアップ応用 エンゼルメイク
第15回	1回目から8回目までのメイクアップ基礎のまとめと小テスト

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 定期試験(実技) 50%					
教科書	『JPMパーソナルメイク認定講座2級テキスト』(一般社団法人 日本パーソナルメイク協会)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	講義時に使用するテキストを事前に読んでおくこと (30分)。					
事後学習(内容・時間)	講義内で行ったメイク実習を復習すること (30分)。					
フィードバックの方法	小テストは授業内で解説を行います。					
備考	メイクアップの知識と技術をいかすために、自宅での復習と練習が大切です。			オフィスアワー		出講日の授業の前後
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ－⑤ (陶芸療法)	上田 順平	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32205

科目の概要

芸術療法への理解を目的に実践的な陶芸制作を指導し、芸術に触れる機会を設けます。そして、医療にとって身体の健康と等しく重要である心の健康を体感させて、その重要性を伝えます。また、他者と協力して作業を行う事で協調性を育み、今後の実習等に活かせる実践力を育てます。

到達目標

- 焼き物の成り立ち、基本的な陶芸制作の方法を説明することができる。
- 医療にとって身体の健康と等しく重要である心の健康を体感し、他者にその重要性を指摘できる。
- 基礎的な焼き物作りの方法を身につけることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL5	手びねり技法を学び、カップやお茶碗、立体作品等の制作
第2回 AL5	カップやお茶碗、立体作品等の成形
第3回 AL5	乾燥後のカップやお茶碗、立体作品等の削り作業
第4回 AL5	乾燥後のカップやお茶碗、立体作品等に粘土を使つての加飾
第5回 AL5	粘土の塊から立体作品、土鈴、貯金箱等の制作
第6回 AL5	内部をくり抜き繋ぎ合わせる
第7回 AL5	粘土の板を乾かして組み合わせ、四角を基本とした小物入れや立体作品を制作
第8回 AL5	生乾きの粘土板の組み立て
第9回 AL5	乾燥した作品の仕上げ作業
第10回 AL3	素焼きの窯詰めをして、釉薬の種類を学ぶ
第11回 AL3	素焼きした作品の窯だし作業
第12回 AL5	絵付けと釉薬作業
第13回 AL3	本焼きの窯詰め
第14回 AL3	本焼きの窯焚き
第15回 AL4	自身の作品について各自プレゼンテーション、講評会(意見交換)

成績評価方法	成果物 100% (内、作品 80%、プレゼンテーション評価 20%)					
教科書	無し					
参考文献	無し					
事前学習(内容・時間)	講義までに制作する作品の構想を考えておくこと (1時間)					
事後学習(内容・時間)	講義後に当日の制作の成果を検証し、次回制作時に生かせるようにすること (1時間)					
フィードバックの方法	授業中に完成した作品は、最終授業の合評後に返却します。					
備 考				オフィスアワー	授業終了後90分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅱ (治療環境とアメニティ)	森 合音	講義	4年次 後期	必修	2	30	KSP41101

科目の概要

超高齢社会の到来により今、医療現場は大きく変化している。先の見通せない不確かさの中で私たちは何を目指し、何を成すのか。これからの看護に求められるものは？看護と芸術がどのような関係性を持ち、芸術分野が看護に与える役割を教授する。また、医療現場における様々なアート活動の事例を知り、その手法を学ぶことで実践力を身につけ、創造的な看護師育成を目指して講義する。

到達目標

- 既成概念にとらわれず、医療現場の問題を治療環境の側面から分析し、その問題点を列挙できる。
- 他者の痛みを想像し、寄り添える柔軟な感性を持ち、作品に表せる。
- 創造性を身につけ、想いを表現し、改善への道筋をたて、作品を制作し、解説できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	看護と芸術 心の「痛み」と芸術表現
第2回	医療環境(建築)と看護 「ナイチンゲールの覚え書き」 より
第3回 AL4	自己を表現する・他者の表現に触れる 1
第4回 AL4	自己を表現する・他者の表現に触れる 2
第5回	「ホスピタルアート」とは 理念・目指すもの
第6回	「ホスピタルアート」の背景を知る イギリスと日本の現在
第7回	病院に於けるアートの役割 ①理念の顕在化(事例紹介)
第8回 AL3	病院の想いを伝えるアート(伝える) ワークショップ1 (森,作家 井上由季子)グループワーク
第9回 AL3	病院の想いを伝えるアート(伝える) ワークショップ2 (森,作家 井上由季子)グループワーク
第10回	病院に於けるアートの役割 ②業務改善(事例紹介)
第11回 AL3	チーム医療を推進する環境づくり(問いを持つ) ワークショップ1 (森,作家 井上由季子)グループワーク
第12回 AL3	チーム医療を推進する環境づくり(問いを持つ) ワークショップ2 (森,作家 井上由季子)グループワーク
第13回	病院に於けるアートの役割 ③社会包摂(事例紹介)
第14回 AL4	医療者と患者をつなぐコミュニケーション(尊重する) ワークショップ1 (森,作家 井上由季子)
第15回 AL4	医療者と患者をつなぐコミュニケーション(尊重する) ワークショップ2 (森,作家 井上由季子)

成績評価方法	成果物100% (レポート課題 50% 作品 50%)					
教科書	特になし					
参考文献	特になし					
事前学習(内容・時間)	医療環境における様々なアート活動をリサーチ、分析する(2時間)。					
事後学習(内容・時間)	実際に授業を受けた内容から、看護にいかせる部分をまとめる(2時間)。					
フィードバックの方法	作品には一人一人コメントし返却します。レポートは以降の授業で講評します。					
備 考	希望者には個別に対応します。			オフィスアワー	授業後30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護教育学	澤田 京子	講義	4年次 後期	選択	1	15	KSP42101

科目の概要

看護教育学の目的を明らかにし、その目的を達成するための看護教育制度と歴史の変遷について講義をする。さらに、看護教育を具体化するための教育課程について説明し、看護教育への関心が深まる講義をする。学習指導案を通して、効果的な授業展開に必要な学習者観、教育観、教材観について説明する。

到達目標

- 看護教育の理念・目的について述べるができる。
- 日本の看護教育制度、看護教育の現状と課題について述べるができる。
- 看護教育における教育課程についてその概要を述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	看護教育学とは
第2回	我が国における看護教育の歴史の変遷、看護教育制度と看護教育関連法規
第3回 AL3	諸外国の看護教育制度の現状と課題
第4回	看護教育課程 カリキュラムの概念
第5回	教育方法、授業設計 看護教育評価
第6回 AL3	学習指導案の作成について
第7回 AL3	学習指導案に基づいた実際の授業参加とまとめ
第8回 AL3	看護卒後教育と看護学教育の今日的課題と展望

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	毎回資料を配布します。					
参考文献	『看護教育学』杉森みど里（医学書院）、『看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う』グレッグ美鈴、池西悦子（南江堂）					
事前学習（内容・時間）	資料を授業計画に沿って読んでおくこと（1時間）。					
事後学習（内容・時間）	授業内容を復習すること（1時間）。					
フィードバックの方法	レポートは、授業内にコメントを入れて返却します。					
備 考	現在の看護教育、就職後の継続教育、将来の看護教育について興味をもって一緒に考えましょう。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護マネジメント学Ⅰ (リスクマネジメント)	片山 康予 荒瀧 久美 小山紀久美	講義	3年次 前期	必修	1	30	KSP31102

科目の概要

医療は患者中心に提供されるものであり、安全性が100%保障されなければならない。しかし、医療・看護が人間によって行われる限りエラーをゼロにすることは非常に困難なことである。近年の医療は専門化・細分化・高度化・複雑化しており、プロフェッショナルとしての倫理観や責任感を備えていても、個々人の注意だけでは医療事故を防ぐには限界があり、徹底したチーム医療と施設としての医療事故予防システムの構築が重要である。医療を安全に提供する為の体制や対処システムについて、また、安全に臨地実習に取り組むための注意点などについて講義する。

到達目標

- 医療安全とリスクマネジメントの概念を述べることができる。
- 看護における安全対策、看護業務上の危険と防止対策について述べるができる。
- 臨地実習時におけるリスクと安全について理解し、自らの防止対策について説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	医療安全と看護の責務
第2回	医療安全施策と医療の質の評価
第3回 AL3	事故発生のメカニズムと防止対策;事故発生のメカニズム、事故分析について
第4回	医療機関における安全対策;病院としての安全対策の取り組みについて
第5回 AL3	医療機関における安全対策;事故の原因の分析と対策の検討⇔グループワーク
第6回 AL3	医療機関における安全対策;患者・家族と協働による取り組み⇔グループワーク
第7回	医療機関における安全対策;医療安全文化の醸成について
第8回	在宅看護における安全対策;在宅看護の現状と提供の場を通して起こりうる事故発生
第9回	看護における安全対策;看護業務と事故の種類と安全対策について①
第10回	看護における安全対策;看護業務と事故の種類と安全対策について②
第11回	医療事故後の対応
第12回	看護業務上の危険と防止策;感染の危険を伴う病原体への暴露、電離放射線・抗がん剤の被曝
第13回 AL2	看護業務上の危険と防止策;スタンダードプリコーション⇔感染管理認定看護師と演習
第14回 AL3	看護学生の実習と安全;習得すべき看護技術のリスクと安全
第15回 AL3	看護学生の実習と安全;実習における安全について⇔グループワーク まとめ

成績評価方法	定期試験(筆記) 100%					
教科書	『ナースング・グラフィカ 看護の統合と実践(2) 医療安全』 松下由美子他編 (メディカ出版)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	教科書を授業計画に沿って読んでおくこと (1時間)。					
事後学習(内容・時間)	授業内容を復習すること (1時間)。					
フィードバックの方法	レポートは授業中にコメントを入れて返却します。					
備 考	日頃から、自分の生活の周囲の安全に関心を持ちましょう。			オフィスアワー	授業終了後30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニ ケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護マネジメント学Ⅱ (看護管理)	松本 洋美 白井 智子 澤田 京子	講義	4年次 後期	選択	2	30	KSP42103

科目の概要

管理論の発展過程、主要概念、組織論等の「管理」についての基本概念を教授する。組織の中で顧客中心思考の看護管理を行うための考え方と実際、組織の活性化と人材育成、管理者の役割と責任等を論議することにより、看護管理の基礎的能力を養うことを促す。看護行為は医療行為と連携して行われるものであり、医療におけるサービスの本質を踏まえ、顧客満足の視点とそのマネジメントの関係を理解できるように教授する。さらに、災害時の危機管理マネジメント、看護マネジメントについて教授する。

到達目標

- 医療・看護ケアにおける看護師としての調整能力やリーダーシップ及びマネジメントに関する知識を説明することができる。
- 臨床現場での看護管理の実際を理解し、看護管理を行うための考え方を述べることができる。
- 広域災害看護の実際を体験し、トリアージの方法と看護師の役割を説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画		
第1回	看護とマネジメント:看護管理学とは、マネジメントとは、看護におけるマネジメントとは		
第2回	看護ケアのマネジメント:看護ケアのマネジメントと看護職の機能、患者の権利の尊重、安全管理、チーム医療		
第3・4回	看護サービスのマネジメント:看護サービスのマネジメント、組織目的達成のマネジメント、看護サービス提供の仕組みづくり、施設設備環境のマネジメント、物品のマネジメント、情報のマネジメント、組織におけるリスクマネジメント、サービスの評価		
第5回	看護を取り巻く諸制度:看護の定義、看護職、看護実践の領域と場、医療制度		
第6回	AL 2	マネジメントに必要な知識と技術:組織とマネジメント、リーダーシップとマネジメント、組織の調整、組織と個人(演習)	
第7回	AL 2	看護管理の実際1:看護と経営、看護の質の保証と看護管理、看護実践の評価と改善	
第8回	AL 2	看護管理の実際2:施設、災害時とまとめ(演習)、看護管理に関する国家試験対策	
第9回		災害看護の概念	
第10回	AL 3	災害看護の実際	
第11回	AL 5	広域災害看護 学外体験授業(病院)ートリアージの実際見学	院内各部署・地域との連携見学 患者体験ー①
第12回	AL 5	広域災害看護 学外体験授業(病院)ートリアージの実際見学	院内各部署・地域との連携見学 患者体験ー②
第13回	AL 5	広域災害看護 学外体験授業(病院)ートリアージの実際見学	院内各部署・地域との連携見学 患者体験ー③
第14回	AL 3	学外体験授業のまとめ	
第15回	AL 3	看護管理全体のまとめ	

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 成果物 50%					
教科書	『系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1]看護管理』上泉和子(医学書院)					
参考文献	適宜紹介する					
事前学習(内容・時間)	該当部分のテキストを読んでおく(30分)。					
事後学習(内容・時間)	授業内容を整理する(30分)。					
フィードバックの方法	課題は授業内で解説します。					
備 考	広域災害時の体験授業には、必ず参加してください。			オフィスアワー	出講日の授業の前後	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域リハビリテーション論	三好 弘之	講義	3年次 前期	選択	2	30	KSP32101

科目の概要

わが国では、2025年問題（後期高齢者の増加）に向けて、地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいる。「地域包括システム」とは何か、地域における医療・介護・福祉・教育・司法等の多職種連携のあり方について講義する。さらに高齢者や子ども、障害者にとって地域生活に重要な介護保険や障害福祉サービス等の社会資源・制度・問題点を教授する。より具体的に高齢者や子ども、障害者への支援体制のあり方や問題点を把握するために様々な現場の医療や福祉従事者の生の声を聴き、今後、地域で期待されている看護職の役割を理解できるよう講義する。

到達目標

- 地域リハビリテーションの基本概念について歴史、思想、実践を踏まえて説明できる。
- 高齢者や障害者が地域で生活するための支援システムについて理解し、各専門職種との連携の場、連携方法を説明できる。
- 看護職に求められる理念と知識、地域におけるチーム医療の重要性を述べられる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	講師自己紹介、地域とは何か、地域での支え合いについて考える
第2回 AL 3	地域リハビリテーションに対する基本的な考え方 グループワーク「地域での支え合いについて・住民履歴を作成しよう」
第3回	地域リハビリテーション活動の歴史
第4回	地域リハビリテーションの主要な概念（ノーマライゼーション、ICF、ストレングス、エンパワメント、リカバリーなど）
第5回 AL 3	介護保険と地域リハビリテーション（高齢者）グループワーク「高齢者の生活をイメージしてみよう」
第6回	地域リハビリテーションの実際 自助グループについて当事者たちの体験談に耳を傾ける
第7回 AL 3	具体的事例によるグループワーク（高齢者）
第8回	地域包括ケアシステムにおける在宅生活に対する支援と家族への支援について
第9回 AL 3	具体的事例によるグループワーク（身体障害者・知的障害者など）「障害者の生活をイメージしてみよう」
第10回	地域リハビリテーションの実際 地域で活躍している医療・福祉従事者（社会福祉士など）たちの体験談に耳を傾ける
第11回 AL 3	具体的事例によるグループワーク（精神障害者）「精神障害者の生活をイメージしてみよう」
第12回	連携とネットワークづくり、地域包括ケアシステムについて
第13回	地域リハビリテーションの実際 家族会活動など当事者の家族たちの体験談に耳を傾ける
第14回 AL 3	地域包括ケアシステムにおける在宅生活に対する支援と家族支援 グループワーク「私ができること・私たちができること」
第15回	地域リハビリテーションの今後の課題と総括

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物 30%					
教科書	無し（授業の開始前に資料を配布します）					
参考文献	『ナーシング・グラフィカ 成人看護学（5）リハビリテーション看護』奥宮暁子等編（メディカ出版）、『地域包括ケアと地域医療連携』二木立著（勁草書房）、『障害学のリハビリテーション』川越敏司編（生活書院）、『ナーシング・グラフィカ 在宅看護論（2）在宅療養を支える技術』臺有桂等編（メディカ出版）					
事前学習（内容・時間）	前講義の配布資料を確認しておくこと（30分）。					
事後学習（内容・時間）	授業の終了時に次回の課題を伝えます（20分）。					
フィードバックの方法	授業終了後、課題について作成し提出していただいた小レポートについては、次回の授業で要点を伝えます。					
備 考					オフィスアワー	授業終了後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
移植コーディネーション論	高原 史郎	講義	4年次 後期	選択	2	30	KSP42104

科目の概要

臓器移植の実施には多くの職種が関わり、提供者・受者および家族への精神的ケアや、救急医療・終末期医療に関わる医学的・社会的な多種多様な要因が相互に影響している。提供現場では、家族が親しい人の死を受け止めるための精神的援助やグリーフ・ケアなど、医学的な対応だけでなく精神的な対応も求められる。この科目では様々な医学分野の学習を通じて、急性期医療、終末期医療、臓器移植という先進医療を総合的に理解できることを目指した講義をする。

到達目標

- 様々な医学分野の学習を通じて、急性期医療、終末期医療、臓器移植という先進医療の知識を身に付け、述べるができる。
- 臓器移植及び終末期医療に対する自分なりの見解を持ち現場の対応に関する技術について把握し、述べるができる。
- 救急医療の診断・治療についての基本的な考え方を論ずることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	臓器移植Ⅰ
第2回	臓器移植Ⅱ
第3回	我が国の脳死移植の現状
第4回	プロキュアメント・コーディネーション
第5回	レシピエント・コーディネーターの役割
第6回	移植者の立場から
第7回	院内コーディネーターの役割
第8回 AL 6	論述試験と解説
第9回	救急医学Ⅰ
第10回	救急医学Ⅱ
第11回	臓器移植Ⅲ
第12回	臓器移植Ⅳ
第13回	わが国の臓器移植の現状-日本臓器移植ネットワークとコーディネーターの役割-
第14回	臨床心理士の役割
第15回 AL 2	ラウンドテーブルディスカッション

成績評価方法	定期試験(レポート) 50% 小テスト 30% 成果物 20%					
教科書	『臓器移植とそのコーディネーション 基礎から応用まで』監修：寺岡 慧、編集：高原史郎、福嶋敬偉、横田裕行、芦刈淳太郎、小中節子（日本医学館）					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	教科書の予習（1時間）					
事後学習(内容・時間)	教科書及びレジメの復習（1時間）					
フィードバックの方法	レポートは採点后、点数表を配布します。小テストはテスト後に授業内で解説します。					
備 考					オフィスアワー	授業日の講義前10分～ 講義終了30分後まで
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニ ケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護研究の方法	日高・上山 合田・美王	講義・演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31204

科目の概要

看護研究の必要性とその意義および看護の研究方法について教授する。実際に看護に関連する疑問・問題の中から研究課題を抽出し、論理的・科学的思考に基づいた研究方法について教示すると共に、その理解を深めることを目指す。

到達目標

- 看護研究の意義と研究方法（文献研究・実験研究・量的研究・質的研究）を理解し、説明できる。
- 看護の現場からのクリニカルクエスチョンを言語化することができる。
- 仮説を導き出し、仮説に基づき、変数化すると共に質問紙を設計できる。質問紙に基づいた変数測定の方法の概要を述べることができる。
- 適切な研究デザインを選択できる。
- 適切な論文クリティークができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	イントロダクション、看護研究とは何か 論文のスタイル、研究の種類とその違い
第2回	研究の実施手順、研究計画書とは何か
第3回	質的研究1
第4回	質的研究2
第5回	量的研究1
第6回	量的研究2
第7回	質問紙設計1
第8回 AL6	質問紙設計2
第9回	質的研究のクリティーク
第10回	量的研究のクリティーク
第11回	研究倫理とは何か
第12回 AL6	演習
第13回 AL6	演習
第14回 AL6	演習
第15回	まとめ

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	適宜紹介します。					
参考文献	『よくわかる看護研究の進め方・まとめ方ー量的研究のエキスパートをめざして』横山美江 編著（医歯薬出版） 『よくわかる質的研究の進め方・まとめ方ー看護研究のエキスパートをめざして』グレッグ美鈴他編著（医歯薬出版）					
事前学習（内容・時間）	第1回および各講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習をすること（30分）					
事後学習（内容・時間）	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること（30分）					
フィードバックの方法	課題提出後に、全体で講評します。					
備 考	講義中の私語・スマートフォンの使用等は厳禁とします。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護の探究 (看護の統合)	看護学部 専任教員	講義・演習	4年次 後期	必修	2	60	KSP41201

科目の概要

これまでの看護学における講義・演習・臨地実習の中で得られた知識と技術、体験をもとに、4年間の学習を振り返り、広い視野を持ちながら、自己の看護における関心や課題を探究し、4年間学んできた看護の知識を統合し、深め、対象に応じた活用ができるように教授する。併せて、学生個々の興味と関心に基づくテーマの討議とプレゼンテーションを中心としたゼミナール形式で授業を行い、看護を学問として追究し、看護の将来像が構想できるように導く。

到達目標

- 看護に関する問題意識を研究課題として提示できる。
- クリティックした結果をゼミナールで討議することができる。
- 研究目的を達成するために実現可能な研究計画書を作成できる。
- 看護研究活動が続けていく上での基本的態度を身につけている。
- 看護の知識を統合し深め、対象に応じた活用ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション 時間割に示された「看護の探究」の時間に演習を行う。(担当教員との調整が必要な時もある) *詳細は、「看護の探究(看護の統合)」の手引きによる。
第2回 AL 2	論文の購読 論文のクリティック 研究計画書の作成
第15回	
第16回	基礎看護学の知識の統合
第17回	基礎看護学の知識の統合
第18回	成人看護学の知識の統合
第19回	成人看護学の知識の統合
第20回	老年看護学の知識の統合
第21回	老年看護学の知識の統合
第22回	母性看護学の知識の統合
第23回	母性看護学の知識の統合
第24回	小児看護学の知識の統合
第25回	小児看護学の知識の統合
第26回	精神看護学の知識の統合
第27回	精神看護学の知識の統合
第28回	在宅看護論の知識の統合
第29回	在宅看護論の知識の統合
第30回	まとめと評価

成績評価方法	成果物 50% 小テスト (各看護学分野) 50%					
教科書	教科書は特に指定しない					
参考文献	『系統看護学講座 別巻 看護研究』坂下玲子他 (医学書院)					
事前学習 (内容・時間)	関連文献を、積極的に精読し、研究論文としての内容の理解に努める (30時間)。 国家試験問題の予習 (15時間)					
事後学習 (内容・時間)	関連文献を、積極的に精読し、自己の研究計画に活用するよう努める (30時間)。 国家試験問題の復習 (15時間)					
フィードバックの方法	研究計画書はその都度指導をする。各看護学の知識についてはその都度質問に応じる。					
備考	研究計画書は、計画的に担当教員に提出し、指導を受ける。主体的に取り組みましょう。知識の統合は真剣に取り組むこと、単位を落とすと卒業できません。			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
海外看護活動論	杉野 美礼	講義	4年次 後期	選択	2	30	KSP42102

科目の概要

世界人口の約80%を占める途上国の人々の健康、地球規模で発生している健康問題／課題（グローバルヘルス）について、その要因となる社会構造および、それに対処する諸機関と戦略について教授する。そして、一人の人間として、また看護職として、どのようにそこに貢献するかを、自国の状況も含めて考えることを促す。

到達目標

- グローバルヘルスの概念とそれを支える看護について説明できる。
- 海外看護活動の基礎能力となる文化的な感受性を身につけ、異文化理解を看護に統合して説明できる。
- 学習を通じて、自らのキャリア目標と目標達成にむけての具体策をたてることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	コースオリエンテーション、海外看護活動論／グローバルヘルスを学ぶ意義
第2回	世界の健康課題とその背景、国際保健に関する国際機関、統計指標
第3回 AL 3	演習：健康課題を考える グループワーク
第4回	異文化理解の基礎知識と看護
第5回	途上国の健康問題と国際保健活動
第6回	テスト①／テストレビュー、世界の健康格差
第7回	PHC（プライマリヘルスケア）ミニテスト／テストレビュー、途上国の保健医療の基本
第8回	国際保健と国際開発目標、母子保健
第9回 AL 5	JICA関西 訪問研修
第10回 AL 5	JICA関西 訪問研修
第11回	在日外国人の健康課題
第12回	国際看護の役割、国際看護のキャリア
第13回	ミニテスト／テストレビュー
第14回	演習：国際保健活動を考える 途上国支援の新たなアプローチ
第15回	演習発表テスト・全体のまとめ

成績評価方法	複数回の小テスト50% 成果物50%（ワークシート、演習発表内容等）					
教科書	『改訂版 国際看護学 看護の統合と実践』柳澤理子（ピラールプレス）					
参考文献	新聞各社の国際ニュース欄（インターネット可）、適宜指示します					
事前学習（内容・時間）	テレビやインターネットのニュース・新聞で、最新の国際情勢やグローバルヘルス情報を学ぶ（30分）。					
事後学習（内容・時間）	教科書や資料に目を通す。国際保健／看護・グローバルヘルス関連の講演や研修会に参加する（30分）。					
フィードバックの方法	試験解答解説および授業ワークシートに対する応答を授業内に行います。					
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の購入は必須です。 ・再試はありません。 ・JICA関西訪問研修は、土曜日実施の可能性もあります（詳細は授業内で説明）。 ・JICA関西訪問研修は、現地集合・交通費は自己負担です（詳細は授業内で説明）。 			オフィスアワー	講義日の休憩時間および講義後30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学実習 I (対象理解)	峯岸・平野 瀬山・澤田	実習	1年次 前期	必修	1	45	KSP11401

科目の概要

看護場面の見学と対象者とのコミュニケーションを通して、看護の機能や役割について知ることをねらいとする。また、実習にあたっては、主体的に取り組めるように指導し、看護への興味や関心を高めように導く。さらに看護職者として必要な倫理的な態度を身につけられるように指導する。

到達目標

- 対象者の思いやニーズを説明することができる。
- 看護の機能や役割を説明することができる。
- 主体的に学習し、看護への興味・関心をレポートで述べるすることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間:下記のいずれかで行う。 基礎看護学実習 I (1週間) 1年次 2019年8月26日(月)～ 2019年8月30日(金)、9月9日(月) 2019年9月 2日(月)～ 2019年9月 6日(金)、9月9日(月)</p> <p>○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設は法人名を省略) 関西電力病院、協立病院、多根総合病院、多根脳神経リハビリテーション病院、星ヶ丘医療センター</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2019年度 基礎看護学実習 I 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2019年度 基礎看護学実習 I 実習要項」に記載する。					
教科書	実習開始時に提示する。					
参考文献	実習開始時に提示する。					
事前学習(内容・時間)	基礎看護学 I (概論) で学んだ「看護の本質」と「看護の役割・機能」と基礎看護学 II (コミュニケーション技術) について復習しておくこと (8時間)。					
事後学習(内容・時間)	実習で学んだことをまとめ、自己の課題を明確にし、今後の学習に役立てる (2日間)。					
フィードバックの方法	実習記録は、毎日見て指導する。最終レポートは面談で学んだことや今後の課題を確認し、指導する。					
備 考	入学して初めて患者さんに接する実習です。この実習において何よりも大事なものは、患者さんがどのような思いをもっていらっしゃるのかを理解しようとする態度です。前期の基礎看護学の授業では、そのために必要なコミュニケーション能力を養い、また知識と技術を学びます。学内授業での学びが実習に直結しますので、毎日の授業にしっかり取り組んでください。				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学実習Ⅱ (看護過程)	澤田・峯岸 平野・瀬山	実習	2年次 後期	必修	2	90	KSP21401

科目の概要

対象者を受け持ち、コミュニケーションやフィジカルアセスメントを通して、また診療記録等から情報収集して一人の人間全体として理解できるように指導する。また看護上の問題を明らかにしその問題解決の思考プロセスを展開できるよう指導する。

到達目標

- 情報収集から解釈・分析までのアセスメントができる。
- 看護上の問題の明確化および看護計画立案ができる。
- 看護計画の実施・評価ができる。
- 受け持つ対象者との関わりを振り返り、自己の課題を明らかにすることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間:下記のいずれかで行う。</p> <p>基礎看護学実習Ⅱ(2週間)</p> <p>2年次 前半グループ 2020年2月17日(月)～2月27日(木)</p> <p>後半グループ 2020年2月28日(月)～3月10日(火)</p> <p>○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略)</p> <p>関西電力病院、協立病院、多根総合病院、星ヶ丘医療センター</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2019年度 基礎看護学実習Ⅱ 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2019年度 基礎看護学実習Ⅱ 実習要項」に記載する。					
教科書	実習開始時に提示する。					
参考文献	実習開始時に提示する。					
事前学習(内容・時間)	基礎看護学Ⅵ(看護過程)で学んだ内容や事例を復習しておくこと。また、人体構造機能論Ⅰ・Ⅱや病態治療学Ⅰ、薬理学、基礎看護学Ⅳ-1、基礎看護学Ⅳ-2、基礎看護学Ⅴ(フィジカルアセスメント)で学んだ知識や技術を習得しておくこと(40時間)。					
事後学習(内容・時間)	今後の学習への動機づけとなるように自己の課題を明確にする(8時間)。					
フィードバックの方法	実習記録は、毎日指導する。全体関連図は、実習中のカンファレンスでディスカッションし修正をする。最終レポートは面談で学んだことや今後の課題を確認し、指導する。					
備考	この実習で看護過程の展開(問題解決のプロセス)をしっかり学んでください。3年後期からの各看護学の実習で活用していきます。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学実習 I (急性期・回復期)	中川ひろみ	実習	3年次後期 4年次前期	必修	3	135	KSP31401

科目の概要

急性または救急疾患あるいは手術を受ける成人期の患者に対し、治療による心身への侵襲に伴う変化と回復過程をふまえ、急性期から回復期における全人的な看護援助（回復促進のための看護、患者およびその家族の社会生活への復帰に向けた看護）が展開できるよう指導する。

到達目標

- 患者や家族を総合的に理解し、急性または救急疾患の患者あるいは手術を受ける患者が心身を整えるための援助を実施できる。
- 急性または救急疾患や手術等の侵襲に対する生体反応を踏まえ、回復促進に向けた援助を科学的根拠のもとで実施できる。
- 身体機能やボディイメージの変化を踏まえ、患者およびその家族が社会生活へ復帰するための援助を実施できる。
- 急性期から回復期における看護の役割や継続について説明できる。
- 看護実践を振り返り、自己の看護観について述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間:下記のいずれかで行う。 成人看護学実習 I (3週間) 3年次 後期 4年次 前期</p> <p>○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 尼崎総合医療センター、医誠会病院、大阪暁明館病院、関西電力病院、北野病院</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2019年度後期～2020年度前期 成人看護学実習 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2019年度後期～2020年度前期 成人看護学実習 I 実習要項」に記載する。					
教科書	実習開始時に提示する。					
参考文献	実習開始時に提示する。					
事前学習(内容・時間)	成人看護学実習オリエンテーションで提示する事前学習内容をしっかり学習すること(1～3時間)。					
事後学習(内容・時間)	実習で受け持った患者の病態や実習中に理解できなかったことを振り返り学習すること(1～3時間)。					
フィードバックの方法	実習記録にコメントを入れて返却します。					
備考	急性期は患者の展開が早いので積極的な姿勢で実習に臨むこと。基礎看護学実習で学習したことを復習しておくこと。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学実習Ⅱ (慢性期・終末期)	中川ひろみ	実習	3年次後期 4年次前期	必修	3	135	KSP31402

科目の概要

生活習慣病をベースとする慢性疾患患者は、療養を継続しながら生活を維持していくため“自己コントロール”を行う必要がある。生涯にわたり生活調整を必要とする成人期にある患者およびその家族に対して、セルフケア能力を高める援助およびQOLの維持・向上を目指した看護を実践できるように指導する。

到達目標

- 慢性的な健康障害の状態に応じた看護が実践できる。
- 患者および家族がライフスタイルを再構成するための援助ができる。
- 患者の療養生活継続への援助を説明できる。
- 看護実践を通して、慢性期看護について述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間:下記のいずれかで行う。 成人看護学実習Ⅱ(3週間) 3年次 後期 4年次 前期</p> <p>○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 尼崎総合医療センター、医誠会病院、大阪暁明館病院、関西電力病院、北野病院</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2019年度後期～2020年度前期 成人看護学実習Ⅱ実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2019年度後期～2020年度前期 成人看護学実習Ⅱ 実習要項」に記載する。					
教科書	実習開始時に提示する。					
参考文献	実習開始時に提示する。					
事前学習(内容・時間)	成人看護学Ⅲ・Ⅳの講義および演習内容を復習し、翌日の看護に関する学習を行うこと(2時間)。					
事後学習(内容・時間)	毎日、実習を振り返り実施した看護の評価を行うこと(1時間)。					
フィードバックの方法	記録用紙にコメントして、返却する。					
備考	積極的に取り組み、看護とは何かを考えながら実習していきましょう。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学実習	山本 裕子 梅川 奈々	実習	3年次後期 4年次前期	必修	4	180	KSP31403

科目の概要

元気高齢者や健康障害を持ちながらも地域で暮らす高齢者とコミュニケーションや触れ合いを通して、日常生活の有り様や家族や社会とのつながりなどを知ることにより高齢者の多様性について理解するとともに、様々な療養場所での生活援助を通して高齢者を総合的にアセスメントし健康障害のレベルに応じた個別性のある看護過程の展開ができるように指導する。

到達目標

- 元気高齢者が地域でどのような生活や活動をしているのかを説明することができる。
- 高齢者への看護援助を通して、高齢者の多様性を理解し自立・自律を尊重した個別性のある看護過程の展開を実践することができる。
- 家族を含む他職種の役割を理解し、看護職に期待される役割と連携の仕方を説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間：下記のいずれかで行う。 老年看護学実習（4週間） 3年次 後期 4年次 前期</p> <p>○実習施設：下記の1と2のいずれかを組み合わせて行う。（実習施設の法人名は省略） 1. フィールド実習：大阪市内高齢者施設、ATCエイジレスセンター 2. 施設実習：介護老人保健施設 錦秀苑、阪和病院</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2019年度後期～2020年度前期 老年看護学実習 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2019年度後期～2020年度前期 老年看護学実習 実習要項」に記載する。					
教科書	実習開始時に提示する。					
参考文献	実習開始時に提示する。					
事前学習（内容・時間）	実習前に事前課題を出します（5時間）。					
事後学習（内容・時間）	実習を振り返り自己の課題を見つけ取り組んでください（自己判断）。					
フィードバックの方法	記録物にコメントを入れるとともに、その都度口頭にて指導を行います。					
備 考	老年看護学Ⅰ～Ⅳの講義と配布した資料の復習を行ってください。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学実習	合田 友美 西田 千夏	実習	3年次後期 4年次前期	必修	2	90	KSP31404

科目の概要

臨地実習を通して、子どもの成長発達や日常生活を認識するとともに、対象を身体的、心理的、社会的側面と成長発達からアセスメントし、総合的に捉える援助について教授する。また、さまざまな発達段階、健康レベル、生活環境にある小児とその家族を理解し、小児とその家族の健康の保持、増進、回復に向けた看護援助の一部を安全に実践できるよう指導する。

到達目標

- 小児の健康上の問題と療養環境について、発達特性を踏まえて説明できる。
- 健康上の問題が小児と家族の生活に与える影響を述べるができる。
- 小児と家族の看護上の問題を問題解決のプロセスにより解決できる。
- 小児の発達段階と健康上の問題に応じて、安全に看護援助を実施することができる。
- 家庭療養中にある小児と家族の健康保持、増進、回復のための実際を理解し、述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間:下記のいずれかで行う。 小児看護学実習(2週間) 3年次 後期 4年次 前期</p> <p>○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 尼崎総合医療センター、北野病院、市立伊丹病院、市立東大阪医療センター、高槻病院</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2019年度後期～2020年度前期 小児看護学実習 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2019年度後期～2020年度前期 小児看護学実習 実習要項」に記載する。					
教科書	実習開始時に提示する。					
参考文献	実習開始時に提示する。					
事前学習(内容・時間)	実習開始前に別途課題を提示します。課題は、実習初日に提出して頂きます(20時間)。					
事後学習(内容・時間)	毎日、実践の振り返りと翌日の予習をして実習に臨んでください(1時間)。					
フィードバックの方法	毎日のカンファレンスや実習最終日の発表会で、体験や学びをグループメンバーでシェアし、疑問点についてはコメントをします。					
備 考	国家試験の過去問題を実習の前後に確認してください。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学実習	上山 直美 堀 陽子	実習	3年次後期 4年次前期	必修	2	90	KSP31405

科目の概要

病院施設や助産所等を実習施設として、周産期の母児に対する看護の実際を実習講義する。具体的には、周産期の母子と家族への看護実践活動から、妊婦、産婦、褥婦とそのパートナー、新生児および家族への支援に必要な能力を養うとともに、セルフケアの視点に基づいて看護展開が行えるように教授する。

到達目標

- 周産期の母子やそのパートナーおよび家族に対する看護過程の展開ができ、SOAP方式で看護計画を評価できる。
- ライフサイクル各期の女性の健康問題を理解し、援助法を考え、説明することができる。
- 生命誕生、親としての存在について考えを深めるとともに、ディスカッション及び記述することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間:下記のいずれかで行う。</p> <p>母性看護学実習(2週間)</p> <p>3年次 後期</p> <p>4年次 前期</p> <p>○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略)</p> <p>尼崎総合医療センター、井田助産院、大阪暁明館病院、大阪府助産師会、大阪母子医療センター、きた助産所 北野病院、小山助産所、第二協立病院、プリマ助産院、松吉助産院、八尾市立病院、ゆう助産院</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2019年度後期～2020年度前期 母性看護学実習 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2019年度後期～2020年度前期 母性看護学実習 実習要項」に記載する。					
教科書	実習開始時に提示する。					
参考文献	実習開始時に提示する。					
事前学習(内容・時間)	実習に際する事前学習(夏休み課題や既習科目の復習 1日2時間程度が望ましい)					
事後学習(内容・時間)	受け持ち対象者の看護過程の展開(1日2時間程度が望ましい)					
フィードバックの方法	夏休み実習前学習はチェックリストをつけて到達度を自他で確認できるように設定します。実習中は適時、看護過程記録の相談を受け指導を行います。					
備 考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学実習	八田 勘司 大江 真人 美王 真紀	実習	3年次後期 4年次前期	必修	2	90	KSP31406

科目の概要

精神に障害を持つ対象者との関わりを通じて、生命の尊厳、人間としての基本的な権利とその家族への理解を深める。また、精神に障害を持つために、生活や対人関係に困難を抱えていることを理解し、自らをケアの道具として最大限に生かし、人格を有する全人的存在として、個別性を尊重したヒューマンケアを実践できる基礎的能力を育む。

到達目標

- 精神に障害を持つ対象者を総合的に理解し、人間としての基本的な権利を尊重する基本的姿勢を涵養できる。
- 患者-看護師間の援助的関係を考察し、説明することができる。
- 受け持ち患者のケアプランを患者と共に立案し、実施できる。
- 精神に障害を持つ対象者および家族の地域での生活を理解し、社会資源や医療、多職種との連携について説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間:下記のいずれかで行う。 精神看護学実習(2週間) 3年次 後期 4年次 前期</p> <p>○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 1. 病院実習:八尾こころのホスピタル、さわ病院 2. 訪問看護実習:訪問看護ステーション みのり、訪問看護ステーション アットホーム高槻 訪問看護ステーション クオーレ、訪問看護ステーション ベルキャット</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2019年度後期～2020年度前期 精神看護学実習 実習要項」による</p>

成績評価方法	別途配布する「2019年度後期～2020年度前期 精神看護学実習 実習要項」に記載する。					
教科書	実習開始時に提示する。					
参考文献	実習開始時に提示する。					
事前学習(内容・時間)	実習要項に記載している事前学習(3時間)					
事後学習(内容・時間)	受け持ち患者の疾患の学習、指導を受けた内容の振り返り(1時間/日)					
フィードバックの方法	実習記録にコメントを付して返却する。実習最終日に面接を行う。					
備 考	臨地実習実習要綱の個人情報の適切な取り扱いについての注意事項、事故発生時の報告方法をよく読んでおく。			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論実習	尾ノ井美由紀 牧野 裕子	実習	3年次後期 4年次前期	必修	2	90	KSP31407

科目の概要

家族を含む在宅看護の対象者へ提供される看護の実際から、訪問看護の役割と機能を教授する。また、在宅療養を支援する保健・医療・福祉機関で展開される様々なサービスや専門職の役割が分かり、他職種との連携・協働について理解できるよう指導する。

到達目標

- 家族を含む在宅看護の対象者へ提供される看護の実際から、訪問看護の役割と機能を説明できる。
- 在宅療養を支援する保健・医療・福祉機関で展開される様々なサービスや専門職の役割が説明できる。
- 在宅療養を支える他職種との連携・協働の実際を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間:下記のいずれかで行う。 在宅看護論実習(2週間) 3年次 後期 4年次 前期</p> <p>○実習施設:下記の1～3を組み合わせ、各項目とも項目内のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護ステーション実習:伊丹市訪問看護ステーション、多根訪問看護ステーション、 阪和訪問看護ステーション 他 2. 居宅介護支援事業所実習:暁ケアプランセンター、多根総合病院居宅介護支援事業所 他 3. 特別養護老人ホーム(介護保険福祉施設):江之子島コスモス苑 他 <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2019年度後期～2020年度前期 在宅看護論実習 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2019年度後期～2020年度前期 在宅看護論実習 実習要項」に記載する。					
教科書	実習開始時に提示する。					
参考文献	実習開始時に提示する。					
事前学習(内容・時間)	臨地実習に際し、事前課題レポートを作成する(5時間)					
事後学習(内容・時間)	実習終了後、実習記録の作成と課題に基づき在宅看護論実習レポートを作成する(10時間)					
フィードバックの方法	課題については実習中随時指導を行う					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
総合実習	看護系教員	実習	4年次前期	必修	2	90	KSP41401

科目の概要

既習の知識・技術を統合して複数の対象への看護を実践するとともに、医療機関における看護管理の実際を見学し、医療チームの一員として、安全で質の高い看護サービスを提供するための実践的能力を養うための指導を行う。加えて、それらを通して看護専門職としての自己の課題を明らかにできるように指導する。

到達目標

- 複数の対象者の状態を把握し、適切な看護援助ができる。
- 看護組織における管理について述べるができる。
- 看護実践の振り返りを通して、自己の課題を述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間：下記のいずれかの期間で行う。 総合実習（2週間） 4年次 2019年7月8日（月）～8月2日（金）</p> <p>実習施設やその他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2019年度 総合実習 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2019年度 総合実習 実習要項」に記載する。					
教科書	実習開始時に提示する。					
参考文献	実習開始時に提示する。					
事前学習（内容・時間）	「看護の役割と機能」「看護の継続性と情報共有」、「看護マネジメント学Ⅰ（リスクマネジメント）」で学んだ内容を復習する。事前課題（6時間）					
事後学習（内容・時間）	総合実習での体験をふまえ、看護専門職者としての自己の課題を明らかにする（2時間）。					
フィードバックの方法	実習記録のコメントは実習中にフィードバックする。					
備考	看護学科における最終の看護学実習である。これまでに学んだ看護専門分野の内容を総括し、看護の本質を考えながら実習に臨むこと。また、次年度には自分自身が臨床の場にいることを想定し、臨床の場で看護師として具体的にどのような思考・言動をとるべきかを考えながら実習すること。			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

助産学専攻科

2019年度 授業計画 (SYLLABUS)

目 次

助産学専攻科

修了要件	150
教育課程	151
実務家教員一覧	152
授業科目 (授業要項と授業内容)、凡例.....	153
Ⅰ 基礎助産学	155
Ⅱ 助産診断・技術学	159
Ⅲ 地域母子保健論	165
Ⅳ 助産管理	167
Ⅴ 助産学実習	169
Ⅵ 助産学実践関連	173

助産学専攻科の教育方針

教育目的

人間の生命や生活の質を真に理解できる感性豊かな人間性ととともに、生命の尊厳と人権の尊重を基盤にした倫理観を備え、女性の健康問題の解決に向けたリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から助産を実践できる能力の育成をめざす。さらにアート＝技を駆使して、助産学の発展に自律的・創造的に取り組める人材を育成する。

【教育目標】

- (1) 感性豊かな人間性と、専門職者としての倫理観を養う。
- (2) リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点に立って、女性のライフステージ各期の健康問題に対応する能力を育成する。
- (3) 人の心の健康と人の心の自由を大切に思い、想像力豊かに様々なライフスタイルの女性の健康支援を担う能力と技術を養う。
- (4) 母子保健のニーズを助産師として捉え、保健・医療・福祉チームとの連携を図り、地域社会に貢献できる能力を養う。
- (5) チーム医療の一員として、自己の役割と責任を自覚し、協働できる力を養う。
- (6) アート＝技を駆使して、助産学の発展に自律的・創造的に取り組める能力と技術を養う。

アドミッションポリシー

1. 感性豊かな人間性と、生命や人権の尊重を基盤にした倫理観を育める素養のある人
2. 協調性、責任感があり、自律したパーソナリティを持つ人
3. 助産師として地域社会に貢献する意思を持った人
4. 幅広く学問を学ぼうとする向上心・探求心・創造性を持っている人

カリキュラムポリシー

助産学専攻科におけるカリキュラムは、本学の理念であるアートを駆使した特色あるカリキュラム構成である。助産学基礎領域、助産学関連領域、助産学実践領域の講義・演習は実習施設との連携により助産師の専門教育を育てている。

<助産学基礎領域>

- (1) ウイメンズヘルスの視点を重視した、女性の健康問題を捉えた学び
- (2) マタニティーヘルスのケアにおける助産実践に必要な知識と技術の学び

(3) 専門職としての責務と倫理の学び

<助産学関連領域>

- (1) 都市型の健康問題・社会問題について、地域に根ざした助産師としての取り組みができる「アーバンヘルス」の学び
- (2) 乳幼児や家族を対象とした継続ケアが展開できる「アタッチメント・ヨガ、ベビーマッサージ」の学び
- (3) アート＝技を駆使し、悲しみに向き合う家族に寄り添う援助者としての働きができる学び

<助産学実践領域>

- (1) 助産ケアや周産期ハイリスクの母子看護など、育児支援に向けて他職種と連携・協働し専門性を発揮できる学び
- (2) リプロダクティブヘルスに関わる支援者として活躍できる学び
- (3) 女性の健康を守るケアの専門職者として自立した行動と責務を遂行できる学び

ディプロマポリシー

助産学専攻科は看護基礎教育を生かし、大学の理念や教育目的を基盤とした助産の理論や実践を修得し、専門職者として以下の能力が認められること。

1. グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力
2. 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力
3. 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力

シラバスについて

シラバスは学生に単位取得のための履修科目選択の情報を提供する履修科目一覧としての役割と、履修する個々の授業科目について科目の目標、授業内容などの授業計画を示すとともに、学生の教室外における予習などについての指示を与える役割があります。

大学では、単位制をとっており、1単位は①教員が教室などで授業を行う時間、②学生が事前・事後に教室外において予習・復習を行う時間の合計で45時間の学習を要する教育内容をもって構成されています。(大学設置基準第21条)

授業方法	授業時間	教室外学習
講義・演習	15～30時間	30～15時間
実験・実習	30～45時間	15時間

科目の単位を取得するには、授業科目は、授業回数の3分の2以上出席していなければ受験資格が得られません。実習科目は5分の4以上の出席がなければ単位取得資格が得られません。

「Student Guide Book 2019」の履修方法にも目を通して受験資格、単位取得に必要な条件を確認してください。

皆さんは、自分の将来に向け、助産師になるという目標を掲げていることでしょう。目標達成に向けて、履修計画を立てる上で、シラバスを十分に活用してください。

2019年4月1日

宝塚大学
助産学専攻科

2019年度 学年暦

宝塚大学 助産学専攻科 (大阪梅田キャンパス)

		日	月	火	水	木	金	土	備 考			日	月	火	水	木	金	土	備 考
2019年4月			1	2	3	4	5	6	4/3 入学式 4/1~4 オrientation・ガイダンス期間	10月			1	2	3	4	5	10/14 平常授業実施	
	⑦	8	9	10	11	12	13	4/5 前期授業開始	⑥		7	8	9	10	11	12			
	⑭	15	16	17	18	19	20	前期履修登録 (4/4まで)	⑬		⑭	15	16	17	18	19			
	⑳	21	22	23	24	25	26	27	4/12~4/15 履修登録修正期間		㉑	21	㉒	23	24	25	26		
	㉘	㉙	㉚						㉗		28	29	30	31					
5月				①	②	③	④	5/6 平常授業実施	11月						1	2	11/4 平常授業実施		
	⑤	⑥	7	8	9	10	11			③	④	5	6	7	8	9			
	⑫	13	14	15	16	17	18			⑩	11	12	13	14	15	16			
	⑰	20	21	22	23	24	25			⑰	18	19	20	21	22	㉓	11/23 平常授業実施		
	㉖	27	28	29	30	31				㉔	25	26	27	28	29	30			
6月							1	地域母子保健実習 (12/2~12/6)	12月	①	2	3	4	5	6	7			
	②	3	4	5	6	7	8			⑧	9	10	11	12	13	14			
	⑨	10	11	12	13	14	15			⑮	16	17	18	19	20	21			
	⑯	17	18	19	20	21	22			㉒	23	24	25	26	27	(28)			
	㉓	24	25	26	27	28	29			㉙	(30)	(31)					年末年始休業 (12/28~1/5)		
	㉚																		
7月		1	2	3	4	5	6	助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ (7/8~10/18)	2020年1月				①	(2)	(3)	(4)	3/21 学位記授与式 (予定)		
	⑦	8	9	10	11	12	13			⑤	6	7	8	9	10	11			
	⑭	⑮	16	17	18	19	20			⑫	⑬	14	15	16	17	18			
	⑰	22	23	24	25	26	27			⑰	20	21	22	23	24	25			
	㉘	29	30	31						㉖	27	28	29	30	31				
8月					1	2	3	夏季休業 (8/13~16)	2月							1			
	④	5	6	7	8	9	10			②	3	4	5	6	7	8			
	⑪	⑫	(13)	(14)	(15)	(16)	17			⑨	10	⑪	12	13	14	15			
	⑱	19	20	21	22	23	24			⑯	17	18	19	20	21	22			
	㉕	26	27	28	29	30	31			㉓	㉔	25	26	27	28	29			
9月	①	2	3	4	5	6	7	助産学実習Ⅱ (9/2~11/29)	3月	①	2	3	4	5	6	7	3/21 学位記授与式 (予定)		
	⑧	9	10	11	12	13	14			⑧	9	10	11	12	13	14			
	⑮	⑯	17	18	19	20	21			⑮	16	17	18	19	㉑	21			
	㉒	㉓	24	25	26	27	28			㉒	23	24	25	26	27	28			
	㉙	30								㉙	30	31							

	日	月	火	水	木	金	土
前期	15	15	15	15	15	15	15
後期	15	15	15	15	15	15	15

- …授業日
- …定期試験
- 印 …祝日 (平常授業実施日)
- 印 …日曜・祝日 (休業日)
- () …大学施設閉館日

助産学専攻科の修了要件

本専攻科を修了するためには、1年以上在学し、下記の単位を取得しなければならない。

助産学専攻科

基礎助産学	6単位	以上
助産診断・技術学	11単位	以上
助産学実習	12単位	以上
助産学実践関連	4単位	以上
計	33単位	以上

助産学専攻科の教育課程

助産学専攻科の教育課程は基礎助産学、助産診断・技術学、地域母子保健論、助産管理学、助産学実習、助産学実践関連の6つの領域から成ります。

基礎助産学の中には、助産学を学ぶ上での基礎的能力を習得することを目的とした「助産学概論」や「周産期の生理と病態Ⅰ・Ⅱ」「母子の心理社会学」の科目があります。

助産診断・技術学は妊娠期から分娩期、産褥期、新生児期までの対象に助産過程を展開する際に必要な基礎的能力と、判断力、実践能力を習得することを目指して展開する科目です。

助産学実践関連の中には都市型の健康問題・社会問題について疫学的視点をもって学ぶ「アーバンヘルステ論」や周産期のグリーンケアと癒しについて考える「アートとグリーンケア」など本専攻科に特有の科目があります。また、助産師として提供できる技術として「ベビーマッサージ」や「アタッチメント・ヨガ」を習得できます。

科目ナンバリングについて

体系的履修の指針となるように、全ての授業科目にアルファベットと5桁の数字からなる科目ナンバーを付番しています。科目ナンバーは以下の規則によって付番されています。

科目領域	レベル	科目形式		科目番号(連番)
JSP=専門分野	1=1年次レベル	1=必修 2=選択必修	1=講義 2=講義・演習 3=演習 4=実習	01~99

アクティブラーニングの種別について

アクティブラーニングの要素を含む手法を取り入れる授業回については、以下のアクティブラーニングの種別を数字で授業計画AL欄に載せています。

- 1 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業
- 2 ディスカッション、ディベート
- 3 グループワーク
- 4 プレゼンテーション
- 5 実習、フィールドワーク
- 6 その他(上記1~5に当てはまらないアクティブラーニング)

助産学専攻科 教育課程

区分	授業科目	科目ナンバー	配当年次	単位数		時間数	修了要件
				必修	選択		
基礎助産学	助産学概論	JSP11101	1 前期	1		30	必修6単位
	周産期の生理と病態 I	JSP11102	1 前期	2		30	
	周産期の生理と病態 II	JSP11103	1 前期	2		30	
	母子の心理社会学	JSP11104	1 前期	1		15	
助産診断・技術学	助産診断・技術学 I	JSP11201	1 前期	1		15	必修11単位
	助産診断・技術学 II	JSP11202	1 前期	2		30	
	助産診断・技術学 III	JSP11203	1 前期	1		15	
	助産診断・技術学 IV	JSP11204	1 前期	1		15	
	助産診断・技術学演習 I	JSP11301	1 前期	2		60	
	助産診断・技術学演習 II	JSP11205	1 前期	1		30	
地域母子保健論	JSP11105	1 前期	1		15		
助産管理	助産管理学	JSP11106	1 後期	2		30	
助産学実習	助産学実習 I	JSP11401	1 通年	3		135	必修12単位
	助産学実習 II	JSP11402	1 通年	6		270	
	助産学実習 III	JSP11403	1 通年	2		90	
	地域母子保健実習	JSP11404	1 後期	1		45	
助産学実践関連	助産学研究	JSP11107	1 後期	1		30	必修2単位
	アーバンヘルス特論	JSP11108	1 後期	1		15	
	アートとグリーンケア	JSP12201	1 後期		1	15	選択必修 2単位以上
	アタッチメント・ヨガ	JSP12202	1 後期		1	30	
	アタッチメント・ベビーマッサージ	JSP12203	1 後期		1	30	
修了要件単位数							33単位以上
助産師国家試験受験資格を取得する場合の最低必要単位数							

実務家教員一覧

担当教員	専任／ 非常勤	2019授業科目	科目ナンバー	配当 年次	必修	単 位 数	時 間 数	実務経験の概要	実務経験の反映内容
小神野雅子	専任	助産学概論	JSP11101	1前期	必修	1	30	総合病院で助産師としての臨床経験、病棟係長の経験がある。また健康福祉センターの地域母子保健担当保健師の経験もある。	臨床での実務経験を活かし、講義科目では臨床症例を紹介しながら実践的な講義を行う。演習科目では経験知を交えて、より臨床で求められる内容の指導を行っていく。
		助産診断・技術学Ⅰ	JSP11201	1前期	必修	1	15		
		助産診断・技術学演習Ⅰ	JSP11301	1前期	必修	2	60		
		助産診断・技術学演習Ⅱ	JSP11205	1前期	必修	1	30		
		助産管理学	JSP11106	1後期	必修	2	30		
		アタッチメント・ヨガ	JSP12202	1後期	選択	1	30		
松田 佳子	専任	助産診断・技術学Ⅱ	JSP11202	1前期	必修	2	30	総合病院での助産師臨床経験がある。また、助産院や各種教室の運営など地域における健康教育に携わった。	臨床で経験した事例を踏まえることで、その病態生理や助産管理の理解を深め、助産診断に必要なポイントについて整理できるよう教授する。
		助産診断・技術学Ⅲ	JSP11203	1前期	必修	1	15		
		助産診断・技術学Ⅳ	JSP11204	1前期	必修	1	15		
		助産診断・技術学演習Ⅰ	JSP11301	1前期	必修	2	60		
		助産診断・技術学演習Ⅱ	JSP11205	1前期	必修	1	30		
		助産学研究	JSP11107	1後期	必修	1	30		
		アタッチメント・ベビーマッサージ	JSP12203	1後期	選択	1	30		
中尾 幹子	専任	助産診断・技術学Ⅲ	JSP11203	1前期	必修	1	15	総合病院で助産師として臨床経験および地域での母子訪問活動経験がある。	臨床経験を踏まえながら、最新のデータやエビデンスを盛り込んで教授していく。
		助産診断・技術学演習Ⅰ	JSP11301	1前期	必修	2	60		
		助産診断・技術学演習Ⅱ	JSP11205	1前期	必修	1	30		
		地域母子保健論	JSP11105	1前期	必修	1	15		

授 業 科 目

授業要項と授業内容

凡 例

2019年度のシラバスは次の原則にしたがって編集されています。

1. 授業科目は以下の分野に分かれています。
 - I. 基礎助産学
 - II. 助産診断・技術学
 - III. 地域母子保健論
 - IV. 助産管理
 - V. 助産学実習
 - VI. 助産学実践関連

2. 授業科目は Semester 制による前期科目および後期科目、一年を通して行われる通年科目の2種類に分かれています。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学概論	小神野雅子	講義	1年次 前期	必修	1	30	JSP11101

科目の概要

助産の意義や基本概念を概説し、助産師の役割と責務を遂行するための知識について教授する。助産の変遷や国際比較、母子保健の動向や生命倫理についての学びを通し、自己の助産観、倫理観を養うことを目的とする。

到達目標

- 助産の意義と基本概念を理解し、説明できる。
- 助産の変遷を学び、母子保健の動向や今日の助産師活動を説明できる。
- 助産師教育・助産師業務の国際比較を学び、課題を述べることができる。
- 助産師として職業倫理、生命倫理について自己の倫理観を述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	助産の概念 助産の定義・意義・対象 助産の変遷①
第2回	助産の変遷② 助産の将来
第3回 AL 3	助産の社会文化的側面:産育風習について
第4回	助産師の専門性と責任
第5回	助産学を支える理論
第6回	助産師教育の変遷(日本および諸外国)
第7回	助産の国際比較(助産師教育と助産師業務)
第8回 AL 2	女性の健康と人権
第9回	母子保健の動向と諸制度
第10回 AL 2	倫理とは
第11回 AL 2	生殖補助医療をめぐる問い
第12回 AL 2	AIDと代理出産をめぐる一高度生殖補助医療の問題
第13回 AL 2	人工妊娠中絶をめぐる倫理的問題
第14回 AL 2	出生前診断と「いのちの選別」をめぐる問い
第15回 AL 3	私の助産師観

成績評価方法	定期試験(レポート) 80% 成果物 20%		
教科書	『助産学講座1 基礎助産学[1] 助産学概論』我部山キヨ子、武谷雄二編(医学書院)		
参考文献	なし		
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読んでおくこと(1時間)。		
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習すること(1時間)。		
フィードバックの方法	講義内でのプレゼンテーションにはコメントを返します。質問などには、講義内で対応します。		
備考	助産の歴史や、助産師の役割・責任について学び、助産師としての基本的な姿勢を培います。専門職者としての意識をもち、授業に臨みましょう。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
周産期の生理と病態 I	藤田圭以子	講義	1年次 前期	必修	2	30	JSP11102

科目の概要

妊娠・分娩・産褥・新生児期における正常な病態生理を理解し、生理的経過をアセスメントするための基礎知識を教授する。助産師として正常な妊産婦、新生児の経過診断ができるよう、臨床での具体的な事例や検査データなどを示しながら講義する。

到達目標

- 妊娠期の母体と胎児の生理的变化を理解し説明できる。
- 分娩の3要素、分娩機転、分娩期の母体と胎児の生理的变化を理解し説明できる。
- 産褥婦と新生児の生理的变化を理解し説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	妊娠期の生理と病態①
第2回	妊娠期の生理と病態②
第3回	妊娠期の生理と病態③
第4回	妊娠期の生理と病態④
第5回	分娩期の生理と病態①
第6回	分娩期の生理と病態②
第7回	分娩期の生理と病態③
第8回	分娩期の生理と病態④
第9回	産褥期の生理と病態①
第10回	産褥期の生理と病態②
第11回	産褥期の生理と病態③
第12回	妊娠期の栄養①
第13回	妊娠期の栄養②
第14回	新生児の生理と病態①
第15回	新生児の生理と病態②

成績評価方法	定期試験(筆記) 100%		
教科書	『最新産科学 正常編』荒木勤(文光堂)、『病気がみえる vol.10 産科(第3版)』医療情報科学研究所(MEDIC MEDIA)、『助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学』我部山キヨ子編(医学書院)、『助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学』我部山キヨ子編(医学書院)		
参考文献	『新生児学入門』仁志田博司(医学書院)		
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読んでおくこと(1時間)。		
事後学習(内容・時間)	講義資料を見返して、復習すること(1時間)。		
フィードバックの方法	質問などには講義内に対応します。試験結果は、閲覧可能です。間違ったところを見直してください。		
備 考		オフィスアワー	講義終了後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 ○	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 △	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力 ○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
周産期の生理と病態Ⅱ	堀 謙輔	講義	1年次 前期	必修	2	30	JSP11103

科目の概要

助産師として自ら母体や胎児をアセスメントし、ケアを行うために必要な知識、すなわち、妊娠期・分娩期・産褥期における母体と胎児の異常な経過と分娩や産褥の経過に影響を及ぼす基礎疾患や感染症について、その概要、診断法、治療法についての産婦人科診療ガイドラインを中心とした最新の医学的根拠や講師の臨床経験を織り交ぜて講義する。

到達目標

- 妊娠期の異常とハイリスク妊娠について説明できる。
- 分娩期の正常からの逸脱状態を診断でき、異常分娩の際の処置や対応を説明できる。
- 産褥期ならびに新生児期に異常について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	妊娠期の異常①
第2回	妊娠期の異常②
第3回	妊娠期の異常③
第4回	妊娠期の異常④
第5回	分娩期の異常①
第6回	分娩期の異常②
第7回	分娩期の異常③
第8回	分娩期の異常④
第9回	産褥期の異常①
第10回	産褥期の異常②
第11回	産褥期の異常③
第12回	産褥期の栄養①
第13回	産褥期の栄養②
第14回	ハイリスク新生児の病態①
第15回	ハイリスク新生児の病態②

成績評価方法	定期試験(筆記) 100%		
教科書	『最新産科学 正常編』『最新産科学 異常編』荒木勤(文光堂)、『病気がみえる vol.10 産科(第3版)』医療情報科学研究所(MEDIC MEDIA)、『助産学講座2基礎助産学[2]母子の基礎科学』我部山キヨ子編(医学書院)、『助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学』我部山キヨ子編(医学書院)		
参考文献	『新生児学入門』仁志田博司(医学書院)、『産婦人科診療ガイドライン産科編2017』(日本産科婦人科学会)		
事前学習(内容・時間)	教科書の該当ページを読んでもらうこと(1時間)。		
事後学習(内容・時間)	各自講義内容を復習すること(1時間)。		
フィードバックの方法	質問事項については、授業内で解説します。しばしば講義中に、基礎知識の振り返りや忌憚のない意見を求めて、質問することがあります。		
備 考		オフィスアワー	講義終了後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 ○	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 △	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力 ○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母子の心理社会学	生島 博之	講義	1年次 前期	必修	1	15	JSP11104

科目の概要

女性を取り巻く心理社会状況について、科学的根拠を重視しながら以下の視点から解説する。

- ・女性のライフサイクルと心理社会的諸問題
- ・周産期にみられる心理社会的諸問題と科学的根拠のある援助技法

到達目標

- ・それぞれのライフステージで起こりやすいメンタルヘルスの諸問題を具体的に挙げ、効果的な援助技法を説明できる。
- ・周産期女性のメンタルヘルスを維持・増進させる客観的援助技法を身につける。
- ・母親・父親・子どもと社会のあり方についての問題点を指摘できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	思春期・青年期女性の発達と心理・社会的問題
第2回	妊娠・出産をめぐる諸問題
第3回	妊娠・出産後の女性のメンタルヘルス
第4回	更年期・老年期女性の発達と心理・社会的課題
第5回	家族関係の発達と課題①－母子関係の形成と課題－
第6回	家族関係の発達と課題②－父子関係・夫婦関係と子どもの発達－
第7回	家族と社会－拡大家族から核家族へ(家族の機能不全・病理)－
第8回	母親・父親・子どもと社会

成績評価方法	定期試験(レポート) 100%		
教科書	『助産学講座4 基礎助産学[4]母子の心理・社会学』我部山キヨ子・菅原ますみ編(医学書院)		
参考文献	毎回の授業の中で、関連する図書や論文を紹介しますので事後学習として読んでください。		
事前学習(内容・時間)	次回の授業のテーマを確認し、教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておくこと(1時間)。		
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習し、自主的な発展学習をおこなうこと(1時間)。		
フィードバックの方法	質問などについては、講義内で解説します。		
備 考	意見交換時には、積極的に発言し、授業に参加してください。	オフィスアワー	授業前後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 ○	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 △	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力 △

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学 I	小神野雅子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	15	JSP11201

科目の概要

助産診断、マタニティ診断について教授する。本科目は、妊娠の生理とフィジカルアセスメントの視点を学ぶことにより、妊娠期の助産診断が出来る能力を養うことが目的である。また、妊婦への身体的ケア、心理的ケアの具体的な方法を教授する。科目内での講義をもとに、妊娠期の事例を展開し、助産診断助、助産計画の実際が理解できるよう指導する。

到達目標

- 妊婦の身体・心理・社会的状態について診断し、必要な保健指導や援助の助産計画を立案できる。
- 妊婦と家族への支援内容や援助技術について説明できる。
- 妊娠期の異常やハイリスク状態について理解し、対象の個性に応じた支援を述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	助産診断とマタニティ診断
第2回	妊娠期の助産診断
第3回	妊娠期の援助技術
第4回 AL 2	妊娠初期の助産診断
第5回 AL 2	妊娠初期の助産計画
第6回 AL 2	妊娠中期の助産診断と助産計画
第7回 AL 2	妊娠後期の助産診断と助産計画
第8回	ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 30%		
教科書	『助産学講座5 助産診断・技術学 I』堀内成子編 (医学書院)、『助産学講座6 助産診断・技術学 II [1] 妊娠期』我部山キヨ子編 (医学書院)、『実践マタニティ診断 (第4版)』日本助産診断・実践研究会 (医学書院)		
参考文献	『今日の助産 (第3版)』北川真理子編 (南江堂)		
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読んでおくこと (1時間)。		
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習し提示された課題に取り組む (1時間)。		
フィードバックの方法	妊娠各期の助産過程は各自で記述したものにコメントを返します。		
備 考	事例を用いて、妊娠期の助産過程を展開します。 実習に直結する内容です。気を引き締めて取り組みましょう。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 △	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 △	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力 ○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅱ	松田 佳子	講義・演習	1年次 前期	必修	2	30	JSP11202

科目の概要

正常分娩およびハイリスク分娩の生理とフィジカルアセスメントの視点から、分娩期における助産診断および助産計画立案の思考過程と、産婦およびその家族に対する身体的・心理的ケアの具体的な内容や方法について教授する。

到達目標

- 分娩各期の助産診断、異常分娩時の助産診断の思考を取得できる。
- 分娩各期および異常分娩時の助産計画が立案できる。
- 産婦と家族への支援内容や援助方法について述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	分娩の生理と心理社会的変化
第2回	分娩期の助産診断・フィジカルアセスメント
第3回	分娩介助と産婦の支援、分娩監視装置の判読
第4回 AL 2	正常分娩の助産診断①
第5回 AL 2	正常分娩の助産診断②
第6回 AL 2	正常分娩の助産診断③
第7回 AL 2	正常分娩の助産診断④
第8回	ハイリスク・異常分娩および産科的医療処置
第9回 AL 2	異常分娩の助産診断・助産計画①
第10回 AL 2	異常分娩の助産診断・助産計画②
第11回 AL 2	異常分娩の助産診断・助産計画③
第12回 AL 2	異常分娩の助産診断・助産計画④
第13回 AL 2	異常分娩の助産診断・助産計画⑤
第14回 AL 2	異常分娩の助産診断・助産計画⑥
第15回	まとめ

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 30%		
教科書	『助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期』我部山キヨ子編 (医学書院)、『実践マタニティ診断 (第4版)』日本助産診断・実践研究会 (医学書院)		
参考文献	『今日の助産 (第3版)』北川真理子編 (南江堂)		
事前学習(内容・時間)	該当する教科書の内容を読み、要点をまとめておく (1時間)。		
事後学習(内容・時間)	習得した講義内容については、復習ノートを作成する (1時間)。		
フィードバックの方法	レポートはコメントをつけて授業中に返却します。		
備考	意見交換時には、積極的に発言し、授業に参加してください。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 △	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 △	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力 ○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅲ	中尾 幹子 松田 佳子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	15	JSP11203

科目の概要

産褥期の正常および異常、合併症について理解を促し、身体的・心理社会的状態における診断方法、セルフケア能力に応じた指導や支援に関する助産計画の立案の思考過程、および家族機能の変化や、家庭や社会生活復帰への支援について教授する。

到達目標

- 褥婦の身体・心理・社会的状態について診断し、褥婦のセルフケア能力に応じた指導や支援などの助産計画を立案できる。
- 家族機能の変化を理解し、家庭・社会生活復帰への支援方法を述べることができる。
- 産褥期の異常やハイリスク状態について理解し、対象の個別性に応じた支援の重要性を論ずることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	産褥期の生理と心理社会的変化
第2回	セルフケア能力に応じた指導や支援(退行性変化促進支援、母乳育児支援等)
第3回	家庭・社会生活復帰への支援(育児指導、退院指導等)
第4回	産褥期の異常とその支援
第5回	産後ケアの取り組み
第6回 AL 2	産褥期の助産診断①
第7回 AL 2	産褥期の助産診断②
第8回 AL 2	産褥期の助産診断③

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 30%		
教科書	『助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期』我部山キヨ子編 (医学書院)、『実践マタニティ診断 (第4版)』日本助産診断・実践研究会 (医学書院)		
参考文献	『よくわかる母乳育児』水野克己他 (へるす出版)		
事前学習(内容・時間)	該当する教科書の内容を読み、要点をまとめておく (1時間)。		
事後学習(内容・時間)	習得した講義内容については、復習ノートを作成する (1時間)。		
フィードバックの方法	レポートはコメントをつけて授業中に返却します。		
備考	意見交換時には、積極的に発言し、授業に参加してください。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 △	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 △	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力 ○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学IV	松田 佳子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	15	JSP11204

科目の概要

正常新生児の適応過程ならびに生理的変化とフィジカルアセスメントの視点から、正常新生児の基本的な助産診断、助産計画の思考過程と、出生後の女性と家族が子どもを育てていく上で必要な新生児と乳幼児の生理、かかり易い疾患と病態、健康診査に関する基礎的な知識、家庭生活への適応に関するケアの具体的な内容や方法を教授する。

到達目標

- 新生児期の助産診断、助産計画が立案できる。
- 母児一貫したケアの重要性を認識し、支援内容について述べるができる。
- 新生児に関わる際の態度、留意点について指摘できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	新生児の生理学的適応過程
第2回 AL 2	新生児のフィジカルアセスメント
第3回	出生時・出生後の早期新生児ケア
第4回	家庭生活へのフォローアップおよび乳幼児の健康診査
第5回 AL 2	新生児の助産診断①
第6回 AL 2	新生児の助産診断②
第7回 AL 2	新生児の助産診断③
第8回 AL 2	新生児の助産診断④

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 30%		
教科書	『助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期』横尾京子編(医学書院)、『新生児学入門』仁志田博司(医学書院)		
参考文献	『新生児・周産期 ナースの疾患別ケアハンドブック』戸刈 創(メディカ出版)		
事前学習(内容・時間)	該当する教科書の内容を読み、要点をまとめておく(1時間)。		
事後学習(内容・時間)	習得した講義内容については、復習ノートを作成する(1時間)。		
フィードバックの方法	レポートはコメントをつけて授業中に返却します。		
備 考	意見交換時には、積極的に発言し、授業に参加してください。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 △	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 △	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力 ○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学演習Ⅰ	小神野雅子 松田 佳子 中尾 幹子	演習	1年次 前期	必修	2	60	JSP11301

科目の概要

助産師に求められる実践応力として、周産期（妊娠期～産褥1か月）の妊産褥婦および胎児・新生児の健康診断・健康生活診断に必要な基礎的診断技術や支援技術を教授する。

到達目標

- 妊婦健康診査に必要な診断技術を修得し、妊婦に必要な保健指導を実践できる。
- 安全、安楽な分娩介助技術を修得する。
- 新生児期、産褥期に必要な診断技術を修得し、母乳育児支援に必要な技術を修得する。
- 新生児蘇生法（Aコース）に必要な知識、技術を修得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	妊婦の健康診査と保健指導 ①
第2回 AL 4	妊婦の健康診査と保健指導 ②
第3回 AL 4	妊婦の健康診査と保健指導 ③
第4回	分娩介助技術 ①
第5回 AL 3	分娩介助技術 ②
第6回	妊婦の診断技術
第7回	産婦の診断技術
第8回	産褥の診断技術
第9回	新生児の診断技術
第10回	産褥の援助技術
第11回	妊娠期の超音波診法
第12回	新生児の援助技術 ①
第13回	新生児の援助技術 ②
第14回 AL 4	分娩介助技術 ③
第15回 AL 4	分娩介助技術 ④
第16回	母乳育児支援 ①
第17回	母乳育児支援 ②
第18回 AL 4	分娩介助技術 ⑤
第19回 AL 4	分娩介助技術 ⑥
第20回 AL 4	分娩介助技術 ⑦
第21回	フリースタイル分娩
第22回 AL 3	分娩介助技術チェック
第23回 AL 3	分娩介助技術チェック
第24回 AL 3	分娩介助技術チェック
第25回 AL 3	分娩介助技術チェック
第26回 AL 3	分娩介助技術チェック
第27回	新生児蘇生法 ①
第28回 AL 3	新生児蘇生法 ②
第29回 AL 3	新生児蘇生法 ③
第30回	新生児蘇生法 ④

成績評価方法	小テスト 50% 定期試験(実技) 50%		
教科書	『助産学講座6・7・8』(医学書院)、『母乳育児支援スタンダード(第2版)』NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会(医学書院)、『新生児蘇生法テキスト』細野茂春監修(メジカルビュー社)		
参考文献	『助産師のためのフィジカルイグザミネーション』我部山キヨ子(医学書院)		
事前学習(内容・時間)	既習の基礎看護技術を各自復習しておくこと(1時間)。		
事後学習(内容・時間)	診断技術、分娩介助技術、新生児の援助技術などは繰り返し練習して身に着けること(1時間)。		
フィードバックの方法	技術演習の際は、講義内で適宜、評価コメントを返します。		
備 考	保健指導のロールプレイ、助産技術に関する技術テストを実施します。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 ○	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 ○	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力 ○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学演習Ⅱ	小神野雅子 松田 佳子 中尾 幹子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	JSP11205

科目の概要

女性のライフサイクル各期における健康問題と援助の必要性について教授する。健康教育の在り方および必要性について解説し、実際に両親学級の計画から実施までを行えるよう指導する。また性と生殖にかかわる専門家として、家族計画を実践するために必要な知識と技術を教授する。

到達目標

- ライフサイクル各期における女性の健康問題と援助について説明できる。
- 健康教育の計画、立案、実施、評価のプロセスを実践できる。
- 家族計画指導に必要な知識と技術を身につけ、ロールプレイで実施する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	援助としての相談・教育活動と健康教育
第2回	両親学級について
第3回	女性の健康問題と援助<思春期の健康問題>
第4回	女性の健康問題と援助<成熟期の健康問題>
第5回	女性の健康問題と援助<不妊と生殖補助医療>
第6回	女性の健康問題と援助<更年期、老年期の健康問題>
第7回 AL 3	健康教育の企画 ①
第8回 AL 3	健康教育の企画 ②
第9回 AL 3	健康教育の企画 ③
第10回	家族計画指導について
第11回 AL 4	受胎調節に必要な知識と技術 ①
第12回 AL 4	受胎調節に必要な知識と技術 ②
第13回 AL 3	健康教育の企画 ④
第14回 AL 4	健康教育の実際 ①
第15回 AL 4	健康教育の実際 ②

成績評価方法	成果物 100%		
教科書	『助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ』堀内成子編（医学書院）、『受胎調節指導用テキスト』北村邦夫監修（一般社団法人日本家族計画協会）		
参考文献	適宜、提示する		
事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと（1時間）。		
事後学習（内容・時間）	保健指導案、媒体の作成（1時間）。		
フィードバックの方法	保健指導案は随時担当教員が確認し、コメントを返します。		
備 考	受胎調節指導、両親学級のロールプレイを行います。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 ○	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 ○	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力 ○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域母子保健論	中尾 幹子	講義	1年次 前期	必修	1	15	JSP11105

科目の概要

地域社会で生活する母子と家族が置かれている社会的背景、現状と統計的水準、さらに母子保健の課題について講義する。母子保健活動の実際における制度、関わる職種との連携のあり方、地域母子保健における助産師の役割について説明する。

到達目標

- 母子保健に関する統計資料を分析し、母子保健の現状と動向を考察し説明できる。
- 母子保健行政の仕組みや母子保健施策、地域で生活する母子と家族への支援システムについて述べるができる。
- 地域で生活する母子と家族を支援する助産師の役割、他職種や関係機関との連携・協働について考察し述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL2	地域母子保健の意義
第2回 AL2	母子保健の現状と動向
第3回 AL2	地域母子保健行政の体系
第4回 AL2	地域母子保健活動の実際
第5回 AL2	地域母子保健活動の展開①:家庭訪問・地域子育て支援
第6回 AL2	地域母子保健活動の展開②:児童虐待防止の取り組み
第7回	国際母子保健①
第8回	国際母子保健②

成績評価方法	定期試験(筆記) 100%		
教科書	『助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健』我部山キヨ子編 (医学書院)		
参考文献	『母子保健の主なる統計 平成29年度刊行』公益財団法人母子衛生研究会編 (母子保健事業団) 『国民衛生の動向 2018/2019』厚生労働統計協会 (厚生労働統計協会)		
事前学習(内容・時間)	該当する教科書の内容を読み、要点をまとめておく (1時間)。		
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習しておく (1時間)。		
フィードバックの方法	質問については講義内で解説します。定期試験結果は閲覧可能です。		
備考	多面的な視点から母子保健活動の実際や課題を明らかにできるよう積極的に学んでいきましょう。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 ○	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 ○	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力 △

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産管理学	小神野雅子	講義	1年次 後期	必修	2	30	JSP11106

科目の概要

助産管理の基本的な知識及び、産科病棟・院内助産システム・助産院など実践場所ごとの管理の特徴や課題、リスクマネジメントの方法などを教授する。医療事故については具体的な事例を挙げ、リスクマネジメントのあり方についてより身近な問題として各自が考えられよう講義する。

到達目標

- 助産業務の範囲と法的責任を理解し、倫理的観点を踏まえた助産業務管理に必要な知識を述べることができる。
- 助産業務を効果的・効率的に遂行できる基本的能力および危機管理能力について説明できる。
- 開業助産院や院内助産の開業と運営方法について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	授業ガイダンス 看護管理・助産管理の基本 助産管理の概念
第2回	助産と医療経済 助産業務と関連法規 助産師の法的責任と義務
第3回 AL 3	周産期の医療事故とリスクマネジメント①
第4回 AL 3	周産期の医療事故とリスクマネジメント②
第5回	病院における助産業務管理過程 助産業務管理方法
第6回	病院における助産業務管理
第7回	周産期管理システム (新生児集中治療室)
第8回	周産期管理システム (母体搬送システム オープンシステム)
第9回	院内助産システムについて
第10回	災害時の助産管理 助産師活動
第11回	助産師として考える倫理
第12回 AL 3	望ましい助産ケアと助産管理
第13回	開業助産院における助産管理①
第14回	開業助産所における助産管理②
第15回	まとめ

成績評価方法	定期試験(筆記) 100%		
教科書	『助産学講座10 助産管理』我部山キヨ子編 (医学書院)		
参考文献	『助産師業務要覧』福井トシ子 (日本看護協会出版会)		
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読んでおくこと(1時間)。		
事後学習(内容・時間)	講義内容の復習をすること(1時間)。		
フィードバックの方法	質問については講義内で解説します。定期試験の結果は閲覧可能です。間違った部分を復習してください。		
備考	助産管理と聞いても、イメージしにくいかと思いますが、助産師としては理解しておくべき内容ばかりです。楽しく管理を学びましょう。		オフィスアワー オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学実習 I	小神野雅子 松田 佳子 中尾 幹子	実習	1年次 通年	必修	3	135	JSP11401

科目の概要

助産診断・技術学の学びを基に、妊娠期の母児とその家族に対して助産過程を展開し、必要な援助を行えるよう指導する。また、外来における妊婦管理、病棟における産婦管理、母児管理の実際の見学を通し、施設における助産管理の実際や助産業務の範囲について理解できるよう指導する。

到達目標

- 妊娠期の母児とその家族に対して助産過程を展開できる。
- 妊娠各期の対象に必要な保健指導案を作成し、実施できる。
- 病棟、外来における助産業務管理・運用を見学し、助産管理の実際や助産業務管理について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間:下記のいずれかで行う。 助産学実習 I (2週間)</p> <p>2019年7月8日(月)～7月19日(金) 2019年8月5日(月)～8月16日(金) 2019年8月26日(月)～9月6日(金)</p> <p>○実習施設:下記のいずれかで行う。 市立川西病院 関西労災病院 第二協立病院 サンタクルス ザ タカラヅカ 南草津野村病院 プリマ助産院</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2019年度 助産学実習 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2019年度 助産学実習 実習要項」に記載する。		
教科書	実習開始時に提示する。		
参考文献	実習開始時に提示する。		
事前学習(内容・時間)	関連する講義・演習内容を復習する(1時間)。		
事後学習(内容・時間)	実習記録をまとめ自己評価を行う(1時間)。		
フィードバックの方法	実習中は適宜、質問・相談を受けます。実習記録は、コメントをつけて返却しますので、見直して追加修正してください。		
備 考		オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学実習Ⅱ	小神野雅子 松田 佳子 中尾 幹子	実習	1年次 通年	必修	6	270	JSP11402

科目の概要

分娩期、産褥期、新生児期にある母児とその家族に対して助産過程を展開し、必要な援助を行えるよう指導します。本実習では10例程度の正常分娩の直接介助を行います。分娩直接介助を通じて、正常な分娩経過を理解し診断する能力、安全・安楽な分娩に導くための援助方法を習得できるよう指導します。

到達目標

- 分娩期、産褥期、新生児期の経過診断、健康生活診断に必要な情報を収集しアセスメント、診断、予測を行うことができる。
- 産婦、褥婦、新生児への身体的及び心理的援助の具体的方法や内容が理解でき助産計画を立案、実施できる。(分娩介助を含む)
- 受け持ち対象者と家族に必要な保健指導が実施できる。
- 産婦および褥婦、新生児の人権尊重の重要性を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画								
AL 5	<p>○実習期間:下記のいずれかで行う。 助産学実習Ⅱ(6週間) 2019年7月22日(月)～11月29日(金)の内の6週間</p> <p>○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略)</p> <table border="0"> <tr> <td>市立川西病院</td> <td>関西労災病院</td> </tr> <tr> <td>第二協立病院</td> <td>サンタクルス ザ タカラヅカ</td> </tr> <tr> <td>南草津野村病院</td> <td>小阪産病院</td> </tr> <tr> <td>阪南中央病院</td> <td>八尾市民病院</td> </tr> </table> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2019年度 助産学実習 実習要項」による。</p>	市立川西病院	関西労災病院	第二協立病院	サンタクルス ザ タカラヅカ	南草津野村病院	小阪産病院	阪南中央病院	八尾市民病院
市立川西病院	関西労災病院								
第二協立病院	サンタクルス ザ タカラヅカ								
南草津野村病院	小阪産病院								
阪南中央病院	八尾市民病院								

成績評価方法	別途配布する「2019年度 助産学実習 実習要項」に記載する。		
教科書	実習開始時に提示する。		
参考文献	実習開始時に提示する。		
事前学習(内容・時間)	必要な援助技術について練習すること(1時間)。		
事後学習(内容・時間)	実習記録をまとめ自己評価を行う(1時間)。		
フィードバックの方法	実習中は適宜、質問・相談を受けます。実習記録は、コメントをつけて返却しますので、見直して追加修正してください。		
備 考		オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学実習Ⅲ	小神野雅子 松田 佳子 中尾 幹子	実習	1年次 通年	必修	2	90	JSP11403

科目の概要

1名の対象者を妊娠中から受け持ち、妊婦健康診査、保健指導の実施、分娩介助、産褥1か月健診等を通して、アセスメントできるよう指導すると共に、対象者の個別性を考慮した継続的な支援を行えるよう導く。
--

到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ● 妊娠期から産褥・新生児期(乳児期)までを継続して受け持ち、退院後の生活を考慮しながら家族を含めた助産過程を展開することで、継続看護の重要性や産後ケアの重要性を認識し説明できる。 ● 継続して支援することで、生活圏における母子を支援する他職種、関連機関との連携の在り方を説明できる。 ● 継続受け持ちを通して、助産師としての責任や専門性を認識し、自身の助産師観を述べることができる。
--

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間:下記のいずれかで行う。 助産学実習Ⅲ(8週間) 2019年7月22日(月)～10月25日(金)</p> <p>○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 市立川西病院 関西労災病院 第二協立病院 サンタクルス ザ タカラヅカ 南草津野村病院</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2019年度 助産学実習 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2019年度 助産学実習 実習要項」に記載する。		
教科書	実習開始時に提示する。		
参考文献	実習開始時に提示する。		
事前学習(内容・時間)	関連する講義・演習内容を復習すること(1時間)。		
事後学習(内容・時間)	実習記録をまとめ自己評価を行う(1時間)。		
フィードバックの方法	実習中は適宜、質問・相談を受けます。実習記録は、コメントをつけて返却しますので、見直して追加修正してください。		
備 考		オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた産後ケアを探求できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域母子保健実習	小神野雅子 松田 佳子 中尾 幹子	実習	1年次 後期	必修	1	45	JSP11404

科目の概要

母子保健活動としての褥婦、新生児の訪問指導や地域組織活動、地域子育て支援の実際を学ぶ実習科目である。それぞれの地域での課題をアセスメントすることで、地域的な視点からの母子保健活動の基礎を理解できるよう指導する。

到達目標

- 大阪市の各地域における母子保健上の課題について、情報収集を行い考察し、説明できる。
- 産前産後ケアセンターでの取り組みや利用者の実態を知り、包括的な母子支援について自身の考えを述べるができる。
- 助産院における助産師活動の実際を学び、地域における助産師の役割について述べる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間:下記のいずれかで行う。 地域母子保健実習(1週間) 2019年7月8日(月)～12月6日(金)の内の5日間</p> <p>○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 大阪市内保健センター プリマ助産院 産前産後ケアセンター</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2019年度 助産学実習 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2019年度 助産学実習 実習要項」に記載する。		
教科書	実習開始時に提示する。		
参考文献	実習開始時に提示する。		
事前学習(内容・時間)	関連する講義内容を復習。担当地域の情報収集をする(1時間)。		
事後学習(内容・時間)	実習記録をまとめ自己評価する(1時間)。		
フィードバックの方法	実習中は適宜、質問・相談を受けます。		
備 考	病院実習とは違う視点で、助産師の役割や母子保健について学べる実習です。目的を明確に持って、実習に参加しましょう。積極的に意見交換をして、学びを深められるようにしてください。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学研究	松田 佳子	講義	1年次 後期	必修	1	30	JSP11107

科目の概要

助産学における研究の意義や重要性が理解でき、研究的視点に立ったエビデンスに基づくケアの利益について、父親・母親・新生児を含めた家族や助産師そして社会の観点から考え、研究計画の立案、および論文作成に必要な思考過程を教授する。

到達目標

- 研究テーマに関連する文献検索を行い、クリティークを通して理論的推論を発達させ、研究活動が展開できる。
- 事例研究として対象に実施した助産ケアを振り返り、エビデンスに基づくケアの利益について分析・考察できる。
- 事例研究の成果を発表し、活発的な質疑応答を行うことができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	イントロダクション:助産学研究とは
第2回	研究のアプローチ:質的研究・量的研究・事例研究
第3回	倫理的配慮、文献検索
第4回	文献クリティーク①
第5回 AL 3	文献クリティーク②
第6回	文献検索・文献検討①
第7回	文献検索・文献検討②
第8回	研究計画書の立案
第9回 AL 2	事例研究の分析・展開①
第10回 AL 2	事例研究の分析・展開②
第11回 AL 2	事例研究の分析・展開③
第12回 AL 2	事例研究の分析・展開④
第13回 AL 2	事例研究の分析・展開⑤
第14回 AL 4	研究発表①
第15回 AL 4	研究発表②

成績評価方法	成果物 100%		
教科書	適宜資料を配布します。		
参考文献	『わかりやすいケーススタディーの進め方』松本孚（照林社）、『看護における研究』南裕子（日本看護協会出版社）		
事前学習（内容・時間）	講義時に紹介する文献を次回講義までに読んでおくこと。（1時間）		
事後学習（内容・時間）	講義終了時に出す課題についてレポートを作成する。（1時間）		
フィードバックの方法	課題は個別的に指導し返却します。		
備 考	意見交換時には、積極的に発言し、授業に参加してください。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 ○	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 △	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力 ○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アーバンヘルス特論	日高 庸晴	講義	1年次 後期	必修	1	15	JSP11108

科目の概要

思春期青年期の健康課題として、性感染症・H I V / A I D S といった性に関わること、違法ドラッグ・危険ドラッグなどの薬物に関することや児童虐待やメンタルヘルスなど、都市部在住の若年層に集中的に観測される健康課題・社会的課題がある。講義では多領域の知見と理論、実証データや事例を通じて、これらについて解説する。

到達目標

- 差別やスティグマに直面しがちな健康課題・社会的課題について、疫学的視点を持って説明できる。
- 実証研究によって示されるエビデンスに加えて、アクションリサーチなどの介入研究によって示される知見を通じて、考察を述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	イントロダクション
第2回 AL 6	都市部の若者における薬物使用の現状
第3回 AL 6	わが国の性教育の変遷と都市部におけるH I V感染リスク行動の現状
第4回 AL 3	HIV/STI予防介入の実際
第5回 AL 6	性的指向・性自認・性別表現と健康課題
第6回 AL 2	性暴力被害の現状と支援
第7回 AL 2	格差・不平等・健康課題
第8回	講義のまとめと振り返り

成績評価方法	定期試験(レポート) 100%		
教科書	適宜配付資料を用意します。		
参考文献	適宜紹介します。		
事前学習(内容・時間)	第1回イントロダクションおよび講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習をすること(30分)。		
事後学習(内容・時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること(30分)。		
フィードバックの方法	質問やコメントに対しては講義内でシェアし、解説します。		
備 考	講義中の私語・携帯電話の使用等は厳禁とします。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 ○	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 △	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力 ○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アートとグリーフケア	坂下 裕子	講義・演習	1年次 後期	選択	1	15	JSP12201

科目の概要

周産期は、妊娠の喜びと出産・育児への期待に満ち溢れるさなかで、深刻な告知がなされたり、思いがけない別れが訪れたりする時期でもある。そのとき、母親のやり場のないグリーフにどう寄り添うことができるか。母親や家族へのグリーフケアのあり方を解説し、母親自ら行うグリーフワークや医療者自身のグリーフケアについても説明する。

到達目標

- 喪失に伴うさまざまな反応に関する「知識」について説明できる。
- 母親の心の揺れに寄り添うために必要な「技能」について解説できる。
- 答えのない問いや、解決のつかない問題に対する「考え方」を類別できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	グリーフとはなにか グリーフケアとはなにか 定義として
第2回	グリーフケアにおける日本語のはたらき 言葉が及ぼす影響について
第3回	グリーフケアにおける非言語コミュニケーション 言葉を越えた対話の要素
第4回 AL 2	グリーフケアの基本「きく」ということ 5つのきき方をもとに
第5回	周産期のグリーフとグリーフケア その特徴と留意点
第6回	遺族の手記『天国のお友だち』を通して 登場人物の感情への洞察
第7回	周産期の死別体験者の「語り」の解釈 インタビュー録をもとに
第8回	子どもの遺族が描き出したグリーフプロセス グリーフの可視化・図式化
第9回 AL 2	医療者自身のセルフケア グリーフ体験と向き合う
第10回 AL 3	産科における非言語的ケア お母さんと縫うための産着制作
第11回	遺族のピアサポートの成り立ちと有効性
第12回	ゲストによる「産科における死別および有効なケア」に関する体験発表
第13回 AL 4	産科における死別体験者との意見交換
第14回 AL 3	グリーフワークの実践 「ともに生きるりんごの木」制作
第15回	総括 グリーフケアとしてできることと今後の課題

成績評価方法	定期試験(レポート) 80% 成果物 20%		
教科書	『天国のお友だち』坂下ひろこ (コモンズ)		
参考文献	『NICUとこころのケア 家族のこころによりそって』橋本洋子 (メディカ出版)		
事前学習(内容・時間)	教科書のグリーフケアに相当する箇所を特定し、要点をまとめる(1時間)。		
事後学習(内容・時間)	講義終了時に出す課題についてレポートを作成する(30分)。		
フィードバックの方法	事前学習の課題は毎回発表していただき、個別にコメントします。		
備 考		オフィスアワー	授業終了後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 ○	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 ○	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力 △

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アタッチメント・ヨガ	小神野雅子	講義・演習	1年次 後期	選択	1	30	JSP12202

科目の概要

本科目は妊娠期から子育て初期段階の親子を支援するために、ヨガの呼吸法やポーズを取り入れながら、アタッチメントを育む方法とその背景となる知識を教授する。発達心理学の知識と共にカウンセリングの基礎も学び、実践的な技能を教授する。科目終了時には、アタッチメントヨガforマタニティ&ベビーのインストラクター資格の取得に必要な知識とスキル、技能を習得し、資格を取得することが可能となる。

到達目標

- アタッチメントヨガに必要な発達心理学、カウンセリングの基礎について述べるができる。
- アタッチメントヨガのインストラクター資格取得に必要なスキルを修得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション
第2回	アタッチメント理論
第3回	マタニティ アタッチメント
第4回	ベビー アタッチメント
第5回	アタッチメントヨガ 理論
第6回 AL3	アタッチメントヨガ 実技 マタニティ①
第7回 AL3	アタッチメントヨガ 実技 マタニティ②
第8回 AL2	カウンセリング & 対人援助
第9回 AL3	アタッチメントヨガ 実技 ベビー①
第10回 AL3	アタッチメントヨガ 実技 ベビー②
第11回	教室運営
第12回	ヨガ 概論
第13回	企画作りワーク
第14回 AL4	インストラクション演習
第15回	まとめと振り返り

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 定期試験(実技) 50%		
教科書	『アタッチメント・ヨガテキスト』『アタッチメント・ヨガ概論』アタッチメント育児協会		
参考文献	なし		
事前学習(内容・時間)	アタッチメントベビーマッサージの発達心理学の内容を復習してください。ストレッチをして講義に望みましょう(1時間)。		
事後学習(内容・時間)	講義内容の復習、実技の自己練習をしてください(1時間)。		
フィードバックの方法	質問については講義時間内に解説します。		
備考	テストに合格すると日本アタッチメント育児協会のインストラクター認定資格を申請できます。 ヨガをして、自分の心と身体に向き合う時間を楽しんでください。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 ○	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 △	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力 ○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アタッチメント・ベビーマッサージ	松田 佳子	講義・演習	1年次後期	選択	1	30	JSP12203

科目の概要

アタッチメント理論について理解し、ベビーマッサージが母親と子どもの非言語的コミュニケーションツールとして母子関係の形成に相互的に役立つこと、またインストラクターの資格を取得するためのベビーマッサージの意義、効用、基本的な手技について教授する。

到達目標

- 発達心理学について説明できる。
- 根拠に基づいたベビーマッサージの理論を指摘できる。
- アタッチメント・ベビーマッサージのインストラクター資格取得に必要な知識とスキルを習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション
第2回	アタッチメント育児①
第3回	アタッチメント育児②
第4回	育児に役立つ発達心理学①
第5回	育児に役立つ発達心理学②
第6回 AL3	「アタッチメント・発達心理」ワーク
第7回	自己心理学
第8回 AL3	コフートワーク 振り返りとワークの意義
第9回	育児現場における自己対象体験カウンセリング
第10回	ベビーマッサージ理論
第11回	アタッチメントベビーマッサージ インストラクション①
第12回	アタッチメントベビーマッサージ インストラクション②
第13回 AL4	インストラクション演習①
第14回 AL4	インストラクション演習②
第15回	まとめ

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 定期試験(実技) 20%		
教科書	「アタッチメント・ベビーマッサージ」テキスト		
参考文献	なし		
事前学習(内容・時間)	該当するテキストの内容を読んでおく(1時間)。		
事後学習(内容・時間)	習得した講義内容については、復習ノートを作成する(1時間)。		
フィードバックの方法	授業内で解説を行います。インストラクションについては実施後に評価コメントをします。		
備 考		オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	△	○

2019年度 シラバス (授業計画)

編集・発行 宝塚大学 大阪梅田キャンパス
〒530-0012
大阪市北区芝田一丁目13番16号
TEL 06-6376-0853
FAX 06-6373-4829
発行日 2019年4月1日